大学院国際学研究科

氏　名	藤田　晃（ふじた　あきら）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	FUJITA, Akira	学　位	
専門分野 研究テーマ	経営工学、応用統計学、自律的作業集団の意思決定に関する研究 非営利組織の地域経済に及ぼす影響について		
所属学会	（社）日本経営工学会、日本人間工学会、日本社会情報学会、経営情報学会、 （社）日本数学教育学会		

略歴	学歴	1970 年 3 月　東京理科大理学部Ⅱ部数学科 1999 年 10 月　東京都立科学技術大学大学院工学研究科工学システム専攻満期退学
	主な職歴	1981 年 4 月～1992 年 3 月　東京都立科学技術大学工学部管理工学科助手 1990 年 7 月～1990 年 10 月　マクォリー大学（オーストラリア、シドニー）客員研究員 1992 年 4 月～1997 年 3 月　大妻女子大学社会情報学部助教授 1997 年 4 月～　桜美林大学 経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本社会情報学会評議員、日本人間工学会評議員	
主要担当科目	（大学院）　企業とデータ解析 （学部）　企業の意思決定と OR、コンピュータ利用の経営数学	

教育研究等活動

＜研究＞第一線の作業者集団に権限を委譲することにより、職場の活性化を図る自律的作業集団について、研究を進めて来た。近年は非営利組織の職場組織を研究対象に加え、調査を行っている。

＜教育＞上記の主要担当科目はいずれも統計学をベースとしている。学生が統計学の基礎を「理解して学ぶ」ことができるように、種々の工夫を行って来た。それらを下記の「近年の業績」、（その他活動）の 5、6 にまとめた。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「「自主管理システム」の提案とその検証―現業部門における「自主管理システム」に関する研究」　（第 1 報）（共、『（社）日本経営工学会誌』、27 巻 4 号）	1977.3
	2. 「「自主管理システム」の設立要件について―現業部門における「自主管理システム」に関する研究」　（第 2 報）（共、『（社）日本経営工学会誌』、30 巻 1 号）	1979.6
	3.「欲求パタン別に分類された作業者グループの内部分析とグループ間の関連分析」（共、『（社）日本経営工学会誌』、36 巻 1 号）	1985.4
	4.『統計学概論』　（共、産業能率短期大学）	1982.3
	5.『実務統計学』　（共、産業能率短期大学）	1983.3
近年の業績	（論文）	
	1.「町田市の市民活動の現状について」　（『桜美林大学産業研究所年報』第 20 号）	2002.3
	2.「TV 画面における字幕情報について」　（『東京工芸大学芸術学部紀要』、Vol.5）	1999.3
	（その他活動など）	
	1. 講演「やさしいリスクと標準偏差のはなし」　（桜美林大学公開講座）	2002.11
	2. 講演「分散投資の原理について」　（異業種交流会）	2000.11
	3. 寄稿「何事も身を粉にして取り組まれた矢田先生」（『（社）日本経営工学会　経営システム誌』、Vol.8, №1）	1998.4
	4. 寄稿「こんどこそ本物になれるか自律的作業集団」（桜美林大学産業研究所、『産研通信』、№46）	1999.3
	5. 寄稿「統計学を理解して学ぶために」　（桜美林大学産業研究所、『産研通信』、№50）	2001.3
	6. 寄稿「リスクと標準偏差」　（桜美林大学産業研究所、『産研通信』、№53）	2002.3

氏　名	藤田（ふじた）　慶喜（けいき）	所　属	経営政策学部
		職　位	副学長・教授
	FUJITA, Keiki	学　位	
専門分野 研究テーマ	持続的国際産業開発		
所属学会	日本マクロエンジニアリング学会、日本鉄鋼協会、人間環境活性化研究会		

略歴	学歴	1959 年 3 月　東京大学理学部卒業
	主な職歴	1959 年 4 月～ 1976 年 3 月　新日本製鉄広畑製鉄所（工場長、課長） 1976 年 4 月～ 1980 年 3 月　同　本社技術開発部課長 1980 年 4 月～ 1981 年 3 月　通産省大型プロ原子力製鉄技術研究組合副部長 1981 年 4 月～ 1988 年 10 月　新日本製鉄エンジニアリング本部部長 1988 年 11 月～1993 年 12 月　国連工業開発機関工業技術推進部長、特別方策活動部長 1994 年 1 月～ 1997 年 3 月　中央大学兼任講師、日鉄プラント設計顧問 1997 年 4 月～　桜美林大学教授 2001 年 3 月～　同　副学長
	受賞	1982 年　日本鉄鋼協会賞（山岡記念賞）
学界活動 社会活動		産業環境管理協会参与、科学技術動向研究センター科学動向調査員、日本マクロエンジニアリング学会理事、国連開発計画専門家、人間環境活性化研究会理事、国際環境 NGOFoEJ 理事
主要担当科目		（大学院）　人間と環境 （学部）　生産管理論、資源循環論、企業海外進出政策、国際ビジネス入門

教育研究等活動

＜研究＞鉄鋼技術を基礎として研究を行なってきたが、最近では、環境、資源循環、生産管理、技術移転を中心に、国際経験を活かしながら、持続的産業開発問題に研究の比重を移している。

＜教育＞学部学生には、製造および国際的経験や知識、事例を多く交えて、好奇心と探求心を掘り起こし、マクロ的、又グローバルな視野を持たせることに重点を置いている。準備に時間はかかるが、効果が大きいと感じている。

一方、院生に対しては、専門知識を与えつつ、研究方法の修得や研究態度の陶冶をめざし、細部にわたる予習を徹底させ、同時に専門家や文献紹介に力を入れて専門領域を広め、深めてさせている。

研究助成

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「高温ガス炉開発による新製鉄法の概念設計」（共、『山岡記念賞』1982 年度、日本鉄鋼協会）	1982.3
	2.『Multilateral Industrial Cooperation for the next century』（単、Eastern Regional Organization for Planning and Housing2000）	2002.5
近年の業績	（著書）	
	1.『鉄鋼便覧（ペレット）』（共、丸善）	1979.10
	2.『Model Steelworks Handbook』（共、Princeton University）	1992.3
	3.『国際ビジネス入門』（共、日新出版）	1998.10
	4.『人間と環境』（共、日新出版）	2000.4
	（論文）	
	1.「日本鉄鋼業における環境保全対策」（単、『マクロレビュー』Vol 10 第 2 号、日本マクロエンジ学会）	1998.3
	2.「Promotion Energy Efficiency Investment in Japan and International Cooperation」（単、『ESCAP 中央アジア省エネ 2000』）	2000.5
	（学会発表）	
	1.「途上国間協力」（単、国連開発途上国間協力会議 Geneva）.	1993.7
	2.「持続的工業開発」（単、国際情報知識学会）	1994.10
	3.「新土壌改良材」（共、世界砂漠技術会議）	1995.10
	4.「環境先進国事情とその国際的役割」（単、日本プロジェクト産業協議会）	2000.6
	（その他活動等）	
	1. 講演「工業開発と環境の調和」（産業環境管理協会講座）	1997.3
	2. 講演「工業化におけるコンフリクトレゾリュション」（Leadership for Environment and Development 講座）	1998.8
	3. 講演「共生問題」（単、桜美林大学/北京大学学術座談会）	2001.11

氏　名	福嶋（ふくしま）　輝彦（てるひこ）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	FUKUSHIMA, Teruhiko	学　位	学術博士
専門分野 研究テーマ	国際関係論 オーストラリア地域研究、日豪関係史、戦後日本外交		
所属学会	日本国際政治学会、オーストラリア学会、オーストラレイジア政治学会		

略歴	学歴	1978 年 3 月　東京大学教養学部卒業 1981 年 3 月　　同　社会学研究科修士課程修了 1989 年 3 月　　同　博士課程単位取得満期退学 1996 年 4 月　オーストラリア国立大学太平洋アジア研究所博士課程修了
	主な職歴	1989 年 4 月～1994 年 3 月　法政大学社会学部兼任講師 1991 年 4 月～1993 年 4 月　桜美林大学国際学部専任講師 1993 年 4 月～2000 年 3 月　同　助教授 2000 年 4 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		オーストラリア学会事務局長
主要担当科目		（大学院）　国際政治論Ⅰ・Ⅱ （学部）　オセアニアの政治と経済、アジア英連邦論、政治過程論

教育研究等活動

＜研究＞今日のオーストラリアの政治･外交を詳細に追跡するとともに、オーストラリアの政治文化のモデル化を試みている。一方、博士論文で日本の経済外交におけるオーストラリアの役割を論じたことから、同時並行して、戦後日本の外交、特に経済面におけるそれの展開に注目している。

＜教育＞学部では、オーストラリア、アジアにおけるイギリスの帝国経営、政策形成過程に関するモデルと事例といった多岐に渡る分野を教えているが、学生にわかりやすく説明することを旨としている。また、学部ゼミや大学院では、オーストラリア時代に授けられた、徹底的な事実検証を強力に指導している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「『貿易転換政策』と日豪貿易紛争（1936 年）　― オーストラリア政府の日本製織物に対する関税引き上げをめぐって ―」　（単、『国際政治』68 号、日本国際政治学会）	1981.8
	2.「戦後日本の貿易戦略におけるオーストラリアの役割 ― 占領軍総司令部のスターリング貿易支払協定の運用の転換：1948-50 年 ―」（単、『オーストラリア研究』第 8 号、オーストラリア学会）	1996.12
	3.「政治」（単、『オーストラリア入門』東京大学出版会）	1998
近年の業績	（著書） 1.『ポスト冷戦期の環太平洋の安全保障』　（共、三嶺書房）	1999
	（論文） 1.「ハワード自由・国民党連立政権による政治運営」（単、『海外事情』第 47 巻第 9 号、拓殖大学海外事情研究所）	1999.9
	2.「日本の対外関係におけるオーストラリアの位置づけ―アジア太平洋における日豪二国間関係の歴史的展開を中心に－」（単、『アジア太平洋における日豪協力』富士総合研究所）	1999.12
	3. グローバリゼーションとオーストラリア」（単、『アメリカ太平洋研究』Vol.1、東京大学大学院総合文科研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター）	2001.3
	（翻訳） 1. R・ナイル、C・クラーク『図説世界文化地理大百科　オセアニア』　（共、朝倉書店）	2000.6
	（学会発表） 1. ‘Australia’s Role in Japan’s Foreign Relations in the Second Half of the 20th Century’,（単、The Second University of Tokyo/ University of Sydney International Symposium）	1998.10

氏　名	井上（いのうえ）　隆一郎（りゅういちろう）（朗（あきら））	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	INOUE, Ryuichiro (Akira)	学　位	
専門分野 研究テーマ	国際経営戦略、国際貿易		
所属学会	多国籍企業研究会、国際ビジネス研究学会、アジア経営学会		

略歴	学歴	1957 年 3 月　関西学院大学経済学部卒業
	主な職歴	1965 年 1 月～1993 年 8 月　日本貿易振興会（ジェトロ）に勤務。 その間､パリ駐在（'71～'75）、アムステルダム駐在（'81～'84）、主任調査研究員（'84～'93）などを経る。 1991 年 4 月～1993 年 3 月　早稲田大学講師 1992 年 4 月～1993 年 3 月　立命館大学大学院客員教授 1992 年 4 月～1993 年 3 月　青山学院大学大学院講師 1993 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動	在オランダ日本商工会議所事務局長（1981 年～1984 年）	
主要担当科目	（大学院）　国際経営戦略 （学部）　貿易論、国際企業戦略	

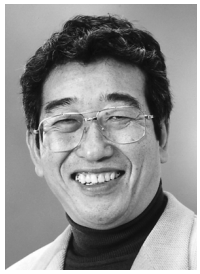
教育研究等活動

国際協力事業団によるタイ工業開発調査リーダー（'87～'90 年）
日本貿易振興会（ジェトロ）客員研究員として多数のプロジェクトに参加。野村総合研究所、世界平和研究所、機械振興協会、アジア経済研究所などの研究プロジェクトに参加。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『グローバル企業の盛衰』　（単、ダイヤモンド社）	1993
	2.『巨大企業の没落』　（単、朝日文庫）	1994
	3.『アジアのダイナミック企業』　（単、NTT 出版）	1997
近年の業績	1.「危機を乗り切るアジア企業」　（単、月刊『ジェトロセンサー』連載）	2000.6～2003.8
	2.「躍進､中国企業」　（単、同上）	2002.9～連載中
	3. 日本貿易振興会、ベトナム裾野産業 FS 調査	2002.2～2002.3
	4. エンジニアリング振興協会、国際競争力委員会委員長	2001

氏　名	石井（いしい）　敏（さとし）	所　属	経済学部
		職　位	教授
	ISHII, Satoshi	学　位	経済学修士
専門分野 研究テーマ	経済政策 マクロ経済政策の理論的、実証的研究		
所属学会	日本経済政策学会、日本財政学会、公共選択学会		



略歴	学歴	1967 年 3 月　東京都立大学法経学部卒業 1969 年 3 月　　同　　大学院経済政策専攻科修士課程修了
	主な職歴	1969 年 4 月～1972 年 3 月　東京都立大学助手 1972 年 4 月～1984 年 3 月　桜美林大学講師 1984 年 4 月～1989 年 3 月　　同　　助教授 1989 年 4 月～　　同　　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　マクロ経済論 （学部）　　経済政策、経済変動論

教育研究等活動

＜研究＞石油危機以降の日本経済を主としてマクロ経済政策の観点から研究してきたが、最近は９０年代以降の長期不況の分析に重点を置いている。

＜教育＞基本的理論の理解と現実の経済の動きを理解させることにつとめている。できるだけ統計資料を活用して数量的、視覚的な理解ができるように心がけている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. 金指基編『経済変動論』　（共、八千代出版）	1996
	2. 桜美林大学産業研究所編『現代の規制緩和と経営戦略』　（共、中央経済社）	1994
	3.「90 年代長期不況は終わったか」　（単、『桜美林エコノミックス』44 号）	2000.12
近年の業績	（論文）	
	1.「長期不況は終わったか」　（単、『桜美林エコノミックス』44 号）	2000.12
	2.「90 年代日本経済の長期不況の検討」　（単、『産業研究所年報』19 号）	2001.3
	（学会発表）	
	1.「日本経済の長期不況の原因；１つの捉え方」　（日本経済政策学会）	2002.6

188－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	石山　傳（いしやま　つたえ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	ISHIYAMA, Tsutae	学　位	商学修士
専門分野 研究テーマ	会計学、無形資産の価値会計		
所属学会	日本会計研究学会、原価計算研究学会、日本経営学会		

略歴	学歴	1961 年 3 月　中央大学大学院修士課程修了
	主な職歴	1968 年 4 月～1984 年 5 月　桜美林大学助教授 1984 年 6 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（学部）　現代会計入門、原価計算論	

教育研究等活動

＜研究＞
＜教育＞

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『現代原価計算論』　（単、多賀出版） 2.『簿記論』　（共、税務経理協会）	1979.4 1980.2
近年の業績	（論文） 1.「グローバル・スタンダードに対応した日本の会計基準」 （単、『経営政策論集』）	2001.12

氏　名	岩井（いわい）　清治（きよはる）	所　属	経済学部
		職　位	教授
	IWAI, Kiyoharu	学　位	経済学博士
専門分野 研究テーマ	経営史 ドイツ職業・人材教育史、ドイツ企業環境マネジメント人材養成		
所属学会	経営史学会、経営行動研究学会、日本商業教育学会、日本国際開発学会		

略歴	学歴	1962 年 3 月　桜美林短期大学英文科卒業 1964 年 3 月　明治学院大学経済学部卒業 1966 年 3 月　明治大学大学院商学研究科修士課程修了 1969 年 3 月　同　博士課程単位取得満期修了 1972 年 10 月～1976 年 3 月　ドイツ・フライブルク大学留学 1985 年 6 月～9 月　文部省短期海外研修（西ドイツ） 1994 年 10 月　経済学博士（東洋大学）
	主な職歴	1966 年 4 月～1968 年 3 月　桜美林大学文学部助手 1987 年 4 月～　同　経済学部教授 1990 年 4 月～1994 年 3 月　同　商学科長 1994 年 4 月～1995 年 3 月　同　国際学研究所次長 1995 年 4 月～2000 年 3 月　同　副学長 2002 年 4 月～　同　産業研究所長
	受賞	1998 年　日本国際開発学会賞
学界活動 社会活動	経営行動研究学会常任理事、日本商業教育学会理事	
主要担当科目	（大学院）　比較経営史、国際貿易 （学部）　経営史入門、ヨーロッパ経済論	

教育研究等活動

＜研究＞ドイツにおける企業史研究の一環として人材養成の歴史をテーマとし、最近では、企業における環境保全対策と環境マネジメント人材養成、さらに環境保全対策としての環境保全分野専攻高等教育の特徴をドイツと日本とを比較して研究している。今年度より３年間の科学研究費の補助認可を受けたので、ドイツでの現地企業調査を行うつもりである。また、昨年春学期のドイツ・ブレーメン大学技術・職業教育研究所での海外研修の経験を参考に、本学産業研究所における研究活動についても比較検討し、新たな活動領域を模索していきたいと願っている。

＜教育＞ゼミナールでは、できるだけドイツに関連したテーマについて経済学部研究発表大会に参加するよう指導し、また海外でのフィールドワークにも積極的に参加するよう指導している。スキル学習の訓練と、論文作成指導上、論理性の学習に重点をおいて授業を行っている。講義授業では、口述講義調はできるだけ少なくし、資料・文献等を与えて、自らの解答を記述させてそれを毎回点数評価する方法をとっている。授業では折に触れて職業あるいは大学院進学等のテーマにも触れ、キャリアガイダンスの一環として、実務界での経験豊富な専門職業人を授業に招くことも行っている。ゼミでは職業ガイダンス的内容を３年次から取り入れるつもりである。院生に対しては、論文研究指導を講義授業内でも行い、また資料・文献研究にも力を入れている。

研究助成	1995 年～97 年度文部省科学研究費、基盤研究（C）「ドイツ外国人職業研修制度の実際」 1999 度　文部省科学研究費、研究成果出版助成『ドイツ外国人職業研修制度の実際』（多賀出版） 2002 年～2004 年文科省科研費　基盤研究（C）「ドイツ企業における環境マネジメント人材養成」

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	（著書） 1.『西ヨーロッパ貿易風土論』　（単、白桃書房） 2.『中世南ドイツ麻織物貿易史の研究』　（単、学位取得論文、白桃書房） （論文） 1.「ドイツの環境対策と環境職種養成システム」　『経営行動研究年報』第７号 （学会報告） 1.「ドイツにおける職業職種改革の歴史と技術革新への対応」経営史学会第 33 回全国大会、於、福岡大学、	 1986 1993 1998.5 1997.10
近年の業績	(著書) 1.『ペストの風土と台風の風土』（単、学文社） 2.『ドイツ外国人職業研修制度の実際』文部省科学研究費研究成果出版助成図書(単、多賀出版) （論文） 1.「ドイツにおける環境保全職種人材養成と企業の環境マネジメント」（『多次元的経営環境と経営教育』第 13 章、196-212 頁、学文社） （学会報告） 1. “German Business Firms Vocational-Training and Policy Management Systems for Environmental Protection” IFSAM World Management Conference’99 in Beijing	 1998.12 1999.3 1999.10 1999.7

190－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	金山（かねやま）　権（けん）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	KANEYAMA, Ken	学　位	経済学修士
専門分野 研究テーマ	経営学（Business administration） 現代中国企業経営管理の研究、アジア企業経営管理の研究		
所属学会	日本経営学会、経営行動研究学会、日本経営教育学会、経営哲学学会、日本国際開発学会、アジア市場経済学会		

略歴	学歴	1976 年 12 月　国立北京科技大学材料工学部卒業 1988 年 3 月　日本大学大学院経済学研究科博士前期課程修了（経営学専攻） 1991 年 3 月　同　博士後期課程修了（経営学専攻）
	主な職歴	1977 年 12 月～ 1985 年 3 月　北京科技大学専任 1985 年 4 月～ 1986 年 3 月　神奈川大学工学研究員（工業経営） 1991 年 4 月～ 1995 年 3 月　株式会社フォースタ研究開発部研究員 1996 年 4 月～ 1997 年 3 月　株式会社ミスミ（東証一部上場）総括顧問（FA ユニット） 1997 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	1986 年　北京科技大学　教育、科学研究賞（優秀論文 3 等賞）
学界活動 社会活動	経営行動研究学会理事、経営哲学学会常任理事、中国人民大学客員教授、中国管理科学院客員教授、中国大連企業管理協会名誉理事、日本システムインテグレーション協会専門委員	
主要担当科目	（大学院）　中国経営行動論Ⅰ,Ⅱ、アジア企業経営研究Ⅰ,Ⅱ、個別演習Ⅰ,Ⅱ （学部）　アジア企業経営論、ビジネスコミュニケーション中国語（中級、上級）、留学生、帰国生徒のための経営書購読Ⅰ、日本的経営	

教育研究等活動

＜研究＞現代中国企業の経営管理が主な研究方向である。とくに改革プロセス、企業形態、株式制実行、企業統治、経営管理などへの研究がメインである。最近では国際比較面での分析にも比重を移しながらアジア、なかでも東アジアの経営管理の比較研究にもリンクして進行しているところである。

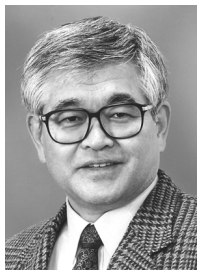
＜教育＞学部学生には啓発式教育に重点を置き、問題の提議、経緯、方法などと関連資料の配布を加え自ら考察し、最後まとめて理解していく方法をとっている。

大学院院生に対しては、各自における分析･研究レベルの向上に重点に置き、問題意識、ポイント、研究方法などを提起した上で、院生自ら実践していく方向に力を入れている。

研究助成	2000 年度　桜美林大学出版助成『現代中国企業の経営管理』 2001～2003 年度　文部科学省科研費　基盤研究 B　「中国国有企業改革に関する調査研究―所有制･グループ化及び企業統治を中心に」

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. NIRA研究報告書『中国に進出した日系企業の労使関係に関する研究』（共、総合研究開発機構）	1997.8
	2.『現代中国企業の経営管理』（単、同友館）	2000.3
	3.『Entwicklung und Struktur des Japanischen Management systems』（共、Rainer Hampp Verlag、Germany）	2000.8
	4.「Reconsideration of the Enterprise Reform Strategy: Mainly in the SOEs reform」（単、『World Management Conference '99』）	1999.7
	5.「転換期における中国国有企業の経営管理」（単、『経営行動研究年報』第10号）	2001.7
近年の業績	（著書）	
	1.『現代企業の経営行動』（共、同文館）	1989.9
	2.『現代の経営行動―課題と方向―』（共、同友館）	1999.5
	3.『21 世紀、日中経済はどうなるか』（共、学文社）	2002.9
	（論文）	
	1.「中国における中小企業改革戦略の再構築:直面している問題点とその対策」（単、『経営学論集 70』（日本経営学会編））	2000.3
	1.「中国国有企業改革の経験と教訓―中国の株式合作制導入を参考に」（単、『経営行動研究学会･モンゴル経営学会国際シンポジウム論文集』）	2000.7
	2.「転換期における中国国有企業の経営管理」（単、『経営行動研究年報』第 10 号）	2001.7
	3.「転換期における不良債権処理をめぐる諸問題―国有企業の不良債権の株式転換を中心に―」（単、『経営哲学論集 18 集』（経営哲学学会））	2002.8
	（学会発表）	
	1.「不良債権発生メカニズムの探求と今後の課題 ― 日･中両国を中心に」（北京: 桜美林大学･北京師範大学国際学術シンポジウム）	2001.6
	2.「中国国有企業の当面する課題と中国進出日本企業の経営行動」（日本経営学会関東部会シンポジウム）	2001.12
	3.「中国における国有企業の改革―「苦境脱出 3 ヵ年計画」を中心に」（日本経営学会第 76 回全国大会）	2002.9

氏　名	加藤（かとう）　朗（あきら）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	KATO, Akira	学　位	修士
専門分野 研究テーマ	国際政治学 紛争論、平和論		
所属学会	日本国際政治学会、国際安全保障学会、日本公共政策学会		



略歴	学歴	1975 年 3 月　早稲田大学政治経済学部政治学科卒業 1981 年 3 月　　同　　大学院政治研究科修士課程修了
	主な職歴	1981 年 4 月～1996 年 3 月　防衛庁防衛研究所所員 1996 年 4 月～2001 年 3 月　桜美林大学国際学部助教授 2001 年 4 月～　　同　　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　安全保障論 （学部）　　平和論、紛争論	

教育研究等活動

＜研究＞ホッブズの政治思想が、社会進化論や自然進化論を介して国際政治思想にどのような影響を与えたかが最近の研究テーマ。

＜教育＞学部の学生には、平和と戦争を歴史的、理論的にわかりやすく説明し、自ら考えそして自分の意見をもてるよう指導している。院生には国際政治理論、政治思想および政治哲学を踏まえた安全保障研究を指導している。

研究助成	1999 年度国際学研究所出版助成　　『二十一世紀の安全保障』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『現代戦争論』　（単、中央公論社）	1993.8
	2.『二十一世紀の安全保障』　（単、南窓社）	1999.3
	3.『テロ』　（単、中央公論新社）	2002.5
近年の業績	（論文）	
	1.「マルチメディア時代の軍事技術の極限化と国家の存続」（単、日本国際政治学会編『国際政治』第 113 号「マルチメディア時代の国際政治」）	1996.12
	2.「クリントン政権とアメリカ外交の新たな模索」（単、花井等、浅川公紀編『戦後アメリカ外交の軌跡』勁草書房、第 13 章所収）	1997
	3.「求められる新たな安全保障」（単、『外交時報』1997 年 7/8 合併号）	1997
	4.「日本外交のアイデンティティーと心理」（単、長谷川雄一、高杉忠明編『現代の国際政治』ミネルヴァ書房、第 13 章所収）	1998
	5.「冷戦後のテロ」（単、『テロリズム』東海大学出版会、第 2 章所収）	1998
	6.「テロと倫理」（単、同上、第 7 章所収）	1998
	7.「危機管理の概念と類型」（単、日本公共政策学会編『日本公共政策学会 1999 年度年報』）	1999
	8.「安全保障における多国間協調主義」（単、『国際問題』1999 年 5 月号）	1999
	9.「カーの『危機の 20 年』」（単、花井等編『名著に学ぶ国際関係論』ミネルヴァ書房、第 2 章所収）	1999
	10.「ホフマンの『国境を超える義務』」（単、同上、第 8 章所収）	1999
	11.「非国家主体への拡散の可能性」（単、納家政嗣、梅本哲也編著『大量破壊兵器不拡散の国際政治学』有信堂高文社、第 3 章所収）	2000
	12.「IT 革命と軍事革命(RMA)」（単、『国際問題』2001 年 6 月号）	2001

192－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	木下（きのした）　裕一（ゆういち）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	KINOSHITA, Yuichi	学　位	商学修士
専門分野 研究テーマ	会計学（財務会計）、時価会計、国際会計		
所属学会	日本会計研究学会、日本簿記学会、アメリカ会計学会		

略歴	学歴	1966 年 3 月　明治大学商学部卒業 1968 年 3 月　　同　大学院商学研究科修士課程修了 1971 年 3 月　　同　　博士課程単位取得満期退学
	主な職歴	1971 年 4 月～1972 年 3 月　桜美林大学経済学部非常勤講師 1972 年 4 月～1985 年 1 月　　同　　専任講師 1985 年 2 月～1989 年 3 月　　同　　助教授 1989 年 4 月～1997 年 3 月　　同　　教授 1997 年 4 月～　　同　経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　国際会計 （学部）　会計学、国際会計基準概説

教育研究等活動

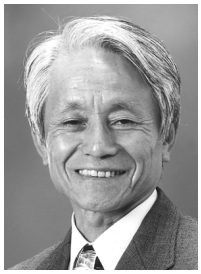
＜研究＞グローバルスタンダードとしての時価会計は金融商品会計を中心とした部分的なものである。これを実物資産の会計を中心とした時価主義会計に組替えていくことを目指している。

＜教育＞本学部の 5 つのコースいずれに属する学生も、現代会計入門､会計学といった基礎的な科目の修得および時事問題への関心への意識保持の重要性を認識させるべく努力している。

研究助成	1991 年度　桜美林大学出版助成『基本財務会計』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『基本財務会計』　（単、税務経理協会） 2.『現代の規制緩和と経営戦略』　（共、中央経済社） 3.『比較会計制度論』　（共、同文館）	1991.6 1994.11 1985.4
近年の業績	（著書） 1.『基本財務会計（改訂版）』　（単、税務経理協会） （論文） 1.「時価評価の二面性――資産評価と費用評価の結合――」 （単、『桜美林大学産業研究所年報』第 19 号）	 1999.4 2001.3

氏　名	河野（こうの）　穣（みのる）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	KOHNO, Minoru	学　位	経済学修士
専門分野 研究テーマ	人事管理論 イタリア自動車産業における労使関係		
所属学会	社会政策学会		



略歴	学歴	1959 年 3 月　早稲田大学第一政経学部卒業 1961 年 3 月　　同　　大学院経済研究科修了
	主な職歴	1961 年 4 月～1970 年 4 月　労働省 1970 年 4 月～1985 年 3 月　中央学院大学 1985 年 4 月～　　桜美林大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　比較労働政策 （学部）　　人事管理論、人材開発と動機づけ	

教育研究等活動

＜研究＞イタリアの FIAT における労使関係を研究している。
＜教育＞こちらが説明をする前に、それを課題としてまとめさせたり、レポートとして提出させるように努めている。したがって、簡単な宿題もほぼ毎時間課している。

研究助成	2000 年度　桜美林大学出版助成『イタリア自動車産業における労使関係――熱い秋をはさんだ 30 年』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「イタリア自動車産業における労使関係の展開Ⅲ－中」 2.「1990 年代の労使関係――企業内従業員代表制度の再確立――」	2001.3 2002.3
近年の業績	（研究） 「イタリア自動車産業における労使関係の展開Ⅲ―中」は 1955 年から 1980 年代までの労使関係をまとめたもので、その後は 1990 年代に再編された労使関係の研究を行っている。	

194－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	小﨑（こざき）　忠雄（ただお）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	KOZAKI, Tadao	学　位	
専門分野 研究テーマ	社会福祉、施設運営管理論、福祉施設職員教育、キリスト教社会福祉		
所属学会	日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会		

略歴	学歴	1955 年 3 月　明治学院大学文学部社会学科卒業
	主な職歴	1956 年 4 月～1960 年 5 月　横須賀基督教社会館主事 1960 年 6 月～1972 年 3 月　名古屋キリスト教社会館館長 1972 年 4 月～1981 年 10 月　興望館館長 1982 年 4 月～1991 年 3 月　愛の泉・特別養護老人ホーム愛泉苑苑長 1987 年 4 月～1989 年 3 月　共栄学園短期大学非常勤講師 1989 年 4 月～1999 年 3 月　和泉福祉専門学校校長 1999 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本キリスト教社会福祉学会理事、社会福祉法人家庭学校監事、 横須賀基督教社会館理事、雲柱社理事、共愛館理事	
主要担当科目	（大学院）　個別演習 （学部）　キリスト教 a.b.（V）学、キリスト教と社会福祉、福祉施設経営論	

教育研究等活動

キリスト教学校教育同盟の桜美林大学より大学部門の委員として「近年、キリスト教学校教育機関としての使命について」全国のキリスト教大学の学校で研究、研修をしている。委員として活動している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. 月刊通信誌『キリスト教学校教育』　（2002 年 7 月、事業報告） 2. 月刊通信誌『キリスト教学校教育』　（2002 年 1 月、事業報告）	2002.7 2002.1
近年の業績	（研究･報告） 「荒川区における高齢者のグループホーム事業等のあり方に関する調査」 （東京都荒川区委託調査と研究）	1998.3

氏　名	李（り）　光一（こういち）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	LEE, Kwang-Il	学　位	法学修士
専門分野 研究テーマ	政治学、比較政治学 エスニシティおよびナショナリズムの理論研究、シチズンシップ論		
所属学会	日本国際政治学会		

略歴	学歴	1977 年　慶應義塾大学法学部政治学科卒業 1980 年　　同　　大学院法学研究科修士課程（政治学専攻）修了 1984 年　　同　　同　　博士課程（政治学専攻）単位満了退学
	主な職歴	1985 年 9 月～1986 年 3 月　明治学院大学法学部非常勤講師 1989 年 4 月～1993 年 3 月　桜美林大学国際学部専任講師 1993 年 4 月～1998 年 3 月　　同　　助教授 1998 年 4 月～　　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　世界民族論 （学部）　比較政治学、民族研究、国家論

教育研究等活動

＜研究＞エスニシティとナショナリズムの理論研究を続ける一方、国民国家の相対化に伴うシチズンシップ論の再構築をテーマにしている。

＜教育＞学部学生には、社会科学理論の重要性を知ってもらうため、M.フーコーや I.ウォーラースティンなど旧来の学問領域を超えて新たなパラダイムを提示する思想家の書物を積極的に使用している。大学院では、論文作成に必要な、テーマ設定、文献蒐集、論文構成、報告の方法など、全ての項目にわたって、徹底的なマンツーマン方式による指導を行っている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. 岩波講座『社会科学の方法　第Ⅶ巻　政治空間の変容』 （共、「第四章　エスノポリティックス復興の政治的文脈」岩波書店）	1993.8
	2.「エスニシティと現代社会――政治社会学的アプローチの試み」　（単、『思想』第 730 号）	1985.4
	3.「デニズンと国民国家――西欧諸国におけるエスニック・マイノリティのシチズンシップ」 （単、『思想』第 854 号）	1995.9
近年の業績	〔論文〕 “Migration and Citizenship: Beyond National Citizenship” （『アジア・太平洋におけるヒトの国際移動と社会・文化変容』、167-170 頁「ヒトの国際移動」国際シンポジウム実行委員会編）	2000.3

196－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	馬越（まごし）　恵美子（えみこ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	MAGOSHI, Emiko	学　位	経済学修士・学術博士

専門分野 研究テーマ	国際経営学、異文化経営論 企業のグローバル経営、労働の多様性
所属学会	国際ビジネス研究学会、組織学会、国際経営文化学会、異文化コミュニケーション学会、日本経営学会、日本貿易学会、他

略歴	学歴	1976 年 3 月　上智大学外国語学部フランス語学科卒業 1994 年 3 月　慶應義塾大学経済学研究科修士課程修了 1998 年 3 月　同　博士課程単位取得退学 1999 年 3 月　東亜大学より学術博士（経営管理）取得
	主な職歴	1976 年 4 月～ 1996 年 3 月　会議通訳（英仏日） 1989 年 12 月～ 現在　㈱インターリンク代表取締役 1991 年 4 月～ 1996 年 3 月　上智大学外国語学部講師 1996 年 4 月～ 2001 年 3 月　東京純心女子大学現代文化学部助教授 2001 年 4 月～ 2002 年 3 月　同　教授 2001 年 4 月～ 現在　NHK ラジオ講師 2002 年 4 月～ 現在　桜美林大学教授
	受賞	2001 年・2000 年度　アンゾフ・アウォード特別文献賞受賞（戦略経営協会）
学界活動 社会活動		杉並区 21 世紀ビジョン審議会委員（2000 年度） 国際ビジネス研究学会幹事（広報） 戦略経営協会理事 高年齢者雇用開発協会「諸外国における就業形態の実情に関する調査研究」研究委員
主要担当科目		（大学院）　多国籍企業論 （学部）　欧米企業経営論、ビジネス・コミュニケーション

教育研究等活動

＜研究＞国際経営学の一環として、企業のグローバル経営の理論と事例を研究している。また異文化経営論の観点から、労働の多様性（外国人、女性、高齢者等）の研究を行っている。

＜教育＞学生を主体とした授業を心がけ、積極的な授業参加を奨励している。国際経営学を体系的に学習し、かつ事例研究を勉強し、実務家の特別講義を聞くことにより、実態を理解させ、将来像を描くことができるように努めている。また英語を含めたコミュニケーション能力を養うことをめざし、学生に動機づけを行っている。さらに経営者や企業家の生き方を学ぶことによって、人生哲学を深められるよう指導している。すなわち「理論と実践と心」による学習を目指している。

研究助成

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. Mind Distance between the Headquarters and Branch Offices in Global Corporations（SIETAR International Journal, Vol.1, No.1）	1999.5
	2.『異文化経営論の展開』（単、学文社）	2000.3
	3.『心根［マインドウェア］の経営学』（単、新評論）	2000.4
近年の業績	（著書）	
	1.『国際経営論への招待』（共、有斐閣）	2002.2
	2.『ビジネスと異文化のアクティブ・コミュニケーション』（共、同文館）	2002.4
	（論文）	
	1.「多国籍企業の意識的距離に関する実証研究」（単、『国際ビジネス研究学会年報』）	2000.10
	2.「マインドウェア再考：等距離企業の実現に向けて」（単、『マネジメントコミュニケーション研究第 2 号』）	2001.3
	3. The Changing Face of the Japanese Workforce（単、『PPC 環太平洋学術交流会議年報』）	2002.6
	（翻訳）	
	1.『国際経営学の誕生Ⅲ　組織理論と組織行動の視座』（共、文眞堂）	2000.3
	2.『国際経営学の誕生Ⅰ　基礎概念と研究領域』（共、文眞堂）	2001.11
	（資料）	
	1.「日本企業のグローバル・マネジメント－欧州現地法人の調査を中心に」（単、日本労働研究機構　資料シリーズ　No.74）	1998.1
	2.「諸外国における高齢者の就業形態の実情に関する調査研究報告書」（共、高年齢者雇用開発協会）	2002.3

氏　名	宮下（みやした）　幸一（こういち）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	MIYASHITA, Koichi	学　位	経営学修士
専門分野 研究テーマ	経営学、情報管理論 現代企業の経営戦略と情報管理		
所属学会	日本経営学会、経営情報学会、経営行動研究学会、オフィスオートメーション学会		

略歴	学歴	1973 年 3 月　駒澤大学経営学部卒業 1975 年 3 月　　同　大学院経営学研究科修士課程終了 1980 年 3 月　　同　　博士課程単位取得満期退学
	主な職歴	1982 年 4 月～1985 年 3 月　星稜女子短期大学経営学科専任講師 1985 年 4 月～1991 年 3 月　富士短期大学経営学科助教授 1991 年 4 月～1995 年 3 月　桜美林大学経済学部助教授 1995 年 4 月～1998 年 3 月　　同　　教授 1998 年 4 月～　　同　　経営政策学部教授 2002 年 4 月　　同　　図書館館長
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　情報管理論　演習 （学部）　　経営情報管理論　演習

教育研究等活動

＜研究＞好業績企業の戦略形成と情報ｼｽﾃﾑ構築の連関分析
経営情報管理論の理論的フレームワークの構築
組織のイノベーションと情報の管理

＜教育＞学部学生には既存の知識体系や方法にこだわらないで、自らの考えやアイデアを豊かにして、それをまとめてプレゼンテーションできる能力の獲得を目指す。
大学院生には科学的方法論を常に追求しながら、自らのテーマに沿った文献・資料のサーベイを充実することと、新たな構想力を組み込めれるよう指導する。

研究助成	1990 年度　私学研修福祉会助成研究 『サービス企業のグローバル性向と情報ネットワークに関する実証研究』 1998 年度　桜美林大学出版助成『英国航空の生成』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『日本企業のグローバルネットワーク戦略』　（共、東洋経済新報社）	1990.1
	2.『英国航空の生成』　（単、サンウェイ出版）	1998.9
	3.『新版・情報管理の基礎』　（単、同文舘出版）	2000.5
近年の業績	（著書）	
	1.『改訂・コンピューター入門』　（単、弘学出版）	1996.2
	2.『日本型グループ経営の戦略と手法』　（共、中央経済社）	1996.11
	3. Entwicklung unt Struktur des Japanischen Managementsystems　（共、Rainer H.V）	2000
	4.『経営学の多角的視座』　（共、創成社）	2002.3
	5.『実証分析　英国の企業・経営』　（共、中央経済社）	2002.5
	（論文）	
	1.「英国航空の戦略展開」　（単、『桜美林大学産業研究所年報』第 16 号）	1999.3
	2.「サプライチェーンの革新と情報管理(1)(2)」　（単、『桜美林エコノミックス』第 42､43 号）	1999～2000
	3.「物流起点のイノベーション」　（単、『桜美林大学産業研究所年報』第 17 号）	2000.12
	4.「日本の流通をめぐる変革と課題」　（単、『桜美林エコノミックス』第 46 号）	2001.12
	（その他活動）	
	1. 日中経済発展シンポジューム報告「日本における流通の変容と課題」　（北京師範大学）	2001.6
	2. 国土交通省研修講義「組織のイノベーションと情報管理」　（国土交通省総合研究所）	2002.1

198－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	内藤（ないとう）　錦樹（きんじゅ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	NAITOH, Kinju	学　位	

専門分野 研究テーマ	観光事業 成熟化社会の観光事業のあり方
所属学会	日本観光学会、日本観光研究学会、総合観光学会、国際観光学会

略歴	学歴	1962 年 3 月　早稲田大学第一政治経済学部政治学科卒業
	主な職歴	1989 年 6 月～1991 年 5 月　JTB 取締役 出版事業局長 1991 年 6 月～1995 年 5 月　同　中部営業本部長 1995 年 6 月～1996 年 5 月　ジェイアイ傷害火災保険㈱代表取締役常務 1996 年 6 月～2002 年 3 月　JTB 印刷株式会社代表取締役社長 2002 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	1965 年　日本観光協会観光研究論文国鉄総裁賞
学界活動 社会活動		観光会議所代表世話人
主要担当科目		（大学院）　観光政策、個別演習 （学部）　旅行業管理論、観光交通論、観光産業実習、専攻演習

教育研究等活動

＜研究＞旅行･交通･宿泊･観光地等観光関連事業について、その発展過程と経営分析を主な研究テーマとしてきたが、近年は、成熟化社会における望ましい経営モデルの研究に比重を移している。

＜教育＞各部学生には、経験を生かし観光関連事業について多くの実例をプリントにし、映像も見せ、また自らも実習させ考えさせる方法をとり、就職活動にも役立つよう努めている。

一方、院生には、各人の論文作成にあたって研究方法を指導するとともに、最近の観光政策がどう観光事業に反映しているか、生きた政策研究を習得させる努力をしている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. 経企庁･運輸省･通産省等の審議会委員活動	1970～1980 代
	2.『大衆旅行時代』（単、日本経済新聞社）	1970.8
	3.『余暇活用法』（単、日本経済新聞社）	1972.3
	4.『成熟化社会のサービス産業』（共、有斐閣）	1985.7
	5.『観光マーケティング―理論と実際―』（共、同文館）	1996.7
近年の業績	（学会発表） 1.「宿泊アンケートによる宿泊施設の評価と分析」（日本観光学会）	1998.6
	（その他の活動） 1. 夏季特別講座「観光事業論」（沖縄国際大学商経学部）	1999.8
	2. 講演「ファッションタウンのあり方について」（足利商工会議所）	1999.2
	3. 講演「21 世紀の観光事業と地域戦略」（山形県地域経済研究会）	2000.2
	4. 執筆「観光産業は 21 世紀の基幹産業になりうるか」（全日空機関誌「ていくおふ」）	2002.11

氏　名	中村（なかむら）　廣治郎（こうじろう）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	NAKAMURA, Kojiro	学　位	文学修士、Ph.D.
専門分野 研究テーマ	イスラム文化論、比較文化、中東地域研究、宗教学		
所属学会	日本宗教学会、日本オリエント学会、日本中東学会、東方学会		

略歴	学歴	1960 年 3 月　東京大学文学部卒業 1963 年 3 月　　同　大学院人文科学研究科修士課程修了 1970 年 6 月　米国ハーバード大学大学院博士課程修了
	主な職歴	1971 年 4 月～1972 年 3 月　東京大学東洋文化研究所専任講師 1972 年 4 月～1982 年 3 月　　同　研究所助教授 1982 年 4 月～1987 年 3 月　　同　文学部助教授 1987 年 4 月～1997 年 3 月　　同　　教授 1997 年 3 月　　同　定年退官（東京大学名誉教授） 1997 年 4 月～　桜美林大学国際学部教授
	受賞	1970 年　流沙海西奨学会賞 1975 年　日本宗教学会賞
学界活動 社会活動	日本宗教学会常務理事、日本中東学会評議員、日本イスラム協会顧問	
主要担当科目	（大学院）　イスラム文化論、研究指導、個別演習 （学部）　比較文化方法論、イスラム文化論、基礎演習、比較文化学演習、国際学序説	

教育研究等活動

＜研究＞中世イスラムの代表的思想家ガザーリーの思想を研究してきた。他方、イスラムの現代的展開、特に「イスラム原理主義」の動きについて、比較文化的視点から研究してきた。

＜教育＞以上の研究を踏まえて、イスラムの多面的展開の諸相と、現代においてイスラムが直面する様々な問題を掘り下げて理解させること、そのための方法としての比較文化・宗教の理論や考え方に習熟させることに努めてきた。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『イスラム――思想と歴史』　（単、東京大学出版会）	1977
	2.『ガザーリーの祈祷論』　（単、大明堂）	1982
	3.『講座イスラム・１・思想の営み』　（編著、筑摩書房）	1985
近年の業績	1. Al-Ghazali on Invocations and Supplications　（単、Cambridge）	1990
	2.『イスラームと近代』　（単、岩波書店）	1997
	3.『イスラム教入門』　（単、岩波書店）	1998
	4. Ghazali and Prayer　（単、Kuala Lumpur）	2001
	5.『イスラムの宗教思想』　（単、岩波書店）	2002

200－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	中崎（なかさき）　茂（しげる）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	NAKASAKI, Shigeru	学　位	経済学修士

専門分野 研究テーマ	観光開発、水資地域振興、産業振興 観光地域の形成発展
所属学会	日本地理学会、経済地理学会、日本地域政策学会 総合観光学会、　日本ホスピタリテイ／マネジメント学会

略歴	学歴	1967 年 3 月　中央大学経済学部経済学科卒業 1972 年 3 月　青山学院大学院経済学研究科経済学修士課程修了
	主な職歴	1972 年 4 月　㈱地域開発コンサツタンツ入社 1985 年 4 月　㈱産業立地研究所入社 1990 年 2 月　㈱ジーアクト研究所代表取締役 1993 年 4 月～1995 年 3 月　流通経済大学社会学部専任講師 1995 年 4 月～2002 年 3 月　同　助教授 2002 年 4 月～　桜美林大学　経営政策部教授
	受賞	

学界活動 社会活動	日本ホスピタリテイ．マネジメント学会編集委員 千葉県栄町都市計画審議会会長 水郷潮来地区観光振興方策策定調査委員会副委員長
主要担当科目	（大学院）　観光経済学 （学部）　観光地域と観光開発、観光政策論、観光立地論、観光関連法規

教育研究等活動

＜研究＞観光地域の形成と発展のメカニズム、とくにサイクル論との適合性について考察。
＜教育＞講義の中から関心分野／テーマを見つけ出し、文献・資料および現地調査等をもとに多面的な理解を深め、またこれを通して読み、書き、話す技能の向上を指導。
　院生に対しては、関心テーマおよびそれに関連する分野の基礎概念の理解を深め、また資料収集とその講読を重ねテーマの絞り込みや論文作成を指導。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	（著書） 1.『現代観光研究』　（共、嵯峨野書院） 2.『観光と地域振興』　（共、内外出版） 3.『観光の経済学入門』　（単、古今書院）	 1996 2000 2002
近年の業績	（論文） 1.「水源地域と観光レクリエーションの関わり」 （『流通経済大学創立 30 周年記念論文集：社会学部論』） 2.「文化・自然遺産と観光開発」 （『国際化日本における観光の現状と課題－国際観光に関する学際的研究：文部省科学研究費補助金特定研究』） 3.「リゾート地域の変遷とその要因に関する考察 －イギリスのマス・ツーリズムの誕生とその変容を中心に－」 （『流通経済大学論集』Vol.35、№3） （訳書） 1.『環境経済学』　（共、学文社） （講演） 1.「筑波山地域の観光開発について」　（つくば市観光協会） 2.「レジャーと消費行動－レジャーから集客・商店街を考える」　（竜ヶ崎市商工会）	 1996 1998 2001 2001 1998 1999

氏　名	難波（なんば）　豊（ゆたか）	所　属	資格・教職教育センター
		職　位	教授
	NAMBA, Yutaka	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	キリスト教教育学、生活指導論 日本キリスト教女性史		
所属学会	日本教育学会、日本キリスト教教育学会、日本生活指導学会、日本教師教育学会、教育史学会、大学教育学会、関東教育学会		

略歴	学歴	1969 年 3 月　桜美林大学文学部卒業 1980 年 3 月　日本大学大学院博士後期課程文学研究科教育学専攻満期退学
	主な職歴	1991 年 4 月～　桜美林大学教授 1992 年 4 月～1993 年 3 月　中央大学非常勤講師
	受賞	
学界活動 社会活動	町田市情報化政策基本プラン策定委員会委員、町田市介護保険事業計画審議会部会委員、都立八王子盲学校運営連絡協議会評価委員会委員、全国私立大学教職課程研究連絡協議会事務局次長	
主要担当科目	（大学院）　キリスト教教育 （学部）　教育心理学、キリスト教と教育、キリスト教女性史	

教育研究等活動

時代の変化に伴い、社会に求められ通用する教員養成について自主ゼミや授業において尽力している。

1. 自主ゼミ「生活指導研究会」主宰者として、本学在学生、卒業生、他大学教員・学生らと 2001 年度までの 10 年間インターカレッジゼミを運営した。
2. 教職に関する科目の授業において「班活動」「スピーチ」「討論」等を積極的に導入して自己表現、発表のできるように授業改善に努力している。
3. ホームページを開設して学生のニーズに対応できるように努力している。「ホームページ：日本キリスト教女性史（人物編）」に約 150 名のキリスト教関係女性を掲載中。

研究助成	1998～2001 年度　文部省科研費「児童・生徒のシンナー・覚せい剤等薬物乱用防止に関する心理・社会・教育・医学的研究」共同研究（代表：小宮山要）

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「明治前期キリスト教女学校史」（単、『桜美林論集』No.3～8）	1975～1981
	2.『青少年の科学技術に対する意識の実態調査』（共、財団法人日本科学技術振興財団）	1994～1995
	3.「中学・高校生の薬物乱用に対する教師の認識と薬物乱用予備軍の特徴」（共、『桜美林論集』28 号）	2001.3
	4.『鹿が谷川の水を慕うように―聖書研究・祈祷―1.2』（編、ヨベル）	1991,1993
近年の業績	1.「中学・高校生の薬物に対する意識と実態に関する調査研究」（日本経済新聞、週間教育資料 No.659、研究代表：小宮山要）	1998.8.16 2000.3.13
	2.「中学・高校生の薬物乱用に関する教師と保護者の意識に関する調査研究」（日本経済新聞、研究代表：小宮山要）	2000.4.15
	3.「薬物乱用少年の乱用形態と意識に関する調査研究」（研究代表：小宮山要）	2001.3
	4. 中学・高校生の薬物乱用防止プログラムの作成、児童・生徒のシンナー・覚せい剤等薬物防止に関する心理・社会・教育・医学的研究報告書（文部科学省提出）（研究代表：小宮山要）	2001.3
	5.「明治前期キリスト教女性史（人物編）」 ”URL　http://www5e.biglobe.ne.jp/~BCM27946/”	2001.11～

202－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	成沢（なるさわ）　広行（ひろゆき）	所　属	文学部
		職　位	教授
	NARUSAWA, Hiroyuki	学　位	学術博士
専門分野 研究テーマ	情報社会、システム科学		
所属学会	社会情報学会、情報文化学会		

略歴	学歴	1970 年 3 月　長野大学経済学部卒業 1991 年 3 月　横浜市立大学大学院経済学研究科修士課程修了 1995 年 3 月　東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了
	主な職歴	1978 年 4 月～1981 年 3 月　産業能率短期大学助手 1981 年 4 月～1984 年 3 月　酒田短期大学専任講師 1989 年 4 月～1993 年 3 月　桜美林大学専任講師 1993 年 4 月～1999 年 3 月　同　助教授 1999 年 4 月～現在　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　情報社会論、個別演習 （学部）　情報科学基礎論

教育研究等活動

＜研究＞情報社会の国際比較（比較情報社会）を主なる研究テーマとしている。特に日中韓、3 国の比較を中心においている。

＜教育＞情報技術の発展過程をヒストリカルにとらえることができるように授業を展開している。
情報社会の多面的な特質をトレードオフ現象として解説している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『比較情報社会論』　（単、高文堂出版社）	2001.9
	2.『情報技術の国際革新』　（単、高文堂出版社）	2001.3
	3.『情報の科学と技術』　（単、高文堂出版社）	1999.2
近年の業績	（著書）	
	1.『これからの学士教育』　（共、玉川大学出版部）	1997.1
	2.『情報文化学ハンドブック』　（共、森北出版）	2001.10
	（論文）	
	1.「情報教育との取組みの報告」　（共、『一般教育学会誌』17 巻 2 号）	1995.11
	2.「インターネットと電子商取引が創り出す情報文化」　（単、『情報文化学会誌』5 巻 1 号）	1998.10
	（発表）	
	1.「インターネットと電子商取引が創り出す情報文化」　（情報文化学会第 5 回全国大会）	1998.11
	（その他の活動等）	
	1. 新聞発表「人間性あふれる情報社会を」　（東京新聞　1996.3.3　朝刊）	1996.3

氏　名	西村（にしむら）　隆夫（たかお）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	NISHIMURA, Takao	学　位	修士（MS, MA）
専門分野 研究テーマ	国際ビジネスと産業政策、地球環境・エネルギー政策論、経済・技術協力論		
所属学会	応用地域学会		

略歴	学歴	1975 年 3 月　東京大学工学部都市工学科卒業 1981 年 12 月　Graduate School of Regional Science, University of Pennsylvania 修士課程修了 1982 年 3 月　同大学 Graduate School of Energy Management & Policy（現 Wharton ビジネス・スクール）　修士課程修了 1991 年 3 月　同　博士課程単位取得中退
	主な職歴	1975 年 4 月～1999 年 3 月　通商産業省（現 経済産業省） その間、経済企画庁、UNIDO（国連工業開発機関）、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）、国際機関 ASEAN センター（貿易投資観光促進センター）などを経て、工業技術院研究開発官を最後に退職 1999 年 4 月～　桜美林大学教授 2001 年 4 月～　同　大学院国際学研究科教授（兼担）
	受賞	
学界活動 社会活動	NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）「LCA（ライフサイクルアセスメント）調査推進」委員、中小企業総合事業団「ベンチャー・ビジネス技術開発企業選定委員会」委員	
主要担当科目	（大学院）　企業とエネルギー論Ⅰ・Ⅱ （学部）　ビジネスの基礎Ⅰ・Ⅱ、経済学入門、産業政策論、中小企業政策論、海外留学・研修準備学習	

教育研究等活動

＜研究＞通商産業省、経済企画庁、UNIDO、NEDO、ASEAN センター勤務などで得た行政経験。桜美林大学、埼玉大学・東京大学大学院、工学院大学などでの講義経験。2002 年 6 月から東京大学先端科学技術研究センターの特別研究員（兼任）として、エネルギー消費・企業活動などが地球温暖化問題に及ぼす影響について、経済モデルの改良・研究を行っている。

＜教育＞商（あきない）の要諦は「読」・「書」・「算盤」にあり、学部生・院生を問わず、「文章・言語能力（日本語および英語）」、「情報リテラシー（情報処理能力、基礎数学を含む）」および「専門知識」の 3 つの修得が肝要であり、そのためには「100 回」の反復練習が必要。

研究助成	2001 年度　桜美林大学出版助成『日本のエネルギー産業：政治経済学の視点から見た規制緩和と環境への影響』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『日本のエネルギー産業：政治経済学の視点から見た規制緩和と環境への影響』（単著、同友館）	2002
	2. リチャード・K・レスター『競争力－「Made in America」10 年の検証と新たな課題－』（共訳、生産性出版）	2000
近年の業績	（主要著書・論文・訳本）	
	1. ”Identification of Opportunities to Strengthening Manufacturing Systems of Selected Industries through Automation of Production Process in Hungary,”　（UNIDO）	1991
	2. “Identification of Opportunities to Strengthening Manufacturing Systems of Selected Industries through Automation of Production Process in Poland,”　（UNIDO）	1991
	3.「トラ q ンスログ関数による日本・米国・中国における化学繊維製造業の比較競争力に関する実証分析」　（『繊維ファッション産業研究 1996』繊維産業構造改善事業協会）	1996
	4.『エコ・エネ都市システム－21 世紀の都市エネルギーと熱利用技術』（共編著、（財）省エネルギーセンター）	1999
	5. “Heat Pumps- Status and Trends in Asia and the Pacific”,（*International Journal of Refrigeration*）	2002

204－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	野田（のだ）　秀三（しゅうぞう）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	NODA, Shuzo	学　位	商学修士
専門分野 研究テーマ	財務会計、税務会計、税法 連結納税制度		
所属学会	税務会計研究学会、日本会計研究学会、日本簿記学会、他		

略歴	学歴	1972年３月　桜美林大学経済学部卒業 1974年３月　明治学院大学経済学研究科修士課程修了 1977年３月　成蹊大学経営学研究科博士課程単位取得満期退学
	主な職歴	1979年４月～1997年３月　桜美林大学経済学部専任講師・助教授・教授 1997年４月～　同　経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	税務会計研究学会理事、東芝倫理審査委員会委員、（財）日本税務研究センター研究員（非常勤）	
主要担当科目	（大学院）　国際税務会計、税法 （学部）　財務諸表論、税務会計、税法概説	

教育研究等活動

＜研究＞固定資産会計、特に減価償却制度について研究してきたが、最近は、日米を中心とした連結納税制度の研究をしている。

＜教育＞国際会計基準に準拠した我が国の新しい企業会計制度について、学生と内容の検討をし、事例研究で企業における会計制度変更に伴う影響について分析をしている。

研究助成	1990年度　桜美林大学出版助成　『財務諸表論の理論と計算』（中央経済社）

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「耐用年数の定め方に関する諸問題」　（単、『会計』第134号）	1987.８
	2.「わが国における減価償却制度の実態分析」　（単、『企業会計』第41巻４号）	1989.4
	3.「耐用年数」　（単、『税務会計研究』、第９号）	1998.10
	4.「欧米主要国における連結納税制度」　（単、『企業会計』、第51巻13号）	1999.12
	5.「連結納税制度」　（単、『税務会計研究』、第11号）	2000.９
近年の業績	（著書）	
	1.『税務会計論』　（共、中央経済社）	1999.5
	2.『租税法全説』　（共、同文舘）	2001.4
	3.『M＆Aの会計・税務・法務』　（共、中央経済社）	2001.12
	4.『税務会計学辞典』　（共、中央経済社）	2002.2
	（論文）	
	1.「社会システムの変革と税理士業務への影響」　（単、『税理』、第41巻６号）	1998.6
	2.「サービスの提供による収益」　（単、『日税研論集』、第40巻、（財）日本税務研究センター）	1998.9
	3.「子会社等に対する支援と貸倒損失」　（単、『税務事例研究』、第45号、（財）日本税務研究センター）	1998.9
	4.「簿記教育の在り方―簿記検定試験の現状と展望―」　（共、日本簿記学会年報,第13号）	1998.9
	5.「経済社会の国際化と法人税―税務会計学から」　（単、『租税理論研究叢書』、第８巻、谷沢書房）	1998.11
	6.「評価損と譲渡損」　（単、『日税研論集』、第42巻、（財）日本税務研究センター）	1999.9
	7.「持株会社設立に係る法人株主に対する課税」　（単、『税務事例研究』、第51号、（財）日本税務研究センター）	1999.9
	8.「新時代に向けた中小企業税制の見直し」　（単、『税理』、第42巻15号）	1999.12
	9.「グループ企業間取引に係る寄附金課税」　（単、『税務事例研究』、第57号、（財）日本税務研究センター）	2000.9
	10.「三角合併」　（単、『日税研論集』、第45巻、（財）日本税務研究センター）	2000.9
	11.「グループ企業の再編と課税」（単、『税務事例研究』、第62号、（財）日本税務研究センター）	2001.7
	12.「証券市場改革で求められる株式譲渡益課税のあり方」　（単、『税理』、第44巻10号）	2001.9
	13.「外貨建有価証券等の評価」　（単、『日税研論集』、第48巻、（財）日本税務研究センター）	2002.2

氏　名	野々山　忠致（ののやま　ただゆき）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	NONOYAMA, Tadayuki	学　位	
専門分野 研究テーマ	国際法 国際人道法		
所属学会	国際法学会		

略歴	学歴	1959 年 3 月　東京大学法学部卒業 1961 年 6 月　ケンブリッジ大学修士課程修
	主な職歴	1985 年 1 月～　1987 年 2 月　在アトランタ総領事 1987 年 2 月～　1989 年 11 月　在ホノルル総領事 1989 年 11 月～ 1992 年 11 月　駐ヨルダン特命全権大使 1995 年 4 月～　1997 年 11 月　駐ノルウェ ― 特命全権大使 1997 年 11 月～ 現在　桜美林大学教授
	受賞	1998 年 3 月　マイク・マンスフィールド賞
学界活動 社会活動	ＮＨＫ国際放送番組審議会委員長、日本赤十字社顧問、国際赤十字連盟財政委員会委員	
主要担当科目	（大学院）　国際機構論 （学部）　国際法、憲法	

教育研究等活動

＜研究＞国際人道法の発展と人道的支援活動の関係について研究している。
＜教育＞国際法の法理論を自分の経験を含め現実の国際社会の動向に即して講義している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「日本外交と国連」　（外務研修シリーズ） 2.「内外情勢と入管行政」　（「入管月報」第 285 号） 3. "The Japan-U.S. Partnership"　（Hawaii Loa College Journal）	1982 1982 1987
近年の業績	（講演） 「テロリズムとイスラム原理主義」　（裏千家京都例会）	2001.12

206－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	大庭（おおば）　篤夫（あつお）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	OBA, Atsuo	学　位	商学修士
専門分野 研究テーマ	経営管理論、日本的経営論、国際共通語論		
所属学会	日本経営学会、オフィス・オートメーション学会、アジア経営学会、国際ビジネス研究学会、日本エスペラント学会		

略歴	学歴	1963 年 3 月　早稲田大学商学部卒業 1965 年 3 月　　同　　商学研究科卒業 1968 年 3 月　　同　　同　　博士課程終了
	主な職歴	1968 年 4 月～1986 年 3 月　桜美林大学経済学部専任講師 1986 年 4 月～1997 年 3 月　　同　　教授 1997 年 4 月～　　同　　経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本エスペラント学会参与、NPO 理事（バナナペイパープロジェクト）	
主要担当科目	（大学院）　日本的経営論 （学部）　　現代経営と国際ビジネス入門、共通語研究	

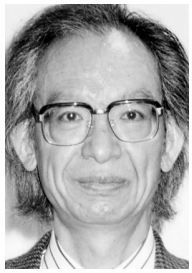
教育研究等活動

日米韓の企業の比較研究を研究してきたが、最近は、情報公開の問題に関心を移してきている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	（論文） 1.『平成不況下の日本的経営』　（単、『桜美林エコノミックス』第 39 号） 2.『多国籍企業と計画言語』　（単、『桜美林エコノミックス』第 4 号）	 1999.3 1975.3.
近年の業績	（著書） 1.『21 世紀日中経済はどうなるか』　（共、学文社） （論文） 1.「企業の情報公開の新傾向」　（単、『経営政策学部紀要』）	 2002.9 2001.12

氏　名	岡　順寛　OKA, Yoshihiro	所　属	文学部
	ペンネーム 高市 順一郎　TAKACHI, Jun'ichiro	職　位	教授
		学　位	文学修士・博士（文学）



専門分野 研究テーマ	イギリス・アメリカ文学、比較文学、創作（詩） イギリス・アメリカ文学・世界文学における石の記号・木の形象の研究
所属学会	日本英文学会、日本アメリカ文学会、国際比較文学会、日本現代英米詩学会、日本現代詩人会、日本国際ペンクラブ

略歴	学歴	1962 年 3 月　徳島大学学芸学部英語科卒業 1964 年 3 月　広島大学大学院文学研究科修士課程英文学専攻修了 1979 年 4 月～1980 年 9 月　英国ケンブリッヂ大学英文科客員研究員 1992 年 7 月～1993 年 3 月　米国イェール大学大学院英文科客員研究員 2000 年 3 月　筑波大学大学院より論文博士（文学）号取得
	主な職歴	1966 年 4 月　弘前大学教養部･教育学部専任講師 1970 年 4 月～1973 年 3 月　同　助教授 1973 年 4 月～1984 年 3 月　桜美林大学文学部英文科助教授 1984 年 4 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		日本現代英米詩学会理事･事務局長、『ジャパン・ポエトリー・レヴュー』編集長
主要担当科目		（大学院）比較文学（イギリス・アメリカ文学，日本文学） （学部）英語と芸術、英語圏社会と文学、比較文学、現代詩の世界

教育研究等活動

＜研究＞これまで何十本と論文（含む翻訳）を発表してきたので、これからはアメリカ詩人論『ウォリス・スティーヴンズ論』、二言語アントロジー『30 世界詩人 2002』をはじめ、『シルヴィア･プラス論』（共同）、『イギリス･アメリカ近代詩人論』、『森と海の文学』（共同）等々、順を追って出版を進めていく。

＜教育＞イギリス･アメリカ文学の主要小説家･詩人･劇作家の Canon Works を原テクストの講読によって重要コンセプト、テーマ的主題の読み出し、解義をはかり、学生が独自のテーマを設定し、アカデミック・ペイパー（小、または中の論文）を書けるよう、実際的な読みとライティングの指導を行なう。院生に対しては、これをなお本格的なレベルまで高め、指導する。

研究助成	未だ実績はないが、上の出版は文科省科研等の助成申請にかかわる予定。

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	『日の歌　風の歌』（第 8 詩集）（思潮社、2003） 『現代批評と文学理論――ド・マン／ブルーム／デリダ』（1999.11、未刊） 「安部公房と大江健三郎の小説と窮極決定」（英文）ICLA 1991 Tokyo, *Proceedings――Literary Theories*, 1995.10. 「ロバート･ブライの詩と＜岩＞＜木＞＜水＞のイメージ」『英語青年』第 143 巻第 5 号. 「モーツァルテスクと無辺志向――谷川俊太郎の後期の詩」（英文）*Japan Quarterly*, Vol.44, No3.	1995.10 1997.7 1997.7
近年の業績	「日本の仏教エスカトロジーと平安朝短歌」（英文）*Literary Intercrossings――East Asia and the West*. Ed.Mabel Lee. University of Sydney, 1998. 「古典詩歌における＜樹＞と＜美人＞のフィギュール――中国の詩物語と日本の歌物語」『比較文學』韓国比較文學会（韓国・ソウル）. 「＜自己ニンポレプシー＞と＜アンチ･マドンナ＞――O.ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』『サロメ』におけるペルソナの＜転身＞＜変容＞」『桜美林英語英米文学研究』第 40 輯. 「＜ネクロフィーリア＞と＜ウィドー・コンプレックス＞――E.A.ポー『アナベル・リー』『モレラ』『ヘレンに』」『桜美林英語英米文学研究』第 41 輯. 「＜美は真なり＞と＜愛の否定的有能性＞――J.キーツ『ギリシャ壷に寄す』『ラミア』『〔ファニー〕に』」『桜美林英語英米文学研究』第 42 輯. 「フィリップ・ラーキン――『連想遡及』と愛の内幕劇」『ジャパン・ポエトリー・レヴュー』No.8.	1998.8 1998.12 2000.3 2001.3 2002.3 2002.3

208－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	岡田（おかだ）　道一（みちかず）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	OKADA, Michikazu	学　位	経営学修士（MBA）
専門分野 研究テーマ	国際経営 組織行動論		
所属学会	国際経済学会、経営行動学会		

略歴	学歴	1958 年 3 月　東京大学経済学部卒業 1976 年 6 月　MIT スローン経営大学院卒業
	主な職歴	1958 年 4 月～1996 年 3 月　麒麟麦酒株式会社勤務 企画部企画課長、外国部部長代理、マーケティング部副部長、 海外ビール事業部長、経理部長、取締役、監査役等歴任 1997 年 4 月～1999 年 3 月　桜美林大学助教授 1999 年 4 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　組織と人間 （学部）　現代経営と国際ビジネス入門、組織の中の人間、ビジネスコミュニケーション（英語）、ビジネスの基礎	

教育研究等活動

＜研究＞海外における日本企業の経営管理の実態と問題点を、経営環境との係わりの中で調査、研究。

＜教育＞マネジメントに限らず人々の行動は、とりうる行動のオプションを考え、プライオリティを選択、決定することで成り立っています。

幅広い視野と弾力的な態度で様々な選択肢を探り、理論的、客観的に優先順位を決定すること、すべての教科が、そのために役立つよう心しています。

また、善し悪しは別とし、英語カナ混じり的な日本の企業社会の実態を踏まえ、すべての教科で、英語を意図的に多用しています。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「米国煙草産業における多角化」　（修士論文、英語）	1976.6
近年の業績		

氏　名	大坪（おおつぼ）　建（たけび）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	OTSUBO, Takebi	学　位	工学博士
専門分野 研究テーマ	経営革新論・開発経営論		
所属学会	研究・技術計画学会		

略歴	学歴	1959 年 3 月　東京大学工学部卒業
	主な職歴	1959 年 4 月～1971 年 4 月　日本化薬株式会社 1971 年 5 月～1996 年 1 月　野村総合研究所 1997 年 4 月～　桜美林大学経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	科学技術計画学会	
主要担当科目	（大学院）　経営革新論 （学部）　技術開発と経営	

教育研究等活動

＜研究＞新商品・新事業開発に関する事例研究を中心に、開発経営・経営革新の研究を行っている。
＜教育＞学部学生・大学院生に共通して、自学（本を読み、経営事例の見聞を通して、考え、自己の考えを論理的に表現すること）をすすめ、その為に必要な指導を行い、院生には更に高めた研究方法論を修得し、文献収集・購読と論文の論理展開力を磨くよう指導に努めている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『プロダクトチャンピオン－新事業新商品開発の立て役者たち』　（単、産能大学出版部）	1997
	2.「創造の戦略」　（共、『新世紀の経営戦略』第 17 巻－総合法令）	1995
近年の業績	1.「マーケティング戦略の基底的視点」　（『経営政策論集』第 1 巻 No.1）	2001.12
	2.「事例研究－三共のメバロチン開発経緯」　（『桜美林エコノミスト』第 42 巻）	1999.12
	3.「新商品開発組織の運営原理」　（『桜美林エコノミスト』第 36 巻）	1996.12
	4.「日本の経営革新－リストラクチャリングの役割と限界」　（『経営システム』Vol.3 No.4）	1993.4
	5.「イノベーション創造・推進の組織戦略」　（ノムラサーチ）	1990.10

210－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	小沢（三由）　雅子（おざわ　みよし　まさこ）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	OZAWA (MIYOSHI), Masako	学　位	
専門分野 研究テーマ	経済学（ミクロ、マクロ）、経済政策（金融、財政、通貨）、国際資本移動、国際労働移動、社会経済学		
所属学会	日本金融学会、日本商業学会		

略歴	学歴	1976 年 3 月　東京大学経済学部経済学科卒業
	主な職歴	1976 年 4 月～1987 年 3 月　日本長期信用銀行調査部エコノミスト 1986 年 4 月～1987 年 3 月　法政大学経営学部非常勤講師 1987 年 4 月～1997 年 8 月　東京工業大学工学部社会工学科助教授 1997 年 9 月～　桜美林大学国際学部教授 1997 年 9 月～　同　大学院国際関係専攻科博士前期・後期課程兼任教授
	受賞	
学界活動 社会活動	相模原市行政改革・中核市推進委員会委員	
主要担当科目	（大学院）　国際金融論、社会経済学、個別演習、研究指導 （学部）　経済学概論、社会経済学、国際金融論、基礎演習、専攻演習	

教育研究等活動

＜研究＞資本と労働の移動と地域経済との相関に関する研究
＜教育＞学生が自分で研究テーマを決め、自分の意見を論理的に述べる訓練を行っている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『新・階層消費の時代』（単、日本経済新聞社 初版）、（単、朝日文庫 増補版）	1985、1989
	2.『幸福の経済システム』（単、筑摩書房）	1989
	3.『いま　日本経済がおもしろい』（共、有斐閣）	1989
	4.『日本の歴史』「高度経済成長」（共、朝日新聞社）	1995
	5.『21 世紀、日中経済はどうなるか ― 転換期における日中両国経済の研究』「第 3 章 近代化日本の金融システム改革の 2 つのベクトル－国際化自由化と国内化統制化」（共、学文社）	2002
近年の業績	（著書）	
	1.『住宅福祉への指標』「福祉の産業化」（共、東京都社会福祉評議会）	1985
	2.『産業社会を超えて』「所得格差と資産格差」（共、同文館）	1986
	3.『昭和経済史』「金融恐慌」「井上財政」「金本位体制と昭和恐慌」「高橋財政」「戦時経済体制」「石橋財政と復金インフレ」「ドッジ･ライン」「もはや戦後ではない」「神武景気」「過剰流動性インフレ」「ドル･ショック」「サービス経済」「第 2 次石油危機」（共、筑摩書房）	1986
	4.『土地問題“際考”』「再開発と経済」（共、学陽書房）	1988
	5.『明日の都市づくり』「都市と労働」（共、学陽書房）	1989
	6.『市民生活と自治体責任』（共、学陽書房）	1989
	7.『価値観多様化の研究』「価値観の変化に影響を与える経済・社会要因」（共、総合研究開発機構）	1992
	（論文）	
	1.「1 経済学者が見た憲法と安全保障」（単、『思想の科学』、507 巻 11）	1993
	2.「日本の住宅と都市への疑問―1～3」「快適な暮らしを求めて―1～10」（単、『建設業界』　43 巻 8､10､12 号、44 巻 1,4,6,8,10,12 号、45 巻 2,4,6,8 号）	1994～1996
	3.「人の移動と都市の経済発展」（単、『町田・相模原広域連携ミレニアム・シンポジウム報告書』町田・相模原広域連携ミレニアム・シンポジウム事務局）	2000 2000
	4.「転換期における日本の金融システム」（単、『桜美林大学産業研究所・北京師範大学経済学院 2000 年度学術交流報告集』桜美林大学産業研究所）	

氏　名	坂部　恵（さかべ　めぐみ）	所　属	文学部
		職　位	教授
	SAKABE, Megumi	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	ヨーロッパ近・現代哲学、日本近代精神史		
所属学会	日本哲学会、日本倫理学会、美学会、日仏哲学会、カント協会ほか		

略歴	学歴	1959 年 3 月　東京大学文学部哲学科卒業 1962 年 4 月　　同　大学院人文科学研究科博士課程満期退学
	主な職歴	1967 年 4 月～1970 年 3 月　国学院大学文学部専任講師 1970 年 4 月～1973 年 3 月　東京都立大学人文学部助教授 1973 年 4 月～1975 年 3 月　東京大学教養学部助教授 1975 年 4 月～1985 年 3 月　　同　文学部助教授 1985 年 4 月～1996 年 3 月　　同　文学部教授 1996 年 4 月～　　桜美林大学教授
	受賞	1976 年　哲学奨励山崎賞、1986 年　サントリー学芸賞、2001 年　紫綬褒章
学界活動 社会活動	日本哲学会前会長、日本カント協会常任委員、比較思想学会理事等	
主要担当科目	（大学院）　比較文化理論 （学部）　　現代思想入門、日本文化論、美学	

教育研究等活動

＜研究＞カント研究から出発し、現代の視点からヨーロッパ精神史の根本的な組み換えを試み、また日本語による哲学的思索の可能性について多くの実験を重ねている。

＜教育＞学部の授業では視聴覚教材を大幅に取り入れ、文化と文化史への生き生きとした興味と思考を喚起すべく工夫を重ねている。大学院の授業は、古典を正確に緻密に読みその上で自己の考えを組み立てることの訓練に重点を置いている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『理性の不安――カント哲学の生成と構造』　（単、剄草書房）	1976.6
	2.『ヨーロッパ精神史入門――カロリング・ルネサンスの残光』　（単、岩波書店）	1997.5
	3.『＜ふるまい＞の詩学』　（単、岩波書店）	1997.8
近年の業績	（論文）	
	1.「生と死のあわい」　（単、日独文化研究所第七回公開シンポジウム記録）	1998.6
	2.「哲学の終焉か、哲学の新生か」、叢書転換期のフィロソフィー、第 1 巻＜哲学＞＜知＞の新たな展開　（単、ミネルヴァ書房）	1999.2
	3. 九鬼周造『偶然性の問題・文芸論』　（燈影社、編集・解説）	2000.4
	4.「日本哲学の可能性」　（単、シリーズ・近代日本の知　第一巻『知の座標軸』晃洋書房）	2000.8
	5.「戦乱・革命と遠い記憶、火山の上の祝祭―哲学史の中の二〇世紀」　（単、『20 世紀の定義①20 世紀への問い』、岩波書店）	2000.10
	6.「和辻哲郎とヘルダー――精神史的観点から」　（単、『比較思想研究』第 27 号、比較思想学会）	2001.3
	7.「モデルネ」の移入から見たカント」　（単、日本カント協会編『日本カント研究 2、カントと日本文化』、理想社）	2001.6
	8.「バロックの復権は哲学史をどう書きかえるか―二十世紀哲学の回顧と二十一世紀の展望」　（単、法政哲学会会報第 19 号）	2001.6
	以下、論文 5 篇ならびに 10 数回の講演は省略	

212－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	佐藤（さとう）　考一（こういち）	所　属	国際学部
		職　位	助教授
	SATO, Koichi	学　位	政治学修士
専門分野 研究テーマ	東南アジア地域研究　ＡＳＥＡＮ、マレーシア・シンガポール、中国・東南アジア関係		
所属学会	日本国際政治学会、アジア政経学会		

略歴	学歴	1983 年 3 月　東京都立大学法学部卒業 1993 年 3 月　同　大学院社会科学研究科政治学専攻修士課程終了 1996 年 3 月　同　同　博士課程単位取得退学
	主な職歴	1983 年 4 月～1987 年 2 月　日立化成工業株式会社 1997 年 4 月～　桜美林大学国際学部助教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本国際政治学会評議員、アジア政経学会評議員	
主要担当科目	（大学院）　外交史Ⅰ・Ⅱ （学部）　発展途上国論、アジアの政治、東南アジア研究	

教育研究等活動

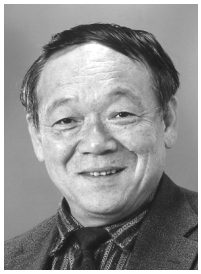
＜研究＞組織としての ASEAN の研究、マレーシア・シンガポール社会の研究、中国・東南アジア関係、の 3 つのテーマを継続的に追っている。

＜教育＞学部学生に対しては、東南アジアや中国の発展途上国の政治・経済・社会の解説を通じて、マルチ・エスニック国家の特徴と、日本の特殊性を理解させることに重点を置いている。院生に対しては、歴史的形成過程から現代に至るまでの外交の手段とその分析のあり方を著名な研究書の輪読で身に付けさせている。

研究助成	平成 13－14 年度桜美林大学国際学研究所プロジェクト「ASEAN の会議外交」継続中

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「グループ代表選挙区（GRCs）制とシンガポール総選挙」（単、『アジア経済』1992 年 7 月号、アジア経済研究所）	1992.7
	2.『ポスト冷戦のアジア太平洋』（共、日本国際問題研究所）	1995.3
	3.『イスラームに何が起きているか』（共、平凡社）	1996.1
近年の業績	（著書）	
	1.『中国は脅威か』（共、勁草書房）	1997.6
	2.『転換期の ASEAN』（共、日本国際問題研究所）	2001.5
	（論文）	
	1.「ASEAN 諸国の対中認識」（単、『国際政治』第 116 号、日本国際政治学会）	1997.10
	2.「ASEAN の興隆」（単、『国際問題』2000 年 8 月号、日本国際問題研究所）	2000.8
	（学会発表）	
	1.「ASEAN 諸国から見た『中国脅威論』」（日本国際政治学会）	1997.5
	2.「転換期に入った ASEAN」（アジア政経学会東日本大会）	1999.5
	（その他活動等）	
	1.東京外国語大学外国語学部兼任勤講師	2000.4～
	2.人事院公務員研究所指導教官（兼任）	2000.4～2002.3
	3.海上自衛隊幹部学校指導教官（兼任）	1999.4～

氏　名	佐藤（さとう）　憲正（のりまさ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	SATO, Norimasa	学　位	経営学修士
専門分野 研究テーマ	経営管理論、組織論、国際比較経営論		
所属学会	経営学会、組織学会、国際ビジネス学会、経営行動学会、OA 学会		



略歴	学歴	1965 年 3 月　早稲田大学第一政治経済学部卒業 1968 年 3 月　同　商学研究科経営経済専攻修士課程終了 1972 年 3 月　同　博士課程満期退学
	主な職歴	1968 年 4 月～1969 年 3 月　東海興業株式会社 1969 年 4 月～1970 年 3 月　パオス株式会社 1970 年 4 月～1973 年 3 月　TBI ビジネス外語 1972 年 4 月～1986 年 3 月　桜美林大学経済学部専任講師 1986 年 4 月～1988 年 3 月　同　助教授 1988 年 4 月～2000 年 3 月　同　教授 2000 年 4 月～　同　経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	OA（オフィスオートメーション）学会国際交流委員	
主要担当科目	（大学院）　経営管理論、国際比較経営論 （学部）　国際ビジネス入門、経営管理論	

教育研究等活動

＜研究＞投資決定論、情報管理論、管理論を通じ、現在では主に国際比較経営論を中心に多国籍企業の現地化に伴う各種資源（人、金、物、情報）の管理や戦略について研究している。

＜教育＞経営政策学部を構成する五つのコースの中核となる管理論を担当しているため、他のコースにおける組織や人的資源管理戦略展開の重要性について教育しているが、経営問題と直接関係がない職場に就職すると考えている学生が多数おり、その必要性や重要性を教育することに苦慮している。一方、大学院においては、ゼミ生の大半が中国や韓国からの留学生であり、特に中国人留学生を指導するに当たりまず資本主義・自由契約社会に対する基本的理解を深めさせることから始めなければならないことも多く、日本人院生と机を並べて研究指導することに苦労している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『外資企業インジャパン』　（共、同文館）	1988.6
	2.『国際化社会の経営学』　（共、八千代出版）	1990.9
	3.『国際ビジネスと人的資源戦略』　（共、黎明出版）	1996.5
近年の業績	（著書）	
	1.『情報リテラシー入門』　（編著、東洋経済）	1998
	（論文）	
	1.「経営情報リテラシーと経営文化」　（単、『経営行動学会年報』第 11 号）	2002.7
	（学会発表）	
	1.「Information Literacy and Management and Cultural Media」 （The International Federation of Associations for Middle Eastern and Central Asian Countries Economics and Management）	2000.5
	2.「Management Information Literacy and Cultural Media」 （International Federation of Scholarly Associations of Management）	2000.7
	3.「Bio-business Strategy of Japanese Traditional Industry」 （International Federation of Scholarly Associations of Management）	2002.7
	（その他活動等）	
	1. 講演「大競争時代に生き残るための新市場戦略」　（新潟県建設業協会）	2001.11
	2. 研修会講師「中小建設業活性化戦略」　（国土建設省・財団法人建設業振興基金）	2002.7

214－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	佐藤（さとう）　正典（まさのり）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	SATOH, Masanori	学　位	法学修士
専門分野 研究テーマ	商法、証券取引法、国際取引法		
所属学会	国際経済法学会、日仏経営学会		

略歴	学歴	1977 年 3 月　東京大学文学部西洋史学科卒業 1993 年 3 月　　同　大学院法学政治学研究科修士課程修了
	主な職歴	1977 年 4 月～1997 年 3 月　山一證券経済研究所 1997 年 4 月～2001 年 3 月　桜美林大学助教授 2001 年 4 月～　　同　　教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日仏青年会議顧問、公社債引受協会研究委員	
主要担当科目	（大学院）　現代企業法 （学部）　　民法入門、契約法、国際取引法	

教育研究等活動

＜研究＞企業の研究所で長年内外の金融資本市場の法制度について調査研究を行ってきた経験に基づき、理論と実務の双方の視点を大切にする研究を心がけている。

＜教育＞学生に対しては、判例、事件などを多く取り入れた解説を行い、職業人の感覚が身に付くように指導している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『戦略的 IR 活動の展開』　（単、三和総合研究所）	1998.5
	2.『インサイダー取引規制実務』　（共、財経詳報社）	1988.3
	3.「米国のタックス・フリー・リオーガナイゼーション及びわが国の会社組織変更に関する課税制度」　（単、『貿易と関税』第 41 巻 12 号、日本関税協会）	1993.11
近年の業績	（研究発表） 1.「日本の資本市場と制度改革」　（経済協力開発機構専門家会議）	2000.7
	（講演） 1.「企業統治を考える」　（三和総合研究所）	1999.10
	（寄稿） 1.「私の視点――規制緩和を進める勇気を」　（東奥日報紙）	2000.6.20

氏　名	清水（しみず）　哲治（てつじ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	SHIMIZU, Tetsuji	学　位	
専門分野 研究テーマ	マーケティング論、広告とマーケティングコミュニケーション 広告が消費者に与える影響の時代的変遷（とくに案内広告の研究）		
所属学会	日本広告学会、日本マスコミニュケーション学会		

略歴	学歴	1965 年 3 月　東京大学経済学部卒業 1972 年 6 月～1973 年 2 月　米国ミシガン州立大学およびペンシルバニア大学（地域科学学部）留学
	主な職歴	1965 年 4 月～1997 年 11 月　株式会社電通（総務部長、海外広報部長、電通英国社長など歴任） 1997 年 4 月～1999 年 3 月　桜美林大学経済学部非常勤講師 1999 年 4 月～　同　経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	松戸市観光大使（1997 年より現在）	
主要担当科目	（大学院）　国際マーケティング （学部）　マーケティング論、広告コミュニケーション	

教育研究等活動

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『企業　海外広報論』　（単、青磁書房） 2.『グローバル・マーケティング』　（共訳、ミネルバ書房）	2000.7 2003.3 （予定）
近年の業績	（論文） 1.「職業観の変革を求めて」　（単、『Obirin Today』）	2000.5
	（学会発表） 1.「広告プランニングにおける消費者インサイト―電通の場合」　（日本広告学会） 2.「広告アカウント・プランニングの研究」　（日本広告学会）	2000.6 1999.6
	（寄稿） 1.「職業観革命の時代」　（『桜美林大学たより』）	2000.5

216－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	菅原（すがはら）　一孝（かずたか）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	SUGAHARA, Kazutaka	学　位	
専門分野 研究テーマ	中小企業論、小売店経営、横浜中華街 高齢社会と小売業の関係、商空間の街づくり		
所属学会	経営行動研究学会		

略歴	学歴	1965 年 3 月　横浜市立大学商学部卒業
	主な職歴	1970 年 7 月～1997 年 3 月　横浜市中小企業指導センター勤務 1974 年 4 月　通産省登録中小企業診断士取得 1987 年 4 月～1990 年 3 月　関東学院大学経済学部非常勤講師 1993 年 4 月～1998 年 3 月　桜美林短期大学非常勤講師 1996 年 4 月～1997 年 3 月　桜美林大学経済学部非常勤講師 1997 年 4 月～2000 年 3 月　同　経営政策学部助教授 2000 年 4 月～　同　教授
	受賞	1980 年　中小企業長官賞　1983 年　日本経済新聞社賞
学界活動 社会活動		商工会中小商業活性化委員会委員、横浜学連絡会議委員
主要担当科目		（大学院）　中小企業論 （学部）　中小企業入門、リテール経営論、中小企業経営論

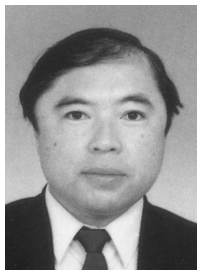
教育研究等活動

＜教育＞学部の学生に対しは授業を分かりやすくして興味をもって貰うために、「パワーポイント」を活用した授業を行っている。私語と睡眠が激減した。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. 『このままでは商店街は崩壊する』　（単、ダイヤモンド社）	1986.6
	2. 『横浜中華街研究』　（単、日本経済新聞社）	1998.1
	3. 『横浜中華街探検』　（単、講談社）	1996.2
近年の業績	（著書）	
	1.『高齢者の消費実態と商店街の対応』　（共、中小企業事業団）	1999.3
	2.『高齢化・商業の過疎化に対応した商業の社会活動』　（共、商工会連合会）	2000.3
	3.『商工会地区における TMO の取り組み』　（共、商工会連合会）	2000.3
	4.『地域グループの連携による中小商業活性化』　（共、商工会連合会）	2001.3
	5.『商工会地区における商業先進事例集』　（共、商工会連合会）	2002.3
	6.『横浜歴史散歩』　（共、横浜学連絡会議）	2002.5
	（その他活動）	
	1.講演「横浜中華街の街づくりと成功要因」　（ソウル市チャイニーズセンター）	1999.9
	2.パネラー「町田市経営シンポジウム」　（町田市商工会議所）	1999.2
	3.コーディネーター「町田市の街づくりシンポジウム」　（町田市商工会議所）	2000.2

氏　名	髙橋（たかはし）　順一（じゅんいち）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	TAKAHASHI, Junichi	学　位	博士（人類学）
専門分野 研究テーマ	文化人類学、心理人類学、応用人類学 現代の捕鯨文化と環境観、国際理解/多文化教育、北米民族誌		
所属学会	日本民族学会、日本社会心理学会、日本国際理解教育学会、ほか		



略歴	学歴	1973 年 3 月　京都大学文学部（哲学科心理学専攻）卒業 1984 年 9 月　ニューヨーク市立大学大学院（人類学）修了　Ph.D.
	主な職歴	1979 年 9 月～1979 年 8 月 ニューヨーク市立大学ブルクリン校非常勤講師 1985 年 4 月～1987 年 3 月 文化女子大学／女子短期大学非常勤講師 1989 年 4 月～1993 年 3 月 桜美林大学国際学部助教授 1993 年 4 月～1998 年 3 月 名古屋大学大学院国際開発研究科非常勤講師 1993 年 4 月～　桜美林大学国際学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	大学評価・学位授与機構専門委員、財団法人日本鯨類研究所理事、日本科学協会専門委員、相模原市市史編さん審議会副会長、日本国際理解教育学会第 13 回大会準備運営委員長	
主要担当科目	（学部）　文化人類学、心理人類学、社会調査法、組織コミュニケーション、ほか	

教育研究等活動

＜研究＞鯨類資源の利用という生業・産業活動の上に築かれている文化（知識や技術・社会制度慣習等の複合的体系）をグローバルな視点から民族誌的に記述し国際的比較を行っている。特に捕鯨禁止後は、捕鯨地域への社会経済的打撃の査定とその解決および村興しの可能性を応用人類学的にさぐっている。

＜教育＞町田相模原を中心とする地域社会の国際理解教育を支援するアウトリーチプログラム「桜美林・草の根国際理解教育支援プロジェクト」の代表としてプログラムの運営にあたっている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『鯨の日本文化誌』（単、淡交社）	1992
	2.『異文化へのストラテジー』（共編著、川島書店）	1991
	3. ”Small-Type Coastal Whaling in Japan”（共、University of Alberta）	1988
	4.　Case-Marking in Kiowa（単、Ph.D. Dissertation, CUNY）	1985
近年の業績	（著書）	
	1.『人間科学研究法ハンドブック』（共編著、ナカニシヤ出版）	1998
	2.『はるかなるオクラホマ：ネイティブアメリカン・カイオワ族の物語りと生活』（単、はる書房）	2002
	（論文）	
	1.「北米インディアンの英語化と民族アイデンティティーの問題」（単、日文献叢書 14『日本人と英語：英語化する日本の学際的研究』）	1998
	2.”English Dominance in Whaling Debate: A Critical Analysis of Discourse at the International Whaling Commission”（単、Japan Review 10.）	1998
	3.「文化人類学と性格」（単、詫間他編『性格心理学ハンドブック』福村出版）	1998
	4.「捕鯨と鯨類保護をめぐるカルチュラルポリティクス」（単、『私学研修』154 号）	2000
	（その他）	
	1.「ミンク鯨漁再開がもたらす牡鹿町の活性化に関する研究」（委託研究報告書、水産庁／日本鯨類研究所）	1998

氏　名	高橋（たかはし）　勐（つとむ）	所　属	コア教育センター
		職　位	教授
	TAKAHASHI, Tsutomu	学　位	理学博士
専門分野 研究テーマ	気象学 雷、集中豪雨		
所属学会	日本気象学会、大気電気学会、米国気象学会、米国地球物理連合		

略歴	学歴	1957 年 3 月　北海道大学理学部卒業 1959 年 3 月　　同　　理学研究科修士課程修了 1962 年 3 月　　同　　同　　博士課程修了（理学博士）
	主な職歴	1962 年 4 月～1966 年 7 月　名古屋大学理学部助手 1966 年 8 月～1970 年 6 月　　同　　助教授 1970 年 7 月～1974 年 6 月　ハワイ大学気象学部助教授 1974 年 7 月～1987 年 3 月　　同　　教授 1986 年（10 ヶ月）　東京大学客員教授 1987 年 4 月～1997 年 3 月　九州大学教授 1991 年 4 月～1994 年 3 月　京都大学併任教授 1997 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	1965 年　日本気象学会賞、1996 年　日本大気電気学会賞
学界活動 社会活動	学位審査専門委員	
主要担当科目	気象と環境、地球規模環境論	

教育研究等活動

＜研究＞同じ赤道域でも雷活動は大陸と海洋上では 2 ケタ異なる。
過去 10 年間東南アジア 13 ヶ所で vidcosonde を飛揚してきた。
雷活動の違いは雲内での氷晶空間濃度の差によることが分かってきた。
＜教育＞“なぜ”という疑問に答えながら自然の理解、環境破壊の現況を解説している。

研究助成	2002 年度：NASDA“アジアモンスーン降雨プロセスの研究” 2002 年度：東大気候センター“アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究” 1998～2001 年：NASDA、東大気候センター、トヨタ、三菱

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. Riming electrification as a charge generation mechanism in thunderstorms（単 J.Atmos.　Sci., 35）	1978
	2. 『雲の物理』（単、東京堂）	1987
近年の業績	（論文）	
	1. Takahashi, T., and K. Miyawaki:　Re-examination of riming electrification in a wind tunnel.（共、J. Atmos. Sci., 59, 1018-1025, 2001）	2001
	2. Takahashi, T., N. Yamagtuchi and T. Kawano:　Videosonde observation of Torrential rain during Baiu season.（共、Atmospheric Research, 58, 205-228）	2001
	3. Keenan, T., S. Rutledge, R. Carbone, J. Wilson, T. Takahashi, P. May, N. Tapper, M. Platt, J. Hacker, S. Sekelsky, M. Moncrieff, K. Saito, G. Holland, A. Crook and K. Gage: The maritime continent thunderstorm experimemt (MCTEX):　Overview and some results.（共、Bull. of Amer.　Meteor. Soc., 81, 2433-2455）	2000
	4. 高橋　勐「雷」（単、『天気』47, 51-56）	2000
	5. Takahashi, T., T. Tajiri and Y. Sonoi:　Charges on graupel and snow crystals and the electrical strtucture of winter thunderstorn.（共、J. Atmos. Sci.56, 1561-1578）	1999
	6. Takahashi, T., and T. Kawano:　Numerical sensitivity study of rainband precipitation and evolution.（共、J. Atmos. Sci., 55, 57-87）	1998

氏　名	鷹木（たかき）　恵子（けいこ）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	TAKAKI, Keiko	学　位	博士（文学）

専門分野 研究テーマ	文化人類学、北アフリカのアラブ・イスラーム社会研究 民衆イスラームの歴史人類学的研究、開発とジェンダーの研究
所属学会	日本民族学会、日本中東学会、「宗教と社会」学会、国際開発学会

略歴	学歴	1978 年 3 月　立教大学文学部卒業 1976～77 年　オランダ・ナイメーヘン大学・社会文化人類学研究所留学 1980 年 3 月　立教大学大学院文学研究科文化人類学専攻・博士前期課程修了 1981～82 年　チュニジア・チュニス大学ブルギバ現代語学院留学 1984 年 3 月　立教大学大学院文学研究科文化人類学専攻・博士後期課程中途退学 2001 年 3 月　博士（文学）取得（立教大学）
	主な職歴	1984 年 4 月～1988 年 3 月　筑波大学・歴史人類学系文部技官 1988 年 4 月～1989 年 3 月　桜美林大学国際学研究所専任講師 1989 年 4 月～2001 年 3 月　同　国際学部助教授 2001 年 4 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		日本イスラーム協会常任委員、「宗教と社会」学会常任委員、日本民族学会編集委員
主要担当科目		（大学院）　文化人類学Ⅰ、Ⅱ （学部）　比較文化方法論、文化と人間、比較文化学入門、比較文化学専攻演習　等

教育研究等活動

＜研究＞これまで北アフリカの特にチュニジアの農村部を対象に、民衆イスラームとりわけイスラーム聖者信仰の歴史人類学的研究を進めてきたが、最近ではオアシス農村社会の変容や、開発とジェンダーの問題を新らたなテーマとし、調査研究に取り組んでいる。

＜教育＞大学院では、中東・北アフリカ・イスラーム社会における人間開発や社会開発に関わるテーマで講義と関連論文の講読をおこなっている。学部では、文化人類学や比較文化的なものの見方・考え方を通じて、グローバル化時代に生きる人間としてふさわしい教養とは何かを問いつつ、授業を進めている。

研究助成	1999 年度　文部省科学研究費出版助成 1999～2000 年度　科学研究費基盤研究（C）「グローバル化のなかのアラブムスリム世界」（研究代表者：大塚和夫、研究分担者） 2002 年度～　科学研究費基盤研究（C）「中東イスラーム諸国におけるジェンダー開発に関する文化人類学的研究」研究代表者等

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	（著書）	
	1.『北アフリカのイスラーム聖者信仰－チュニジア・セダダ村の歴史民族誌』（単、刀水書房）	2000.3
	2.『チュニジアのナツメヤシ・オアシス社会の変容と基層文化』（単、東京外大 AA 研 Studia Culturae Islamicae）	2000.3
	3. “Les Stambali; Leurs rites et leur culture sonore”（単、in Cultures sonores d’Afrique, J. Kawada（ed.）, Tokyo: ILCAA.）	1997. 3
近年の業績	（著書）	
	1.『中東・イスラーム社会研究の理論と技法』（共、文化書房博文社）	2000.3
	2.『現代アラブ・イスラーム世界』（共、世界思想社）	2001.12
	（論文）	
	1.「チュニジアのナツメヤシ民俗文化」（単、『沙漠研究』第 7 巻第 2 号）	1998.3
	2.「さまざまなイスラームへの視点」（単、『国際人流』第 141 号）	1999.7
	3.「チュニジア農村部女性の内職にみる民俗知識と技法」（単、大塚和夫編『ムスリム社会における民俗知識の継承とその変容』平成 8-10 年度文部省科学研究費国際学術研究報告書）	2000.3
	4.「書評論文　L.アハメド『イスラームにおける女性とジェンダー』」（単、『イスラーム世界』第 56 号）	2001.3
	5.「マグリブ諸国で広がるマイクロクレジット」（単、『季刊 アラブ』No.97. 日本アラブ協会）	2001.7
	6. "Women's Domestic Sidework and the New Media"（Working Draft of International Symposium The Dynamism of Musulim Societies.）	2001.3
	7.「マグリブ三国におけるイスラームと国家体制」（単、大塚和夫編『グローバル化のなかのアラブ・ムスリム世界』平成 11-12 年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究報告書）	2001.5
	8. "Microcredit and Development: A Comparison with JapaneseTanomoshikoh and Cosumer Loans"（Tunisia－Japan Cultural Dialogue. Tunis, Beit El-Hikma.）	2001.11
	9.「ムスリムの信仰にみる多層性」『別冊 4　環 イスラームとは何か』（単、藤原書店）	2002.5
	10.「書評論文　大塚和夫『イスラーム・近代・人類学』東京大学出版会」（単、『宗教と社会』第 8 号　「宗教と社会」学会）	2002.6
	（編集協力）	
	1.『イスラーム世界事典』（共、明石書店）	2002.3

220－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	瀧井　光夫（たきい　みつお）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	TAKII, Mitsuo	学　位	
専門分野 研究テーマ	国際貿易論、アメリカ経済論 地域経済統合、アメリカの対外経済関係と通商政策		
所属学会	アメリカ学会、日本貿易学会		

略歴	学歴	1967年3月　東京外国語大学インド・パーキスタン語学科卒業 1972年9月　貿易研修センター（IIST）本科修了
	主な職歴	1967年4月　日本貿易振興会（ジェトロ）入会 1977年2月～1981年4月　同　ニューヨーク・センター調査部 1987年6月～1991年7月　同　同　次長 1996年7月～1998年1月　同　海外調査部長 1998年4月～　桜美林大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動	国際貿易投資研究所客員研究員、日本貿易振興会客員研究員	
主要担当科目	（大学院）　アメリカ経済 （学部）　アメリカの経済、国際貿易論、日米関係論	

教育研究等活動

＜研究＞NAFTA（北米自由貿易協定）の実施状況、その経済的効果と影響の研究を中心に世界の地域統合の動向を分析している。アメリカ経済ではマクロ経済、経済・通商政策を重点に置いてフォローしている。

＜教育＞学部学生は経済問題を敬遠しがちだが、経済問題がいかに身近で大切なものかを実感させることにまず重点をおいている。そのためには理論だけに傾斜せず、現実の問題を提示して考えさせる訓練を積むように努めている。大学院では、海外からの留学生が多く、基礎が十分でない学生も多いので、基礎的な文献を多く読み、研究態勢の強化をめざしている。

研究助成

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『米国経済ハンドブック』（編著、東洋経済新報社）	1982.9
	2.「FXS問題からみた米議会の対日姿勢」（単、『議会政治研究』No.11、議会政治研究会）	1989.9
	3.『モザイク都市ニューヨーク』（単、日本貿易振興会）	1994.3
	4.『APEC　日本の戦略』（共、早稲田大学出版部）	1995.11
	5.『日米経済関係』（共、勁草書房）	1996.3
近年の業績	（著書）	
	1.『アジア通貨危機－東アジアの動向と展望』（共編著、日本貿易振興会）	1998.2
	2.『アジア経済再生』（共、日本貿易振興会）	1999.8
	3.『地域経済統合の経済学』（共、勁草書房）	1999.9
	4.『ポスト通貨危機の経済学』（共、勁草書房）	2000.9
	5.『経済検証　グローバリゼーション』（共、文眞堂）	2001.10
	6.『日本のFTA戦略』（共、日本経済新聞社）	2002.7
	（論文）	
	1.「進展する米国経済のグローバル化とその含意」（単、『ITI季報』第33号、国際貿易投資研究所）	1998.7
	2.「緊密化する米中経済関係と中国の対米依存」（単、『日中経協ジャーナル』、日中経済協会）	1998.11
	3.「拡大する米国の経常収支赤字－急増の背景とそのリスク」（単、『ITI季報』第37号）	1999.7
	4.「新政権下の米国経済と日米関係」（単、『日機連月報』通巻582号、日本機械工業連合会）	2000.12
	5.「2001年ブッシュ減税と景気刺激策」（単、『ITI季報』第47号）	2002.2
	6.「9.11テロと米国経済」（単、『国際問題』No.503、日本国際問題研究所）	2002.2
	7.「NAFTA域内貿易の展開」（単、『季刊国際貿易と投資』第49号、国際貿易投資研究所）	2002.8
	（講演）	
	1.「ブッシュ新政権：経済課題と経済政策」（国際貿易投資研究所セミナー）	2001.2
	2.「米国経済の今後とニューエコノミーの行方」（日本機械輸出組合大阪支部講演会）	2001.7
	3.「米国経済の現状と日米経済関係」（防衛研究所第49期一般研修）	2001.12
	4.「三大教書にみるアメリカの課題と経済の行方」（企業活力研究所第23回研究会）	2002.2

氏　名	富森　虔児（とみのもり　けんじ）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	TOMINOMORI, Kenji	学　位	経済学博士
専門分野 研究テーマ	経済学、国際比較経済論、複雑系経済学		
所属学会	日本経済学会、進化経済学会、比較経済体制学会		

略歴	学歴	1958 年　東京大学経済学部卒業 1959 年　　同　大学院修士課程修了 1963 年　　同　　同　博士課程単位取得退学
	主な職歴	1963 年 4 月～1964 年 3 月　北海道大学経済学部助手 1964 年 4 月～1965 年 3 月　　同　　講師 1965 年 4 月～1978 年 3 月　　同　　助教授 1978 年 4 月～1994 年 3 月　　同　　教授 1994 年 4 月～　　桜美林大学国際学部教授 （この間　米国ポートランド州立大学客員教授、1981、86、89 年）
	受賞	
学界活動 社会活動	進化経済学会監事	
主要担当科目	（大学院）　国際比較経済論 （学部）　国際経済論、Japanese Economy（English conducted class）	

教育研究等活動

＜研究＞経済の国際比較、システムの移行などが長年の研究テーマであるが、最近は近年急速に発展している複雑系経済学などの手法を積極的に活用する方向に進んでいる。

＜教育＞授業は学生との communication を重視する。毎回のハンドアウト資料などは十分に準備するがどのようにそれを語っていくかは、現実の学生との明示的、暗示的交流のなかでアドリブ的に決めていくスタイルを重視している。これによって当方も学生側もより活性化される可能性が高いからである。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『現代資本主義の理論』　（単、新評論）	1977
	2.『市場への遅れた目覚め』　（単、社会思想社）	1993
	3.『自己組織化と創発の経済学』　（単、シュプリンガーフェアラーク東京）	2001.12
近年の業績	（著書）	
	1.『自己組織化と創発の経済学』　（単、シュプリンガーフェアラーク東京）	2001
	（論文）	
	1. ”Japanese System in an Institutional Complementarity and its Probable Evolution”（単、Economic Journal of Hokkaido University Vol. 26）	1997
	2.「進化経済学の成果と限界－システム転換の経済学を求めて」（単、『北海道大学経済学研究』第 48 巻第 4 号）	1999
	3.「自己組織化臨界現象と進化－経済システム分析への応用可能性」（単、『北海道大学経済学研究』第 50 巻第 1 号）	2000
	4.「デジタルエコノミーと創発的成長」（単、『北海道大学経済学研究』第 50 巻第 3 号）	2000
	5. ”Self－Organization Theory and its Applicability to Economic System”（単、Economic Journal of Hokkaido University Vol.31）	2002
	（学会発表）	
	1.「進化経済学の成果と限界」（進化経済学第 3 回大会）	1999
	2. ”Polish－German Trade and Polish Growth”（進化経済学会第 6 回大会国際セッション）	2002

222－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	山口（やまぐち）　祐司（ゆうじ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	YAMAGUCHI, Yuji	学　位	

専門分野 研究テーマ	ホスピタリティ・マネージメント、観光経営学、ホテル･レストラン管理会計学、ホテルレストラン･マネージメント契約の研究、ホテル会計基準の研究
所属学会	日本観光学会、日本国際観光学会、日本観光研究学会、日本ホスピタリティ・マネージメント学会、総合観光学会

略歴	学歴	1957 年 3 月　早稲田大学第一商学部卒業 1961 年 6 月　米国・コーネル大学ホテル経営学部修了
	主な職歴	1957 年 4 月　～1958 年 10 月　三菱商事株式会社 1958 年 11 月 ～　富士屋ホテル㈱企画広報課長、支配人、チェーン総支配人、副社長、常勤監査役、監査役 1999 年 4 月　～　桜美林大学経営政策学部教授 1999 年 4 月　～　早稲田大学商学部大学院客員教授
	受賞	1990 年　運輸省関東運輸局長表彰
学界活動 社会活動		日本国際観光学会副会長、日本ホテル教育センター監事、日本ホテル･レストランサービス技能協会常任理事、コーネル大学評議員、日本リゾートクラブ協会、日本健康文化振興会各理事
主要担当科目		（大学院）　観光経営論 （学部）　ホスピタリティ産業入門、ホスピタリティ・マネージメント、ホスピタリティ会計、ホテル･レストラン事業論演習

教育研究等活動

＜研究＞ホテル･レストラン、旅行、エンタテイメント、スポーツ、テーマパークなど観光、余暇関連のホスピタリティ産業の経営学、管理会計学などを主な研究テーマとしている。さらに、エコツーリズム、バリアフリーブランド、経験・感動価値などの経済学的経営学的研究。

＜教育＞最新のケーススタディ、ベストプラクティス、フィールドトリップ、インターンシップを取り入れ、映像・音楽など利用して、学生自らの好奇心を喚起、実社会で役立つ知識と創造力を養う。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『ホテル管理会計』（単、20 版、柴田書店）	1997.3
	2.『ホテル・レストランのマネージメント契約』（訳著、柴田書店：コーネル大学）	1992.6
	3.『米国ホテル会計基準』（単訳、米国ホテル協会、税務経理協会）	2002.12
近年の業績	（著書）	
	1.『ホスピタリティ・マネジメント』（共、生産性出版）	2002.7
	（論文）	
	1.「ホテル・旅館のブランドバリューとホスピタリティ・マネジメント」（単、『観光施設』）	2001.2～2002.9
	2.「ホスピタリティ・マネジメント最新経営手法」（単、月刊『レジャー産業』420～431）	2001.9～2002.8
	3.「ホスピタリティ・マネジメントとブランド・バリューの会計学的考察」（単、『税務通信』）	2001.3
	（学会発表）	
	1.「ホスピタリティ・マネジメントとブランド・バリュー」（日本国際観光学会）	2001.1
	（その他活動）	
	1.コーネル大学ホテル経営学部紀要訳・解説（月刊『ホテル旅館』毎月連載）	1964.1～2002.8
	2.「新たなステージに入ったわが国の都市型ホテル事業」（月刊『レジャー産業』6 月号）	2002.6
	3. コーネル大学／早稲田大学ホスピタリティ・マネジメントセミナーコーディネーター	2002.7

氏　名	吉田　三千雄（よしだ　みちお）	所　属	経済学部
		職　位	教授
	YOSHIDA, Michio	学　位	商学博士
専門分野 研究テーマ	産業構造論、日本経済論 日本機械工業の構造分析、地域経済研究		
所属学会	経済理論学会、土地制度史学会、多摩学会		

略歴	学歴	1969 年 3 月　中央大学商学部卒業 1976 年 3 月　同　大学院商学研究科修士課程終了 1982 年 3 月　同　博士課程修了 1983 年 3 月　商学博士の学位授与
	主な職歴	1969 年 4 月～1987 年 3 月　中小企業信用保険公庫勤務 1986 年 4 月～1992 年 3 月　中央大学商学部兼任講師 1987 年 4 月～1990 年 3 月　桜美林大学助教授 1990 年 4 月～　同　教授 2000 年 4 月～　明治大学商学部兼任講師
	受賞	
学界活動 社会活動	相模原地方自治研究センター理事長	
主要担当科目	（大学院）　日本経済 （学部）　産業構造論、日本経済論	

教育研究等活動

＜研究＞日本の金属・機械工業の構造について、統計整理・聞き取り調査などにより検討している。
また、中小・零細企業については、社会学的手法もふまえて、地域経済研究の一貫として研究の重点をおいている。

＜教育＞日本経済・産業についての、基礎的知識・分析能力の習得を目指して、わかりやすい授業をおこなっている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『日本工作機械工業の構造分析』　（単、未来社）	1986
	2.『重化学工業都市の構造分析』　（共、東京大学出版会）	1987
	3.『地域社会の構造と変容』　（共、中央大学出版部）	1994
近年の業績	（著書）	
	1.『現代日本産業の構造と動態』　（共、新日本出版社）	2000
	（論文）	
	1.「中小・零細企業における nc 工作機械導入とその影響」（単、「桜美林エコノミックス」37 号）	1997 1994
	2.「1980 年代におけるイギリス工作機械工業の展開過程」（単、「商学論さん」35-5 号）	2000
	3.「日本鉄鋼産業構造再編の現局面」（単、「桜美林エコノミックス」43 号）	2002
	4.「相模原市における中小・零細企業の存立構造とその変化」（単、「産業研究所年報」20 号）	

224－国際学研究科／国際関係専攻

氏　名	座間　紘一（ざま　こういち）	所　属	経済学部
		職　位	教授
	ZAMA, Kouichi	学　位	農学修士
専門分野 研究テーマ	現代中国経済論：中国における計画経済から市場経済への転換および転換期中国の農業・農村問題		
所属学会	日本現代中国学会、比較経済体制学会、中国経済学会、中国経営学会、 中国近現代史研究会、東アジア地域研究会		

略歴	学歴	1966 年 3 月　東京大学農学部農業経済学科卒業 1968 年 3 月　　同　　大学院農学系研究科農業経済学専門課程修士課程修了 1972 年 10 月　　同　　博士課程退学(単位修得)
	主な職歴	1972 年 11 月～ 1975 年 1 月　山口大学経済学部専任講師 1975 年 2 月～　1982 年 7 月　　同　　助教授 1982 年 8 月～　1999 年 3 月　　同　　教授 1999 年 4 月～　2002 年 3 月　桜美林大学大学院教授 2002 年 4 月～　　同　　経済学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　現代中国経済論 （学部）　　東アジア経済論

教育研究等活動

＜研究＞現代中国の従来型「社会主義」経済体制から「社会主義市場経済」体制への移行を「混合経済論」的視点から検討し、中国的特殊性や歴史的意義を研究している。そのなかで特に国有企業改革と農業・農村問題に注目している。

＜教育＞学部学生には、経済学の目で社会を見ると何がどのように見えてくるのかを、中国や東アジアを対象として、学生に分からせることを通じて、学生の経済学への興味を引き出すように努めている。

一方、院生に対しては、経済学の方法論の陶冶と文献資料の収集と分析の仕方を中心に、学術論文にまとめ上げていく力をつけるよう指導している。

研究助成

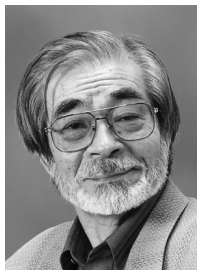
1998-2000年度文部省科研費 海外学術研究
－大学間協力研究「環黄海地域の産業展開と国際地域間経済協力に関する調査研究－日・中・韓の自動車・半導体産業を中心にして」（代表）座間紘一（ただし、1999年度以降、転出したために研究協力者になる）

1998-2000年度　同基盤研究（c)(2)
「中国農村人民公社研究－形成・展開・崩壊過程－」（代表）座間紘一

2001-2003 年度　同基盤研究（B)（海外学術調査）
「中国の国有企業改革に関する調査研究－所有制、グループ化及び企業統治を中心に－」（代表）座間紘一

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「『中国型社会主義』と近代化」 （単、池田誠・安井三吉・上原一慶編『中国近代化の歴史　的展望』法律文化社）	1996.4
	2.「中国の改革・開放と体制転換の行方―「社会主義市場経済」の正念場―」 （単、杉本昭七・関下稔・藤原貞雄・松村文武編『現代世界経済をとらえる ver3』東洋経済新報社）	1996.5
	3.「長江デルタ地域の経済発展江蘇省経済―市場経済化に焦点をあてて―」および「郷鎮企業の発展：蘇南モデルについて」 （単、木下悦二・杜進編『上海浦東地域の開発の周辺地域に及ぼす影響に関する基礎的研究』国際東アジア研究センター）	1996.8
近年の業績	（著書） 1.「中国の『社会主義市場経済』について」 （単、桜美林大学産業研究所・北京師範大学経済学院編『21 世紀、日中経済はどうなるか－転換期における日中両国経済の研究』学文社）	2002.9
	（論文） 1.「中国の国有企業改革と経済構造の転換」（単、『日中経協ジャーナル』日中経済協会 No.55）	1998.5
	2.「中国の改革・開放と経済システムの転換」（単、『経済』1999 年 1 月 No,40）	1998.12
	3.「中国における『村民自治』の経済的基礎」（単、『桜美林エコノミックス』第 45 号）	2001.3
	（書評） 1. 塚本隆敏『中国市場経済への転換』（税務経理協会『経済』No.52 ）	2000.1
	2. 李捷生『中国「国有企業」の経営と労使関係』（御茶ノ水書房『労働総研クォータリー』No.41）	2000.12

氏　名	荒木（あらき）　重雄（しげお）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	ARAKI, Shigeo	学　位	
専門分野 研究テーマ	南アジア･東南アジア地域研究、途上国開発論 開発における社会的･文化的側面、開発と社会的公正、ＮＧＯ研究		
所属学会	日本南アジア学会、東南アジア史学会、地域文化学会、アジア政経学会		



略歴	学歴	1960 年 3 月　早稲田大学第一文学部卒業
	主な職歴	1960 年 4 月～1993 年 3 月　ＮＨＫプログラムディレクターおよびチーフディレクター 1993 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動		地域文化学会理事、町田市長期計画審議会会長
主要担当科目		（大学院）　東南アジア文化 （学部）　南アジア研究、アジアの芸術

教育研究等活動

＜研究＞南アジア･東南アジアにおける途上国開発を社会開発･人間開発の視点から総合的に検討。経済・政治のみならず社会的･文化的側面からのアプローチを重要と考えている。

＜教育＞学部学生にたいしては映像資料を活用しながら関心と問題意識の掘り起こしに重点を置いて授業を展開している。大学院生にたいしては、問題意識の確立とともに研究方法の習得に重点を置き、論文の完成度を高めることを目標にしている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『新アジア学』（共、亜紀書房）	1987.10
	2.『アジアへの視点』（共、勁草書房）	1988.2
	3.『児童労働～廃絶にとりくむ国際社会』（共、日本評論社）	1997.11
近年の業績	（著書）	
	1.『社会的公正のアジアをめざして～経済危機の克服と改革への道』（共、日本評論社）	1998.12
	2.『グローバル・アジアの社会的発展』（共、日本評論社）	2000.12
	（論文）	
	1.「インド総選挙～グローバリゼーションの矛盾の中で」（単、『月刊オルタ』247 号、アジア太平洋資料センター）	1998.3
	2.「ガンディー思想を巡って」（単、『国際学レヴュー』第 10 号、桜美林大学国際学部）	1998.10
	3.「インドの『理想』の終焉」（単、『新日本文学』No.599、新日本文学会）	1999. 1
	4.「アジアの内的論理と社会的公正～社会組織原理と宗教を手がかりに」（単、『地域文化研究』No.5、地域文化学会）	2001.6
	5.「『女性と開発』への視点」（単、『連合総研レポート DIO』No.153、連合総研）	2001.9
	（その他活動）	
	1. 講演「インドの社会と文化」（都民カレッジ、各 12 回シリーズ 1998.4～６、1999.4～6、2000.4～6）	
	2. 講演「南アジア万華鏡」（めぐろシティカレッジ、4 回シリーズ、2001.4・5）	

226－国際学研究科／環太平洋地域文化専攻

氏　名	鄭（ちょん）　百秀（べくすー）	所　属	国際学部
		職　位	専任講師
	JUNG, Beaksoo	学　位	博士（学術）
専門分野 研究テーマ	韓国文学・文化、比較文学・文化 日韓文化コミュニケーション論		
所属学会	日本比較文学会、東大比較文学会、韓国近代文学会、植民地研究会		

略歴	学歴	1991 年　ソウル大学大学院韓国文学専攻修士 1995 年　東京大学大学院比較文学比較文化専攻修士 1999 年　同　博士
	主な職歴	1999 年～2001 年　東京大学大学院総合文化研究科客員研究員 1999 年～2001 年　専修大学非常勤講師 2002 年 4 月～　桜美林大学国際学部専任講師
	受賞	1999 年度　金素雲学術賞
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　韓国文化Ⅰ・Ⅱ （学部）　韓国文化論、日韓交流論	

教育研究等活動

植民地期の韓国人日本語文学、植民地文化の差別・抑圧問題、戦後日・韓「国民文化論」における過去認識などを主な研究対象にしている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	（著書） 1.『韓国近代の植民地体験と二言語文学』　（単、亜細亜文化社（ソウル）） （論文） 2.「血と名前の存在拘束とそれへの抵抗」　（単、『比較文学研究』） 3.「植民地「国語」作家の内面」　（単、『現代思想』）	 2000.3 1999.2 2001.1
近年の業績	（論文） 1.「植民地期韓国人作家の二重言語意識」　（単、『批評』） 2.「被植民者の言語・文化的対応」　（単、『比較文学研究』） 3.「転回としての跳躍」　（単、『漢陽日本学』） 4.「物言わぬ存在」の表象」　（単、『韓国近代文学研究』） 5.「植民地的残滓としての韓国語中心主義」　（単、Academia Korea）	 1999.6 1999.8 2000.2 2001.7 2001.11

氏　名	上坂（こうさか）　昇（のぼる）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	KOHSAKA, Noboru	学　位	
専門分野 研究テーマ	アメリカ研究 政治と宗教、人種問題		
所属学会	アメリカ学会、日本国際政治学会、日本政治学会、アメリカ政治研究会		

略歴	学歴	1966 年　東京外国語大学モンゴル語科卒業 1966 年　東京大学新聞研究所 2 年課程修了
	主な職歴	1966 年 4 月～1967 年 12 月　時事通信社 1968 年 1 月～1972 年 5 月　小学館 1972 年 6 月～1988 年 2 月　在日アメリカ大使館 USIS（広報文化局） 1988 年 4 月～1989 年 3 月　桜美林大学助教授 1989 年 4 月～　同　教授 1997 年 4 月～1999 年 3 月　同　大学院国際学研究科前期課程主任 1999 年 4 月～　同　大学院国際学研究科研究科長
	受賞	
学界活動 社会活動	アメリカ学会常務理事、大学セミナーハウス国際プログラム委員、日本国際政治学会評議員	
主要担当科目	（大学院）　アメリカ政治、英語教育特論（アメリカ社会事情研究） （学部）　現代アメリカ論、アメリカ研究概論	

教育研究等活動

＜研究＞アメリカの政治と宗教、とくに宗教右派の政治参加について資料を収集、論文や口頭発表を行っている。従来は内政問題が中心であったが、宗教右派の活動が外交にまで影響を与えるようになっているので、近年では外交問題にも研究対象が広がった。

＜教育＞大学院の管理者としての仕事が多いので、教育に割く時間が平均より少ないが、できるだけアメリカの新しい動きを知らせるために、参考資料をインターネットでリサーチして学生に提供している。

研究助成

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『現代アメリカの保守勢力：政治を動かす宗教右翼たち』（単、ヨルダン社）	1984
	2.『アメリカ黒人のジレンマ：「逆差別」という新しい人種関係』（単、明石書店）	1987
	3.『アメリカの貧困と不平等』（単、明石書店）	1993
	4.『キング牧師とマルコムX』（単、講談社現代新書）	1994
近年の業績	（共著）	
	1.『アメリカ政治経済の争点』（有斐閣）	1988
	2.『講座国際政治第三巻　現代世界の分離と統合』（東京大学出版会）	1989
	3.『アメリカ政治の新方向』（勁草書房）	1990
	4.『アメリカの政治』（弘文堂）	1992
	5.『アメリカの宗教』（弘文堂）	1992
	6.『日米関係史におけるエスニシティの要素』（総合研究開発機構 NIRA）	1994
	7.『エスニック・グループの現在』（日本国際問題研究所）	1994
	8.『アメリカと宗教』（日本国際問題研究所）	1997
	9.『宗教とナショナリズム』（世界思想社）	1997
	10.『現代アメリカ政治の変容』（勁草書房）	1999
	（論文）	
	1.「アメリカ的多文化主義」（単、『国際問題』1996 年 8 月号）	1996
	2.「宗教勢力の外交政策に対する影響力」（単、『クリントン政権の政策実績』日本国際問題研究所報告書－外務省委託研究）	1998
	3.「議会を動かした宗教右翼」（単、『クリントン政権と議会』日本国際問題研究所報告書－外務省委託研究）	1998
	4. ”Religion and Politics in the United States: The Religious Right’s Impact on Congress,”（単、*The Public and Private in the United States*（JCAS Symposium Series No. 12）国立民族学博物館地域研究企画交流センター刊）	1999
	5.「ブッシュ政権の社会政策にみる宗教的性格」（単、『米国内政：共和党―現状と動向―』日本国際問題研究所報告書－外務省委託研究）	2001
	6.「国際政治とアメリカのキリスト教パワー」（単、『キリスト教がわかる』アエラ・ムック No.80、朝日新聞社）	2002
	（翻訳）	
	1. アンドリュー・ハッカー『アメリカの二つの国民』（明石書店）	1994
	2. シーモア・M・リプセット『アメリカ例外論』（金重紘との共訳、明石書店）	1999

228－国際学研究科／環太平洋地域文化専攻

氏　名	倉沢　幸久（くらさわ　ゆきひさ）	所　属	文学部
		職　位	教授
	KURASAWA, Yukihisa	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	倫理学、日本思想、 日本における仏教思想の展開、道元禅師の思想、日本人の理法観		
所属学会	日本倫理学会、日本思想史学会、人体科学会		

略歴	学歴	1974 年 3 月　東京大学文学部倫理学科卒業 1976 年 3 月　　同　大学院人文科学研究科倫理学専門課程修士課程修了 1982 年 3 月　大阪大学大学院文学研究科日本学専攻博士後期課程単位取得満期退学
	主な職歴	1982 年 7 月～1989 年 3 月　文部省初等中等教育局教科書調査官 1989 年 4 月～1996 年 3 月　桜美林大学国際学部助教授 1996 年 4 月～2000 年 3 月　　同　　教授 2000 年 4 月～　　同　　文学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　日本文化論、個別演習Ⅰ・Ⅱ （学部）　倫理学概論、倫理学の諸問題Ⅰ、日本思想史、専攻演習

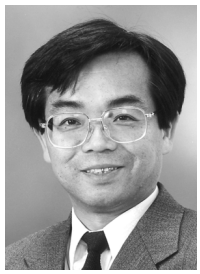
教育研究等活動

＜研究＞倫理学の観点から、日本人が仏教をどのように理解し、普遍的な思想を獲得してきたか。一方、仏教は日本の風土の中でどのような日本的変容をとげてきたか、を研究している。

＜教育＞学部学生には、日本人がこの世界をいかにとらえ、人間が生きることをどのように考えてきたか、ということを自分の生き方に関わらせて考えるように求めている。
　一方、院生に対しては、日本文化を学ぶ留学生が多いこともあり、基礎的文献の講読、資料の探索法、論文の書き方を指導し、研究成果の報告・発表を求め、独立して研究する力をつけることをめざしている。

研究助成	1999 年度　桜美林大学出版助成『道元思想の展開』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「鎌倉時代の「道理」について－慈円・道元・無住」　（単、『日本学報』2 号、大阪大学）	1983.3
	2.「『沙石集』における「道理」」　（単、佐藤・野崎編『日本倫理思想史研究』ぺりかん社）	1983.7
	3.「『神皇正統記』の思想の根本－「一気一心」からの考察」（単、『日本学』14号、名著刊行会）	1989.12
	4.「雪舟と天開図画の思想」　（単、『国際学レヴュー』6 号、桜美林大学国際学部）	1994.3
	5. “Nishida Kitaro and the Modernization of Japan”　（単、『国際学レヴュー』9 号、桜美林大学国際学部）	1997.3
近年の業績	（著書）	
	1.『道元思想の展開』　（単、春秋社）	2000.3
	（論文）	
	1.「湯浅泰雄の東洋思想研究」　（単、『湯浅泰雄全集』第 5 巻、白亜書房）	2001.7
	（その他活動等）	
	1. 講演「日本の仏教思想」　（桜美林大学市民講座）	2000.6
	2. 発表「道元の思想の現代的意義」　（桜美林大学・北京大学学術座談会）	2001.11



氏　名	町田（まちだ）　隆吉（たかよし）	所　属	国際学部
		職　位	助教授
	MACHIDA, Takayoshi	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	中国前近代史、内陸アジア前近代史 5～8 世紀吐魯番盆地の寺院経済、「五胡」北朝政権の国家構造		
所属学会	魏晋南北朝史研究会、史学会、社会文化史学会、東方学会、東洋史研究会		

略歴	学歴	1975 年 3 月　東京教育大学文学部史学科東洋史専攻卒業 1982 年 3 月　筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻単位取得退学
	主な職歴	1982 年 4 月～1999 年 3 月　東京学芸大学教育学部附属高等学校大泉校舎教諭 1999 年 4 月～　桜美林大学国際学部助教授
	受賞	
学界活動 社会活動		魏晋南北朝史研究会幹事、社会文化史学会理事、総合歴史教育研究会委員
主要担当科目		（大学院）　中国史 （学部）　アジアの歴史、ユーラシア文化交流史、東アジア研究、儒教文化論

教育研究等活動

＜研究＞「五胡」諸政権の成立過程および国家構造を中心に研究してきたが、近年は吐魯番出土の漢語文献を中心に整理・分析・検討をくわえ、とくに 5～8 世紀における吐魯番盆地の寺院経済の解明に焦点をあてて当該オアシス社会の特質について北方遊牧民および中華世界との関連を視野に入れながら研究を進めている。

＜教育＞学部学生には、東アジア地域の歴史や文化を中心に、身近な事例などを活用しながら興味関心をおこさせつつ幅広く学習できるように配慮している。また、院生に対しては、研究の基礎となるべき方法を示しつつ、専門論文の読み方、研究史の整理や史料の探し方、史料批判をはじめとする研究の基礎となるべき内容が理解できるようにつとめている。

研究助成	2000～2001 年度　日本学術振興会科学研究費　基盤研究(C)(2) 「吐魯番出土仏教寺院経済関係漢語文書の整理と研究」（研究代表者） 2000～2002 年度　日本学術振興会科学研究費　基盤研究(B) 「トゥルファン出土文書および関連伴出資料の調査」（研究分担者）

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『中国･朝鮮の史籍における日本史料集成』李朝實録之部（七）　（共、国書刊行会）	1984.12
	2.『シルクロードの謎』　（単、光文社文庫）	1989.2
	3.『国際理解教育大系』第２巻 東アジア･東南アジアの生活と文化　（共､教育出版センター）	1993.8
	4.『中国歴史紀行』第二巻　三国・晋・南北朝　（共、学習研究社）	1996.1
	5.『吐魯番出土仏教寺院経済関係漢語文書の整理と研究』（単、科研費 基盤研究(C)(２)報告書）	2002.3
近年の業績	（著書）	
	1.『帰国生の学校　教室からの授業レポート』　（共、近代文芸社）	1999.11
	（論文）	
	1.「張寺小攷―六～七世紀トゥルファン盆地における寺院経済の一例―」（単、『東洋史苑』第 50・51 合併号）	1998.1
	2.「麹氏高昌国時代馬寺経済文書攷―吐魯番出土仏教寺院経済文書管見―」（単、『東京学芸大学附属高等学校大泉校舎研究紀要』第 23 集）	1998.12
	3.「歴史認識を深めるための学習の試み―歴史教科書の比較分析を通してみた―」（共、『総合歴史教育』第 35 号）	1999.7
	4.「『資治通鑑考異』所引『十六国春秋』及び『十六国春秋鈔』について―司馬光が利用した『十六国春秋』をめぐって―」　（単、桜美林大学『国際学レヴュー』第 12 号）	2000.3
	5.「中国古代仏寺称謂攷―祠と寺―」　（単、桜美林大学『国際学レヴュー』第 13 号）	2001.3
	6.「2000 年の歴史学界―回顧と展望―内陸アジア（一）」　（単、『史学雑誌』第 110 編）	2001.5
	7.「吐魯番出土文書および関連伴出資料の調査」　（共、『唐代史研究』第 4 号）	2001.6
	（翻訳）	
	1.『中国歴史博物館蔵法書大観』第 11 巻　晋唐写経･晋唐文書　（共、柳原書店）	1999.1
	（学会発表）	
	1.「高昌仏寺月用麦粟等帳をめぐって―寺院支出簿研究序説―」　（社会文化史学会）	2001.7

230－国際学研究科／環太平洋地域文化専攻

氏　名	水落（みずおち）　潔（きよし）	所　属	文学部
		職　位	教授
	MIZUOCHI, Kiyoshi	学　位	
専門分野 研究テーマ	演劇 歌舞伎、文楽の研究・評論		
所属学会	日本演劇学会、歌舞伎学会		

略歴	学歴	1960 年 3 月　早稲田大学第一文学部演劇科卒業
	主な職歴	1961 年 4 月～1996 年 12 月　毎日新聞社入社、学芸部副部長、編集委員、特別委員を歴任 1996 年 12 月～　退社、客員編集委員 2002 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	1990 年度　芸術選奨（評論）文部大臣新人賞
学界活動 社会活動		文化庁芸術祭審査委員、芸術選奨（演劇）選考委員（2002 年度）、 セゾン文化財団、神奈川芸術文化財団各評議員
主要担当科目		（大学院）　日本文学Ⅰ、Ⅱ （学部）　上演芸術入門、日本近代劇研究、日本古典劇研究Ⅱ

教育研究等活動

＜研究＞日本演劇における語り、上方歌舞伎の研究

＜教育＞文献中心の演劇研究でなく、視聴覚資料を使った授業を試み、芸能の時代的、地域的特質を理解させることに意を注いでいる。

研究助成

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『上方歌舞伎』　（単、東京書籍） 2.『文楽』　（新曜社） 3.『平成歌舞伎俳優論』　（演劇出版社）	1990.9 1989.3 1992.5
近年の業績	（著書） 1.『鴈治郎芸談』　（編、向陽書房） 2.『歌舞伎事典』　（共、平凡社） （論文） 1.「歌舞伎における『語り』の演技」　（単、『日本演劇学会紀要』39） 2.「義経千本桜魅力解剖」　（単、『演劇界』） 3.「近松座の 20 年」　（単、『演劇界』） （その他） 1.NHK 古典芸能講座「文楽鑑賞入門」講師 2.NHK 視点論点講師	 2000.10 2000.1 2001.10 2001.12 2002.7 1998. 1998～2001 年 2～3 回

氏　名	野口（のぐち）　鐵郎（てつろう）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	NOGUCHI, Tetsuro	学　位	文学博士
専門分野 研究テーマ	中国史学 中国民間宗教史・中国刑法史・道教史・華僑史		
所属学会	史学会、東方学会、東洋史研究会、日本道教学会、社会文化史学会、歴史学会、歴史人類学会		

略歴	学歴	1955 年 3 月　東京教育大学文学部卒業 1957 年 3 月　同　大学院文学研究科修士課程東洋史専攻修了 1964 年 3 月　同　同　博士課程東洋史専攻単位取得・満期退学
	主な職歴	1967 年 11 月～ 1969 年 3 月　横浜国立大学教育学部専任講師 1969 年 3 月～ 1975 年 10 月　同　助教授 1975 年 4 月～ 1982 年 10 月　筑波大学歴史・人類学系助教授 1982 年 11 月～ 1994 年 3 月　同　教授 1994 年 4 月～　桜美林大学国際学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	文化庁海外宗教事情調査委員会委員	
主要担当科目	（大学院）　中国史学・個別演習 （学部）　アジア研究概論・儒教文化論・専攻学習	

教育研究等活動

＜研究＞明・清時代に顕現した白蓮教などを中心とした民間の秘密宗教結社史を主要なテーマとし、そこから派生し、ないしそこに関連する歴史事象の解明を目指している。近時は、元末明初の紅巾に焦点をあてている。

＜教育＞個別な歴史事象を通史の上にどのように位置づけるか、を単に中国・アジアの範囲にとどまらず、より大きくグローバルな視点に立って観察・考慮する必要性を説いている。無関係に一見し得る事象間に通底することへの着眼の訓練を、学部・大学院の別なく心がけている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『中国と琉球』（単、開明書院）	1977.1
	2.『明代白蓮教史の研究』（単、雄山閣）	1986.2
	3.『道教事典』（共、平河出版社）	1994.3
	4.『明清時代の基本問題』（共、汲古書院）	1997.10
	5.『訳注　明史刑法志』（単、風響社）	2001.1
近年の業績	（著書）	
	1.『資料中国史-前近代編』（共、白帝社）	1999.4
	2.『資料中国史-近現代編』（共、白帝社）	2000.5
	3.『講座　道教』（編集代表、雄山閣）	1999.11～2001.10
	（論文）	
	1.「道教とは何か-その概要を中心に-」（単、『大東文化大学漢学会誌』第 37 号）	1998.3
	2.「東アジアの道教と民間宗教」（単、『アジア遊学』第 16 号）	2000.5
	3.「韓山童と劉福通（中国アウトロー列伝）」（単、『月刊しにか』第 11 巻第 10 号）	2000.10
	4.「近代の秘密結社と民間宗教－幇会と民衆宗教－」（単、『講座　道教』第 5 巻）	2001.2

232－国際学研究科／環太平洋地域文化専攻

氏　名	大木（おおき）　昭男（てるお）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	OHKI, Teruo	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	ロシア語、ロシア文学、ロシア文化 ユーラシア主義、ワレンチン・ラスプーチンの文学		
所属学会	日本ロシア文学会、ロシア・東欧学会、世界文学会、日本比較文学会		

略歴	学歴	1965 年 3 月　早稲田大学第一文学部卒業 1968 年 3 月　同　大学院文学研究科修士課程修了 1971 年 3 月　同　博士課程単位取得退学
	主な職歴	1969 年 4 月　桜美林大学経済学部助手 1971 年 4 月　同　専任講師 1978 年 10 月　同　専任助教授 1987 年 10 月　同　専任教授 1998 年 4 月～　同　国際学部専任教授
	受賞	
学界活動 社会活動	世界文学会運営委員、日本ユーラシア協会理事	
主要担当科目	（大学院）　ロシア文化Ⅰ、Ⅱ （学部）　ロシア語、ロシアの社会と文学、比較文化学特論（日露文化交流論）	

教育研究等活動

＜研究＞現代ロシア文学における「農村派」の代表的作家ワレンチン・ラスプーチンを主として研究しているが、最近のロシアにおける思想潮流として、ユーラシア主義の研究も同時におこなっている。

＜教育＞北の隣国ロシアとの相互理解を深めるべく、両国文化の比較研究の成果を発表するとともに、希望する学生諸君には実地にロシアへの研修旅行を行っている。

研究助成	1993 年度　桜美林大学出版助成『現代ロシアの文学と社会』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『現代ロシアの文学と社会』（単、中央大学出版部）	1993.12
	2.『ロシア文学の世界』（共、文化書房博文社）	1982.3
	3.『民族・宗教と世界文学』（共、創樹社）	2001.10
近年の業績	（論文）	
	1．《ДОСТОЕВСКИЙ И РАСПУТИН—Опыт размышлений о прблеме 〃Спасения〃》（単、論文集「ドストエーフスキイと世界文化」№13. サンクト・ペテルブルグ「銀の時代」社）	1999.12
	2．「ポスト・ソビエト時代の文学状況とワレンチン・ラスプーチン」（単、『法学新報』第 107 巻　第 3･4 号、中央大学法学会）	2000.9
	3．「ロシアにおける『第三の道』としてのユーラシア主義」（単、中央大学社会科学研究所研究叢書 10、中央大学出版部）	2001.3
	（その他活動等）	
	1. 講演「石川啄木とロシア文学」（桜美林大学オープンカレッジ第 45 回市民講座）	2000.11
	2. 講演「二葉亭四迷とロシア文学」（同　第 46 回市民講座）	2001.7
	3. 講演「ロシア文学に見る『コーカサス問題』」（同　第 47 回市民講座）	2001.11
	4. 講演「夏目漱石とロシア文学」（同　第 48 回市民講座）	2002.7

氏　名	大越（おおこし）　孝（たかし）	所　属	文学部
		職　位	教授、副学長
	OKOSHI, Takashi	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	アメリカ文学 ユダヤ系アメリカ文学、ユダヤ系アメリカ女性作家研究		
所属学会	日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本アメリカ学会、日本スタインベック協会、日本イェーツ協会、日本マラマッド協会		

略歴	学歴	1970 年 3 月　桜美林大学文学部英語英米文学科卒業 1972 年 5 月　Rocky Mountain College 卒業 1975 年 3 月　立正大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了 1978 年 3 月　同　博士課程満期退学
	主な職歴	1972 年 9 月～1978 年 5 月　桜美林大学文学部英語英米文学科専任助手 1978 年 6 月～1984 年 3 月　同　専任講師 1984 年 4 月～1991 年 3 月　同　助教授 1991 年 4 月　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　アメリカ社会と文学 （学部）　英米文学の歴史、Ethnicity & Race、　専攻演習	

教育研究等活動

＜研究＞19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて大挙してやってきたユダヤ系アメリカ移民と文学について研究を行っている。現在は日本ではあまり取り上げられていないユダヤ系アメリカ女性作家を重点的に研究している。

＜教育＞学部生に対してはアメリカ文学理解に不可欠なアメリカ社会と文化について、宗教、映画、民族、ジェンダー等の問題を文学と関連づけて取り上げている。また、グループ発表の課題を与え、履修学生各自が主体的に授業に参加するように努めている。
大学院生に対しては研究方法論の修得や論文作成に必要な資料収集、分析を小論文作成課題を通しておこなっている。

研究助成	1995 年度　桜美林大学学術書出版助成　『ことば・ジェンダー』（共著：青磁書房） 1999 年度　同　上　学術書出版助成　『南北戦争を起こした町』（共訳：彩流社） 2001 年度　同　上　国際学研究所助成　『民族・宗教と世界文学』（共著：創樹社）

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『英学・英語研究と人間教育』　（共、山口書店） 2.『アメリカの対抗文化』　（共、大阪教育図書）	1994.9 1995.3
近年の業績	（論文） 1.「Anne Roiphe 論－ *Loving-kindness* と *If You Knew Me* に描かれた愛の処方箋」（単、『英語英米文学研究』第 38 輯、桜美林大学英語英米文学科） 2.「Anzia Yezierska: *Children of Loneliness* に描かれた二つの世界の狭間で」（単、『英語英米文学研究』第 39 輯、桜美林大学英語英米文学科） 3.「Lynne Sharon Schwartz: *Leaving Brooklyn* に描かれた Audrey の二つの世界」（単、『英語英米文学研究』第 40 輯、桜美林大学英語英米文学科） 4.「Lesléa Newman: *A Letter to Harvey Milk* に描かれた新しい生き方」（単、『英語英米文学研究』第 41 輯、桜美林大学英語英米文学科） 5.「ホロコーストを描いた作家たち」（単、『英語英米文学研究』第 42 輯、桜美林大学英語英米文学科） （講演） 1.「大学の教育力」　（単、読売新聞）	1998.3 1999.3 2000.3 2001.3 2002.3 2002.6

氏　名	オーシロ　ジョージ	所　属	国際教育センター
		職　位	教授
	OSHIRO, George M.	学　位	Ph.D.
専門分野 研究テーマ	日本近現代史、日米交流史、日本思想史 日本近代史上の人物の伝記的研究		
所属学会	Association for Asian Studies、日本思想史学会、日本移民学会		

略歴	学歴	1968 年　ハワイ大学地理学、B.A. 1977 年　国際基督教大学（教育哲学）、M.A. 1985 年　ブリテイッシュ・コロンビア大学（日本史）、Ph. D.
	主な職歴	1968 年 1 月～　1972 年 1 月　アメリカ合衆国空軍医療部 1977 年 4 月～　1979 年 7 月　大阪 YMCA 英語学校英語専任講師 1983 年 1 月～　1983 年 5 月　ブリテイッシュ・コロンビア大学(カナダ)日本近代史講師 1983 年 12 月～ 1984 年 5 月　ビクトリア大学(カナダ)日本近代史講師 1987 年 4 月～　1988 年 3 月　桜美林大学専任講師 1988 年 4 月～　1993 年 3 月　同　助教授 1993 年 4 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動	（財）英語教育協議会評議員	
主要担当科目	（大学院）　日本現代思想 （学部）　日本近代史、日米交流史	

教育研究等活動

＜研究＞主に、日米文化交流に貢献した人物（新渡戸稲造、朝河貫一、渋沢栄一、津田梅子、清水安三など）の生涯と業績を研究している。

＜教育＞教育とは生涯を通じてなされるものであり、学生が学ぶことに喜びを見いだせるよう手助けするのが教育者の使命であると考える。よって、授業では、討論、グループリサーチ、個別の発表などに重点を置き、学生が自分で考えて問題に取り組む機会を与えている。

研究助成	1999 年～2001 年　早稲田大学アジア太平洋研究センターIPR 研究部会

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『新渡戸稲造-国際主義の開拓者』（単、中央大学出版部）	1992.4
	2.「朝河貫一の海外留学」（単、『朝河貫一の世界』、早稲田大学出版部）	1993.9
	3.「朝河貫一と英語による日本の封建制度の研究」（単、『甦る朝河貫一』、国際文献印刷社）	1998.1
	4.「関東大震災-個人レベルの国際親善と友好」（単、『渋沢栄一』、山川出版社）	1999
近年の業績	（著書）	
	1.「津田梅子と新渡戸稲造」（単、『津田梅子を支えた人びと』、有斐閣）	2000.9
	2. “Foreword”（単、Bushido、講談社インターナショナル）	2002
	（論文）	
	1.「原田助の小伝について」（共、『太平洋問題調査会研究シリーズ』43 号、早稲田大学）	1999
	2. “Mediator Between Cultures: Tasuku Harada and Hawaiian-Japanese Intercultural Relations in the 1920s”（単、*The Hawaiian Journal of History* vol.33）	1999
	3. “Emergence As History”（単、*Japan's Emergence As A Modern State* UBC press）	2000
	4.「後藤新平と新渡戸稲造」（単、『環』vol.8、藤原書店）	2002.1
	（学会発表）	
	1. “Bridge over the pacific: Nitobe Inazo”（Center for Japanese Studies、ハワイ大学）	1998.3
	2. “Cultural Internationalism and Japan”（New Zealand Asian Studies Conference）	1999.11
	（その他活動）	
	1. 講義：“Japanese Canadians”（Canadian Studies Program、明治大学）	2001.5
	2. 講演：「新渡戸稲造」（北海道大学東京同窓会総会）	2001.5
	3. 発表：「E.H.ノーマンの生涯と学術業績」（カナダ大使館）	2001.5
	4. 講演：「私が見た日本の社会」（町田まちづくり市民会議）	2002.3
	5. 講演：「札幌時代の新渡戸稲造とマリー夫人」（新渡戸夫妻メモリアルデイ）	2002.5
	6. 発表：「清水安三の国際主義と愛国心のジレンマ」（清水安三ワークショップ）	2001.11
	7. 記事：「台湾統治と白夜の国の国際調停」（単、『歴史街道』9 月号 PHP 研究所）	2002.9

氏　名	太田（おおた）　哲男（てつお）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	OTA, Tetsuo	学　位	文学修士

専門分野 研究テーマ	日本思想史、現代思想 当面のテーマは、一五年戦争下の文芸雑誌について
所属学会	日本倫理学会、日本思想史学会、日本カント協会

略歴	学歴	1971 年 3 月　静岡大学人文学部人文学科(哲学専攻)卒業 1973 年 3 月　東京教育大学大学院文学研究科修士課程（倫理学専攻）修了 1975 年 3 月　同　博士課程（倫理学専攻）中退
	主な職歴	1975 年 4 月～1978 年 3 月　東京教育大学附属高校教諭 1978 年 4 月～1990 年 3 月　筑波大学附属高校教諭（校名変更） 1980 年 4 月～1990 年 3 月　横浜国立大学非常勤講師 1990 年 4 月～1994 年 3 月　富山国際大学人文学部専任講師 1994 年 4 月～1997 年 3 月　同　助教授 1994 年 4 月～2002 年 3 月　富山大学非常勤講師 1997 年 4 月～2002 年 3 月　富山国際大学教授（人文学部・人文社会学部） 2000 年 4 月～2003 年 3 月　上越教育大学（大学院）非常勤講師 2002 年 4 月～　桜美林大学国際学部教授
	受賞	

学界活動 社会活動	上記学会会員 高等学校教科書「倫理」（実教出版）の分担執筆
主要担当科目	（大学院）　日本現代文化論 （学部）　日本文化論、日本研究特論、Japanese Culture

教育研究等活動

＜研究＞20 世紀の日本思想史研究を進めるため、文献収集・調査はもとより、当事者へのヒアリングを行っている。
＜教育＞学部学生への講義は歴史にまつわる教材を中心としているが、関連する新聞資料も用いることをこころがけ、現代的な問題意識を明確化して、学生の興味・関心を引き出すようにつとめている。
　大学院生に対しては、参考文献の一部を事前に読んで来ることを予習として課して、院生が講義内容への理解を深めるようつとめている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	（著書）	
	1.『大正デモクラシーの思想水脈』　（単、同時代社）	1987.3
	2.『麻酔にかけられた時代−1930 年代の思想史的研究』　（単、同時代社）	1995.4
	3.『レイチェル=カーソン』　（単、清水書院）	1997.8
	4.『ハンナ-アーレント』　（単、清水書院）	2001.12
	（論文）	
	1.「丸山眞男論断章」　（単、『富山国際大学紀要』第 8 号）	1998.3
近年の業績	（翻訳）	
	1. ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論（第三編）』新訳増補版　（単独訳、同時代社）	2001.5
	（編集）	
	1.『暗き時代の抵抗者たち　対談　古在由重・丸山眞男』　（単独編集、同時代社）	2001.1
	（論文）	
	1.「石原吉郎覚え書き―解説に代えて」（単、『石原吉郎評論集　海を流れる河』同時代社、所収）	2000.7

236－国際学研究科／環太平洋地域文化専攻

氏　名	武井（たけい）　ナヲエ	所　属	文学部
		職　位	教授
	TAKEI, Naoe	学　位	Ph.D(文学博士)
専門分野 研究テーマ	ルネサンス及び現代イギリス文学 シェイクスピア劇とモダニズム文学における無意識の問題		
所属学会	日本英文学会、日本シェイクスピア協会、 International Shakespeare Association、日本 V. ウルフ協会		

略歴	学歴	1957 年 3 月　津田塾大学英文学科卒業 1961 年 3 月　東京都立大学人文科学研究科修士課程卒業 1964 年 3 月　同　博士課程修了 1970 年 7 月　英国バーミンガム大学シェイクスピア研究所修士課程修了 1984 年 7 月　同　博士課程修了
	主な職歴	1963 年 4 月～　1966 年 3 月　目白学園女子短期大学専任講師 1966 年 4 月～　1969 年 9 月　桜美林大学文学部専任講師 1974 年 10 月～　1986 年 8 月　ポルトガル国立ポルト大学専任講師 1986 年 9 月～　桜美林大学専任教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本 V.ウルフ協会運営委員	
主要担当科目	（大学院）　アメリカ社会と演劇 （学部）　現代英米演劇、現代英米文学、シェイクスピア研究、イギリス文化	

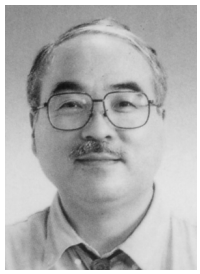
教育研究等活動

＜研究＞人間心理の無意識の領域を探求した現代イギリス文学を研究、その先駆者としてのシェイクスピアの意義をその劇作品に探る。

＜教育＞英語力の基本となる英文読解力をしっかり身につけさせることを目標とすると同時に、作品の意味を考えることを通して、自分の頭で考え、自分の意見を持てる能力を養うことを目指す。そのために、作品研究後の活発な討議を奨励している。

研究助成	1990 年度　桜美林大学出版助成、*Modernism and Virginia Woolf* 1995~1997 年度　文部省科研費 C 「シェイクスピアと夢の主題」

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. *Modernism and Virginia Woolf*　（単、Windsor Publications, UK）	1990
	2.『シェイクスピア全作品論』　（共、研究社）	1992
	3.『シェイクスピア作品鑑賞事典』　（共、南雲堂）	1997
	4.『シェイクスピア大事典』　（共、日本図書センター）	2002
近年の業績	（論文）	
	1.「V. ウルフとモダニズム前夜」　（単、『桜美林大学英語英米文学研究』第 38 輯）	1998.3
	2.「文学と夢―シェイクスピアを中心として―（その 1）」　（単、『オベロン』57、第 27 巻、南雲堂）	1998.8
	3.「文学と夢―シェイクスピアを中心として―（その 2）」　（単、『オベロン』58、第 28 巻、南雲堂）	1999.12
	4.「文学と夢―シェイクスピアを中心として―（その 3）」　（単、『オベロン』60、第 30 巻、南雲堂）	2002.4
	（学会発表）	
	1.「V.ウルフとモダニズム前夜―愛と死のモティーフをめぐって―＜フロイトの場合＞」　（日本 V.ウルフ協会第 15 回全国大会）	1995.10
	（その他活動等）	
	翻訳	
	1.『シェイクスピアとエリザベス朝演劇』　（共、白水社）	1964～1998
	2.『ヘンリー六世、第三部』　（共、シェイクスピア全集 5、筑摩書房）	1974～1985
	3.『名詩集』　（共、筑摩世界文学大系 88、筑摩書房）	1991



氏　名	竹本（たけもと）　徹（とおる）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	TAKEMOTO, Toru	学　位	歴史学博士
専門分野 研究テーマ	外交史・政党運動選挙と政党の力学関係		
所属学会	国際政治学会軍事史学会日本カナダ学会アメリカ学会		

歴	学歴	1967 年　国際基督教大学社会科学部学士課程卒業 1969 年　ブリティッシュ・コロンビア大学政治学部修士課程修了 1977 年　ペンシルベニア大学歴史学博士課程修了
	主な職歴	1973 年～1974 年　ボーリンググリーン大学（オハイオ）客員教授 1974 年～1983 年　西ワシントン大学・東アジア研究科講師 1984 年～1988 年　カナダ大使館 政治部 日本政治分析官 1987 年～現在　桜美林大学国際学部教授 1988 年～1996 年　同　政経学部非常勤講師 1988 年～2002 年　明治大学法学部非常勤講師
	受賞	1967 年　国際基督教大学・卒業論文賞 1967 年　カナダ大使館フェローシップ 1968 年　ブリティッシュ・コロンビア大学政治学部奨学フェローシップ 1969 年　大学連合政治学フェローシップ（ミシガン大学） 1972 年　オルゴンツプラン賞（フィラデルフィア） 1988 年　カナダ首相賞（「カナダ政治入門」の出版に対して）
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　日本現代政治 （学部）　日本の政治、政治学入門、日本研究入門	

教育研究等活動

＜研究＞日本を中心とする国際関係、日本の政治、特に政党政治の理論研究をしている。
＜教育＞日本学入門は教えながら、改良している最中であり、毎年学外で 2～3 回米国人を中心とする青年グループに、日本周辺の国際関係を教えている。今年は、米国の大学教育担当者に対するセミナーになる。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『Failure of Liberalism in Japan』　（単、UPA）	1979
	2.『日本上陸作戦』　（単、三修社）	1985
	3.『総史立憲民政党』　（共、学陽書房）	1989
近年の業績	1.『カナダの地方自治』　（単、東京都議会局）	2000
	2.『カナダを考える』　（共、公職研）	1997
	3.『カナダ政治の階級分析』　（翻訳、御茶ノ水書房）	1990

238－国際学研究科／環太平洋地域文化専攻

氏　名	寺井（てらい）　泰明（やすあき）	所　属	文学部
		職　位	教授
	TERAI, Yasuaki	学　位	
専門分野 研究テーマ	中国語学（漢字学、名物学）、和漢比較文化史 甲骨文字成立過程、字形に反映する文化背景、漢語誌		
所属学会	日本中国学会、日本中国語学会、和漢比較文学会、日本語語源研究会		

略歴	学歴	1972 年 3 月　東京大学文学部卒業
	主な職歴	1973 年 4 月～1987 年 3 月　東京都立高等学校教諭 1981 年 4 月～1983 年 3 月　中国吉林大学外国人専家 1987 年 4 月～1996 年 3 月　千葉工業大学専任講師・助教授 1996 年 4 月～1998 年 3 月　桜美林大学助教授 1998 年 4 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		ＮＨＫ高校講座（国語）講師
主要担当科目		（大学院）　中国言語Ⅰ／Ⅱ （学部）　中国文化入門、中国文字学、中国語学特殊研究

教育研究等活動

＜研究＞漢字の字形について、その成立から変遷の過程を主な研究テーマとしてきたが、最近は、字形の背景にある文化を探ることや、日中の語誌研究に重心を移している。

＜教育＞学部学生には好奇心を掘り起こし、自分で探求することの重要性を説くようにしている。具体的には、文字資料や文化財の映像・写真に多く触れさせ、また、自ら調査させ考察させる方法をとっている。準備に時間はかかるが、効果が大きいと感じている。
一方、院生に対しては、研究方法の修得や研究態度の陶冶をめざし、細部にわたる予習を徹底させ、同時に文献紹介にも力を入れている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『花と木の漢字学』　（単、大修館書店）	2000.6
	2.『資格獲得初級中国語』　（共、同学社）	1995.2
	3.『ＮＨＫ高校講座　国語Ⅰ』　（共、ＮＨＫ出版）	1994.4
	4.「「蓬」「蒿」「艾」と「よもぎ」」　（単、『和漢比較文学』第 4 号、和漢比較文学会）	1988.11
	5.「「椿」とツバキ」　（単、『桜美林大学中国文学論叢』第 23 号、桜美林大学文学部中文科）	1998.3
近年の業績	（著書）	
	1.『ＮＨＫ高校講座　国語Ⅰ』（共、ＮＨＫ出版、上欄 3.の改訂版）	1998.4
	（論文）	
	1.「樗のすがた」　（単、『桜美林大学中国文学論叢』第 24 号、桜美林大学文学部中文科）	1999.3
	2.「「楝」の語源」　（単、『国語教室』第 70 号、大修館書店）	2000.5
	3.「町・邑・城・里・村…漢字から見た「まち」と「さと」」　（単、『悠久』83 号、おうふう）	2000.10
	4.「日本における「はぎ」の表記--「芽」から「萩」へ」　（単、『桜美林大学中国文学論叢』第 26 号、桜美林大学文学部中文科）	2001.3
	5.「「国字」「国訓」の成立とその問題点」（単、『悠久』86 号、おうふう）	2001.7
	6.「「萩」と「はぎ」」　（単、『桜美林大学中国文学論叢』第 27 号、桜美林大学文学部中文科）	2002.3
	（雑文）	
	1.書評「詩語のイメージ」　（『しにか』第 12 巻第 4 号、大修館書店）	2001.4
	2.巻頭言「安陽から邯鄲へ」　（『ＮＨＫ学園通信』第 39 巻第 4 号、ＮＨＫ学園高等学校）	2001.9
	（その他）	
	1.放送講座講師「ＮＨＫ高校講座　国語Ⅰ」　（1994 年より毎年、約 25 回の放送）	1994～
	2.展示の監修「世界らん展企画展示「孔子と蘭」監修」　（世界らん展日本大賞実行委員会）	2002.2

氏　名	山崎（やまざき）　純一（じゅんいち）	所　属	文学部
		職　位	教授
	YAMAZAKI, Junichi	学　位	文学博士
専門分野 研究テーマ	中国思想史、中国女性史、中国教育史、中国古典文学、 中国教育思想史、中国女子倫理思想史		
所属学会	日本中国学会、アジア教育史学会、教育史学会、全国漢文教育学会		

略歴	学歴	1963 年 3 月　早稲田大学第一文学部卒業 1966 年 3 月　同　大学院文学研究科修士課程修了 1970 年 3 月　同　博士課程満期退学
	主な職歴	1970 年 4 月～2002 年 9 月現在　早稲田大学第一文学部非常勤講師 1977 年 4 月～1981 年 3 月　桜美林大学文学部専任講師 1981 年 4 月～1986 年 3 月　同　助教授 1986 年 4 月～2002 年 9 月現在　同　教授 1993 年 4 月～2002 年 9 月現在　同　大学院国際学研究科教授兼任 2000 年 4 月～2002 年 3 月　早稲田大学大学院文学研究科客員教授
	受賞	
学界活動 社会活動	アジア教育史学会会長、全国漢文教育学会常任理事、財団法人無窮会理事	
主要担当科目	（大学院）　中国思想史 （大学）　中国思想史、中国女性史研究、中国古典文学概論	

教育研究等活動

＜研究＞女性をめぐる中国古典文学、儒教思想と中国古典文学の研究。前近代　中国教育思想史・女子倫理思想史の研究等を展開してきたが、最近は中国女性史の后妃・列女二伝の資料研究に集中している。

＜教育＞学部・大学院ともに、概論においても、原資料の解読にたちかえり、実証的研究能力の養成につとめている。大学教育は表層的知識の吸収ではなく、根底から対象を検討することだからである。なお、学生の興味喚起のため視覚資料の提示も行っている。

研究助成	1991.6　『列女伝』研究成果の一部刊行に対する桜美林大学の出版助成

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『教育から見た中国女性史資料の研究』　（単、明治書院）	1986.10
	2.『列女伝』上・中・下　（単、明治書院）	1996.12 ～1997.7
	3.『列女伝－歴史を変えた女たち－』　（単、五月書房）	1991.6
近年の業績	（論文）	
	1.「南北朝時代北人列女伝注釈箚記『魏書』列女伝注釈の(1)(2)」 （単、桜美林大学『中国文学論叢』第 23 号　第 24 号）	1998.3 1999.3
	2.「女訓書としての漢代『詩経』－『毛詩』と『古列女伝』女訓詩の基礎的検討」 （単、『村山吉広教授古希記念中国古典学論集』汲古書院）	2000.3
	3.「南北朝時代女人女性伝注釈試編－『北史』后妃伝注釈の(1)(2)(3)」 （単、桜美林大学『中国文学論叢』第 25 号　第 26 号　第 27 号）	2000.3 2001.3 2002.3
	（学会発表））	
	1.「関於唐代両部女訓書《女論語》《女孝経》的基礎研究」 （北京大学中国古代史研究中心等主弁“唐宋婦女子研究与歴史学”） 国際学術検討会：於北京大学。※論文試稿は《論文匯編》に掲載	2001.6.5
	（講演）	
	1.「漢字の交ぜ書きと常用漢字音訓表が生む問題－大学生の漢文教育をとおして」 （全国漢文教育研究学会 2001 年 2 月例会:於斯文会講堂）	2001.2.4

240－国際学研究科／環太平洋地域文化専攻

氏　名	吉田（よしだ）　健正（けんせい）	所　属	国際学部
		職　位	教授
	YOSHIDA, Kensei	学　位	修士
専門分野 研究テーマ	カナダ（歴史、政治、外交、社会） 現代沖縄		
所属学会	日本カナダ学会、日本国際政治学会、日本アメリカ学会		

略歴	学歴	1966 年 8 月　ミズーリ大学ジャーナリズム学部卒業 1971 年 7 月　　同　　大学院修了（ジャーナリズム、国際関係論専攻）
	主な職歴	1972 年 7 月～1973 年 6 月　AP 通信社東京支局記者 1973 年 7 月～1975 年 6 月　ニューズウィーク東京支局記者 1975 年 7 月～1989 年 3 月　カナダ大使館広報部（広報担当、学術担当） 1989 年 4 月～1991 年 3 月　桜美林大学専任講師 1991 年 4 月～1994 年 3 月　　同　　助教授 1994 年 4 月～　　同　　教授
	受賞	カナダ首相出版賞など
学界活動 社会活動		東京都中央区国際文化交流協会嘱託
主要担当科目		（大学院）　カナダの政治と社会 （学部）　カナダの政治と経済、カナダの社会と文化、社会とメディア、特論：沖縄研究

教育研究等活動

＜研究＞

1．『カナダ――20 世紀の歩み』をまとめたあと、マッケンジー・キング時代の日加関係の研究に取り組んでいる。

2．ペリー来航および日本による琉球併合を踏まえて、沖縄戦、米国統治、日本復帰をへて現在に至る沖縄の近・現代史を 1 冊にまとめた。今後は、沖縄の国際関係や自立の方法について研究を進めたい。

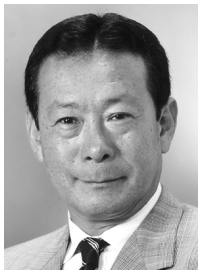
＜教育＞

パワーポイントとビデオの効果的利用を工夫しながら授業を進めている。学部ゼミではオリジナリティを、大学院ゼミでは資料探索と論証性を強調している。

研究助成	カナダ研究開発助成金など

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『国連平和維持活動――ミドルパワー・カナダの国際貢献』　（単、彩流社）	1994
	2.『カナダ――20 世紀の歩み』　（単、彩流社）	1998
	3.『カナダ史』　（共、山川出版社）	1999
近年の業績	（著書）	
	1.『沖縄戦――50 年後の証言・米兵は何を見たか』　（単、彩流社）	1996
	2. *Democracy Betrayed: Okinawa under U.S. Occupation* （単、Western Washington University Center for East Asian Studies）	2001
	（論文）	
	1.「カナダのインターナショナリズム外交」　（『軍縮問題資料』）	2001.9
	2.「ビエケス演習場撤退の背景と意味」　（『軍縮問題資料』）	2002.5
	（学会発表）	
	1. “Mackenzie King and Japan”　（Carleton University Seminar）	2000.9
	2.「カナダ：アメリカニズムに抗して」　（神戸大学国際文学部主催国際シンポジウム）	2000.11
	3.「マッケンジー・キングの日本訪問」　（日本カナダ学会年次大会）	2002.9

氏　名	諸星（もろほし）　裕（ゆたか）	所　属	大学院
		職　位	教授・教学担当副学長
	MOROHOSHI, Yutaka	学　位	Ph.D.
専門分野 研究テーマ	余暇学、刑務所管理学、犯罪学、高等教育管理 大学改革、国立大学行政法人化の過程研究		
所属学会	American Association of University Administrators、大学教育学会		



略歴	学歴	1969 年 6 月　国際基督教大学教養学部語学科卒業 1971 年 8 月　ブリガム・ヤング大学教育学大学院修士課程修了（M.R.Ed.取得） 1976 年 10 月　ユタ大学健康関連学大学院博士課程修了（Ph.D.取得）
	主な職歴	1971 年　カナダ・オンタリオ州矯正省ヴァニエー女性刑務所主任教育官 1973 年　同　オークビル少年少女鑑別所副所長 1977 年～1982 年　ミネソタ州立セント・クラウド大学教育学部助教授 1982 年～1986 年　同　準教授 1986 年～1995 年　同　教授 1989 年～1995 年　ミネソタ州立大学秋田校学長 1998 年～　桜美林大学大学教育研究所教授 1999 年～　同　教学担当副学長 2002 年～　国立山形大学工学部客員教授（独立行政法人化準備委員）
	受賞	1980 年　ミネソタ州立セント・クラウド大学 Professor of the Year 1989 年　秋田県特別功労賞
学界活動 社会活動	（財）交通遺児育英会理事、（NPO）ネルソン・マンデラ子供基金日本理事長、 日本ゴルフツアー機構理事	
主要担当科目	（大学院）大学管理日米比較	

教育研究等活動

＜研究＞GPA 制度の日本における普及、日本における大学改革の手法
＜教育＞大学アドミニストレーション課程における講義および個別指導（10 人）

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. 訳書　“ベルサーチを殺った男”ウエンズレー・クラーク著（単訳、K. K. ブックス）	1988
	2.「大学教育における教員評価方法に見る教員のプロフェッショナリズム」（単、『大学教育学会誌』第 21 巻第 1 号）	1999
	3.「アメリカの大学における GPA 制度」（単、日本私立大学連盟、『大学時報』1999 年 11 月号）	1999
	4.「鼎談“アドミニストレーターからみた大学改革”」（単、『カレッジマネジメント』100 号記念特別企画、“100 人の提言”）	2000
近年の業績	1. 広島大学、鳥取大学、新潟大学、山形大学、日本女子大学、神奈川県大学学長会議などを含む約 40 大学や組織の会合において大学改革についての講演活動を行う。 2. 文部科学省および内閣府の要請により、規制緩和関係および国立大学行政法人化に関するヒアリングを行う。 3. 全国国立大学の厚生補導課長、部長の会議において講演	1990～

242－国際学研究科／大学アドミニストレーション専攻

氏　名	佐藤（さとう）　東洋士（とよし）	所　属	大学院
		職　位	学長
	SATO, Toyoshi	学　位	名誉文学博士
専門分野 研究テーマ	高等教育、アメリカ地域研究 大学基準認証と評価		
所属学会	大学教育学会、日本高等教育学会、日本アメリカ学会、民主教育協会		

略歴	学歴	1966 年 3 月　慶應義塾大学経済学部中途退学 1969 年 2 月　米国カリフォルニア州立大学バークレー校留学 1970 年 3 月　桜美林大学文学部英語英米文学科卒業 1973 年 3 月　日本大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了 2001 年 8 月　名誉文学博士（韓瑞大学）
	主な職歴	1990 年 3 月～1993 年 3 月　桜美林大学学長補佐 1993 年 4 月～1996 年 3 月　同　副学長 1996 年 4 月～　同　学長 2001 年 4 月～　同　大学院国際学研究科教授
	受賞	
学界活動 社会活動	大学教育学会副会長、文部科学省学校法人審議会大学設置分科会特別委員、 大学評価・学位授与機構大学評価委員会専門委員（副主査）	
主要担当科目	（大学院）　学士課程研究特論 アメリカ文学と社会	

教育研究等活動

IDE（民主教育協会）中国支部例会基調講演　他

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『アメリカ文学史の世界』　（共、オセアニア出版）	1990.4
	2.『大学カリキュラムの再編成』　（共、玉川大学出版部）	1997.1
	3.『いま、大学の臨時定員を考える』　（共、大学基準協会）	1999.3
近年の業績	（学術論文）	
	1.「21 世紀に羽ばたく台湾の大学」　（単、『IDE 現代の高等教育』）	2001.7
	2.「桜美林大学における AO 選抜の実践と課題」　（社団法人私学経営研究会）	2002.3
	（学会発表）	
	1.「FD 等の課題及びファカルティの活動のあり方」　（大学教育学会課題研究集会）	1999.11
	2.「今後の人口動態の変化予測と大学個性化の可能性」　（大学教育学会第 22 回大会）	2000.6
	（その他活動等）	
	講演	
	1.「大学入試センター試験の在り方を考える」　（全国高等学校進路指導協議会）	2000.8
	2.「Reform of Higher Education in the Context of Rapid Demographic Change in Japan」（中国長春国際教育フォーラム）	2000.9
	3.「人口動態変化が大学に与える影響」　（桜美林大学・北京大学日中関係国際シンポジウム）	2000.12
	4.「新しい時代の大学のあり方を求めて～教職員の意識改革とその対策～」（日本私立大学協会事務局長相当担当者研修会）	2001.10
	5.「学士課程教育の目標」　（民主教育協会学生生活研究セミナー）	2002.8

氏　名	瀬沼（せぬま）　克彰（よしあき）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	SENUMA, Yoshiaki	学　位	博士（人間科学）
専門分野 研究テーマ	余暇教育学、生涯教育学		
所属学会	日本余暇学会、日本生涯教育学会、日本シニア社会学会		

略歴	学歴	1962 年 3 月　横浜国立大学学芸学部卒業 1974 年 3 月　青山学院大学大学院博士課程教育学研究科学位取得
	主な職歴	1974 年 4 月～　1988 年 3 月　財団法人日本余暇文化振興会主任研究員 1988 年 4 月～　1991 年 10 月　文部省生涯学習局社会教育官 1991 年 11 月～ 1997 年 3 月　宇都宮大学生涯学習教育研究センター助教授 1997 年 4 月～　桜美林大学経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動	観光政策審議会専門委員、経済企画庁「余暇行政対策研究会」座長、通産省「産業構造審議会生涯学習部会」委員	
主要担当科目	（大学院）　リカレント教育論、 （学部）　余暇と観光、余暇政策論、生涯学習論	

教育研究等活動

＜研究＞余暇と生涯学習の活性化のために、地域を基盤にして望ましい組織、予算、人材育成、団体育成、情報発信などについて研究している。

＜教育＞学部学生に対しては、基本文献を読ませて、現場を知るために関連施設の実態調査を課している。
院生に対しては、論文指導を中心に指導している。

研究助成	1998 年度　文部省生涯学習局研究委託「生涯学習センターの実態調査」 2000 年度　桜美林大学出版助成「日本型生涯学習の特徴と振興策」

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『日本型生涯学習の特徴と振興策』　（学文社）	2001.5
	2.『大衆余暇の研究』（全 5 巻）　（文和書房）	1997
	3.『余暇と生涯学習の推進』（全 5 巻）　（学文社）	1993
近年の業績	（著書）	
	1.『生涯学習と地域社会』（全 5 巻）　（大明堂）	1996
	2.『21 世紀の余暇創造』　（遊戯社）	2000
	3.『余暇プロジェクト』　（日本地域社会研究所）	2002
	（論文）	
	1.「教育改革時代の民間教育事業の課題」（単、『日本生涯教育学会年報』22 号、日本生涯教育学会）	2001
	2.「バブル期の国及び自治体の余暇行政」第 5 号　（日本余暇学会）	2002
	（学会発表）	
	1.「日本型生涯学習の特徴と制度」　（日本余暇学会例会）	2001.5
	2.「バブル期の国及び自治体の余暇行政」　（日本余暇学会）	2002.5

244－国際学研究科／大学アドミニストレーション専攻

氏　名	武村（たけむら）　秀雄（ひでお）	所　属	資格・教職教育センター
		職　位	教授
	TAKEMURA, Hideo	学　位	Ph.D.（教育学）
専門分野 研究テーマ	高等教育・大学、教育方法論と評価、米国大学 大学理念と社会的役割（学士課程教育とリベラル・アーツ）		
所属学会	日本教育学会、大学教育学会、関東地区大学教育研究会、米国教育学会		

略歴	学歴	1973 年 12 月　米国テキサス州 McMurry University 経営学部卒業(B.B.A) 1979 年 5 月　米国 California University of-Pa. 人文経済地理学専攻修士課程修了(M.A) 1982 年 12 月　米国ペンシルバニア州 University of Pittsburgh 教育学研究科高等教育学専攻博士課程修了（Ph.D. in Education）
	主な職歴	1980 年 5 月～1982 年 12 月　University of Pittsburgh 高等教育専攻科長付助手 1985 年 4 月～1988 年 3 月　日本外国語専門学校(旧通訳養成所)米国留学学科長 1988 年 4 月～1992 年 3 月　桜美林短期大学生活文化学科助教授 1992 年 4 月～2000 年 3 月　同　教授 1995 年 4 月～2000 年 3 月　桜美林大学大学院国際関係専攻科博士前期課程兼任講師 2000 年 4 月～　同　資格・教職教育センター教授 2002 年 4 月～　同　大学院前期課程主任
	受賞	米国テキサス州ラメサ市教育支援奨励賞
学界活動 社会活動		米国 Gamma Theta Upsilon Society、日本英語検定協会一級面接員、マインド・グローアップ研究所顧問
主要担当科目		（大学院）　高等教育・大学論、個別演習 （学部）　教育方法論、教育課程論、教職演習、教職総合演習、教育実習指導

教育研究等活動

＜研究＞高等教育・大学教育の目的・理念と国家政策・行政の変遷過程を研究のテーマとしてきたが、現在は制度的、教育機関の評価を通してカリキュラム改革及び学士課程教育への改革・再構築研究に取り組んでいる。

＜教育＞学部学生には自分の可能性を発見できるように、更に学ぶことの楽しさを知ることができるようなメリハリのある授業を心がけている。大学院での高度職業人養成に当たっては、大学教育の基本的な目標・理念を理解させ、問題意識の整理と研究の方向性を支援しながら教学支援と大学改革に貢献しうる能力開発を目指している。

研究助成	1980～1982 年度　米国ピッツバーグ大学比較高等教育研究助成『日米大学の改革と発展史』 1994～1997 年度　私学振興財団研究補助金『大学カリキュラムの再編成―これからの学士教育』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『The Role of the National Government in Japanese Higher Education, 1868-1980』（単、University Microfilms International）	1983.10
	2.『国際化時代のまちづくり―地域の政策研究』（共、中央経済社）	1993.4
	3.『A New Approach to Creative Writing of English』（共、中央大学生協出版部）	1994.3
	4.『英語と比較できる―和製カタカナ語事典』（共、創芸社）	1995.6
	5.『大学カリキュラムの再編成―これからの学士教育』（共、玉川大学出版）	1997.1
近年の業績	（論文）	
	1.「21 世紀の大学改革―教育の場から学習の場へ―完全学期制と契約意識の確立」（単、『桜美林短期大学紀要』第 34 輯）	1999.3
	2.「知的活動としてのプレゼンテーション― その意義と本質を求めて」（単、『 Obirin Today―教育の現場から』第 2 号）	2002.3
	（その他活動等）	
	1. 司　会　「自己評価と改革」（日本高等教育学会第 3 回大会）	2000.5
	「シンポジウム　職員能力開発をめざして」『短期大学の将来と職員の役割』（桜美林大学大学院冬期公開講座）	2002.3
	2. 講　演　「プレゼンテーションの仕方を授業して」『学生のニーズの変化にどう向きあうか～言葉の世界への招待～』（教育センター群･大学教育研究所　公開研究会）	2001.7
	3. 公開講座　「アメリカの例に学ぶ I」『教養教育の創造と職員の役割―カリキュラム改革と教学支援』（桜美林大学大学院夏期公開講座）	2001.7
	4. 報　告　「新専攻によせて：米国での経験と担当者としての抱負」（大学教育研究所 Newsletter No. 15）	2001.4

氏　名	寺﨑　昌男（てらさき　まさお）	所　属	大学院
		職　位	教授
	TERASAKI, Masao	学　位	教育学博士
専門分野 研究テーマ	日本近代大学史、日本教育史、教育学		
所属学会	日本教育学会、教育史学会、大学教育学会、教育法学会、 日本教師教育学会、日本高等教育学会、　大学史研究会		

略歴	学歴	1957 年 3 月　東京大学教育学部卒業 1959 年 3 月　　同　大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士） 1964 年 3 月　　同　　博士課程修了（教育学博士）
	主な職歴	1965 年 6 月～　1974 年 3 月　財団法人野間教育研究所所員 1974 年 4 月～　1979 年 2 月　立教大学文学部助教授, 教授 1979 年 3 月～　1992 年 9 月　東京大学教育学部助教授、教授、評議員、学部長 1992 年 10 月～ 1997 年 3 月　立教大学文学部教授、教職課程主任、全学共通カリキュラム運営センター部長、ランゲージ・センター長 1993 年 5 月～　東京大学名誉教授 1997 年 4 月～　桜美林大学大学院教授、大学教育研究所長
	受賞	
学界活動 社会活動	日本教育学会会長、教育史学会元代表理事、大学教育学会常任理事、日本高等教育学会理事、 日本学術会議会員・第 1 部幹事、（財）中央教育研究所理事長、（財）野間教育研究所理事、 （学）大東文化学園理事、大学評価・学位授与機構評価委員	
主要担当科目	（大学院）　高等教育史・大学史（Ⅰ・Ⅱ）、個別演習、研究指導演習 （学士課程）　教育制度論、教職演習	

教育研究等活動

＜研究＞「高等教育」史研究から出発して次第に「大学」史の研究に重点を移し、大学政策、大学自治制度の研究を軸として今日に至っている。ただし近年は大学の激動と教育改革が求められる中で、大学教育の開発、大学改革の問題史的研究に関心を持っている。また個別大学沿革史の編纂・執筆協力、大学アーカイブズの開設と普及拡充にも尽力している。ただし、大学研究を志した 45 年前には失業必至だったこの種の研究が急速に daily science 化し、「食べて行ける」ものになりつつある現状に対しては、複雑な感慨をおぼえている。

＜教育＞アンダーグラジュエートでは教職課程科目を、大学院では専門をフルに生かした高等教育史・大学教育史を講義している。前者では双方向的な授業を行いたいと心がけ、後者では大学アドミニストレーター志望者のための基礎教養教育となればと努めているが、思うに任せないまま 2003 年 3 月定年を迎える。

研究助成	平成 10～13 年度　文部省科学研究助成費基盤 B「近代日本中等教員に期待された教科専門知識並びに教職教養に関する史的研究-『文検』主要教科及びその受験者等の調査分析」 平成 14 年度　日本学術振興会科学研究費補助金（研究究成果公開促進費）「『文検』試験問題の研究」

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『大学教育』（共、東京大学出版会）	1969
	2.『日本における大学自治制度の成立』（単、初版・増補版、評論社）	1974, 2000
	3.『プロムナード東京大学史』（単、東京大学出版会）	1992
	4.『東京大学百年史』（共編著、全 10 巻、東京大学）	1983～86
近年の業績	（著書・編著）	
	1.『教育刷新委員会・教育刷新審議会 会議録』（編集代表、全 13 巻、岩波書店）	1995～98
	2.『教科書から見た日本近現代教育史』（共、東京書籍）	1999
	3.『教育名言辞典』（編著　東京書籍）	1999
	4.『なぜ学校へ行くのか』（編著、日本の教育課題 3、東京法令）	1999
	5.『大学の自己変革とオートノミー』（単、東信堂）	1999
	6.『大学教育の創造』（単、東信堂）	2000
	7.『大学教育の可能性』（単、東信堂）	2002
	（論文）	
	1.「大学改革と教養教育」（単、日本教育学会『教育学研究』66 巻 4 号）	1999.3
	2.「大学史編纂事業の現状と課題について」（単、『広島大学史紀要』第 1 号）	1999.3
	3. 図書紹介 高木英明『大学の法的地位と自治機構に関する研究』（『教育学研究』66 巻 1 号）	1999.12
	4.「占領初期における私学問題－米側文書による研究ノート」（『早稲田大学史記要』32 巻）	2000.7

氏　名	青山（あおやま）　文啓（ふみひろ）	所　属	文学部
		職　位	教授
	AOYAMA, Fumihiro	学　位	文学修士

専門分野 研究テーマ	言語学 形態統語論
所属学会	日本言語学会、国語学会、日本語教育学会、イスパニア学会など

略歴	学歴	1978 年 3 月　東京外国語大学外国語学部スペイン語学科卒業 1980 年 3 月　　同　　外国語学研究科修了 1984 年 9 月　筑波大学大学院文芸言語研究科言語学専攻博士課程退学
	主な職歴	1988 年 3 月～1997 年 9 月　情報処理振興事業協会ワーキンググループ委員 1990 年 4 月～2000 年 3 月　国立国語研究所客員研究員 1996 年 4 月～2000 年 3 月　桜美林大学国際学部助教授 2000 年 4 月～2001 年 8 月　　同　　文学部助教授 2001 年 9 月～　　同　　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　言語学 （学部）　　対照言語学、自然言語学入門

教育研究等活動

＜研究＞長らく単語の持つ統語情報に関する基礎研究を行なってきたが、近年はことばの理解ならびに産出に関する運用モデルに関心が移った。あわせて、表記システムとの関連から単語の形態分析に取り組むようになった。

＜教育＞私の教えている言語学は近代主義の遺物のような、難解なイメージの先行しやすい領域なので、映画(と、そのシナリオ)やレシピなど、日常的に近づきやすいテキストをデータとして使用するよう心がけている。多くは借用翻訳によって成立した用語の洗い直しにも関心を払っている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『日本語と外国語との対照研究Ⅳ：日本語とスペイン語(3)』（共、くろしお出版）	2000.3
	2. Japanese Nouns－A guide to the *IPA Lexicon of Basic Japanese Nouns*（共、情報処理振興事業協会）	1997.10
	3.『日本語表現の方法』（共、東海大学出版会）	1989.5
近年の業績	(論文)	
	1.「二重主語構文と辞書」（単、『言語』27 巻 3 号）	1998.3
	2.「IPAL 名詞辞書による多義性解消のためのコロケーションの分析」（共、『情報処理学会論文誌』39 巻 6 号）	1998.6
	3.「統語情報に基づいた辞書の試み－IPAL の場合」（単、『情報処理学会研究報告』98-IM-34）	1998.11
	4.「日本語の主語をめぐる問題」（単、『日本語学』19 巻 5 号）	2000.4
	5.「ことばの研究と辞書に記載される情報」（単、『語彙･辞書研究会』17 号）	2000.8
	6.「統語論－単語の二重分節を中心にして」（単、『一橋論叢』124 巻 4 号）	2000.9
	7.「対照言語学とは何か」（単、『国文学』46 巻 12 号）	2001.9
	8.「文体」『記号学大事典』（単、柏書房）	2002.5
	9.「構文論」『記号学大事典』（単、柏書房）	2002.5
	(その他)	
	1.「千野栄一先生略年譜」（単、『言語学フォーエバー』千野栄一著）	2002.7

氏　名	ガーション　スティーブン	所　属	文学部
		職　位	助教授
	GERSHON, Steven	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	言語教育　カリキュラムデザイン		
所属学会	Japan Association of Language Teachers (JALT) TESOL		

略歴	学歴	1977 年 6 月　B.A. Degree in English:　California State University, Sonoma USA 1978 年 6 月　Secondary Teaching License:　California State University, Sonoma USA 1980 年 6 月　Diplome Superieur de langue Francaise:　University of Paris, Sorbonne France 1985 年 7 月　M.A. Degree in Applied Linguistics:　University of Reading, UK
	主な職歴	1980 年 9 月～1981 年 7 月　Ravenswood High School:　London, UK (English Instructor) 1981 年 9 月～1982 年 7 月　Mayfield High School:　London, UK (English Instructor) 1982 年 9 月～1984 年 7 月　Henan University:　P.R.China (Lecturer in English Literature) 1985 年 9 月～1986 年 7 月　Holloway High School:　London, UK (English / French Instructor) 1986 年 9 月～1992 年 7 月　Tokai University:　Hiratsuka, Japan (Lecturer in English) 1992 年 9 月～　Obirin University (Lecturer in English)
	受賞	
学界活動 社会活動	Asia Regional Language Teaching Conference Presentations Scuba Diving	
主要担当科目	（大学院）　Course Design （学部）　Debate, Advanced Writing, Curriculum Design	

教育研究等活動

＜研究＞My research focuses on the areas of curriculum design, materials development and language testing.

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. Online　(共、Three Level English Conversation Textbook, Macmillan ELT)	1995.9
	2. Sound Bytes　(共、Two Level Listening Skills Textbook, Longman ELT)	1999.9
	3. English Upgrade　(共、Three Level English Conversation Textbook, Macmillan ELT)	2002.9
	4. On The Go　(共、Two Level English Conversation Textbook, Longman ELT)	2003.9
近年の業績	“Featured Speaker” at the following international language teaching conferences.	
	1. Korea TESOL	2001.10
	2. Taiwan TESOL	2001.11
	3. JALT	2001.11
	4. Thai TESOL	2002.1

氏　名	小林（こばやし）　一仁（かずひと）	所　属	文学部
		職　位	教授
	KOBAYASHI, Kazuhito	学　位	文学修士

専門分野 研究テーマ	国語教育学 漢字教育、日本語の文章構成
所属学会	全国大学国語教育学会、日本国語教育学会、俳文学会

略歴	学歴	1955 年 3 月　東京教育大学文学部卒業 1957 年 3 月　　同　　大学院文学研究科修士課程修了
	主な職歴	1957 年 6 月～1973 年 3 月　東京都公立高等学校教諭 1973 年 4 月～1977 年 3 月　文化庁文化部国語課専門員（現・国語調査官） 1977 年 4 月～1979 年 3 月　筑波大学文芸・言語学系専任講師 1979 年 4 月～1985 年 3 月　文部省初等中等教育局中学校課・高等学校課教科調査官 1985 年 4 月～1986 年 6 月　茨城大学教育学部助教授 1986 年 7 月～1997 年 3 月　　同　　教授 1997 年 4 月～　　桜美林大学教授
	受賞	1982 年　全国大学国語教育学会・石井賞
学界活動 社会活動		文化審議会国語分科会委員、日本国語教育学会常任理事･研究誌編集部長 (財)日本漢字能力検定協会評議員、国立教育政策研究所教育課程実施状況調査協力者
主要担当科目		（大学院）　国語政策 （学部）　　国語教育、日本語学、言語表現

教育研究等活動

＜研究＞国語科教育における漢字の学習指導につき、その変遷や現状を踏まえ、効果的な学習のあり方を追究している。また、大学生における日本語、日本文学に対する興味、関心を喚起し、知識、教養を育成するための内容、方法についても具体的にどうあるべきかにつき追究している。

＜教育＞大学生が自主的に課題を持ち、積極的に学習に参加する態度を育て、知的飢餓感を持ち、自ら進んで学ぶという授業を創出するという工夫を重ねている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『漢字教育の基礎研究』　（単、明治図書出版）	1981.6
	2.『漢字の系統的指導』　（単、明治図書出版）	1984.4
	3.『国語科教育の理論』　（単、明治図書出版）	1993.10
	4.『新中学校　教育課程講座　国語』　（共、ぎょうせい）	1999.12
近年の業績	（著書）	
	1.『バツをつけない漢字指導』　（単、大修館書店）	1998.5
	2.『国語教育辞典（日本国語教育学会編）』　（共、朝倉書店）	2001.8
	3.『国語科教育学研究の成果と展望（全国大学国語教育学会編）』　（共、明治図書出版）	2002.6
	（論文）	
	1.「『古典』憧憬と個性『創造』の図､ノート」　（単、桜美林大学『中国文学論叢』第 26 号）	2001.3
	2.「『戦争』素材の文章と若者の反応､ノート」　（単、桜美林大学『中国文学論叢』第 27 号）	2002.3
	3.「漢字教育、改善のための問題提起」（単、日本漢字能力検定協会『漢字教育研究』第 2 号）	2001.7
	4.「漢字教育、20 世紀後半、50 年の変遷」 （単、国立教育政策研究所・研究成果報告書『国語科系教科のカリキュラムの改善に関する研究』）	2002.3
	（その他の活動等）	
	1. 座談会「展望　日本語の研究と教育、その将来」（明治書院『日本語学』創刊 20 周年記念号）	2002.7
	2. 講演「教育研修講座中学校国語、年間指導計画（シラバス）づくり」 （神奈川県立総合教育センター）	2002.8

氏　名	森住　衛（もりずみ　まもる）	所　属	大学院国際学研究科
		職　位	教授
	MORIZUMI, Mamoru	学　位	教育学修士
専門分野 研究テーマ	英語教育学、言語文化教育学 ことばと思想 / 政治、英語教授法論、教材論、学習指導要領史		
所属学会	大学英語教育学会、語学教育研究所、日本言語政策研究会、日本「アジア英語」学会、日英・英語教育学会		

略歴	学歴	1968 年 3 月　東京学芸大学教育学部英語科卒業 1970 年 3 月　同　大学院修士課程英語教育専攻修了（教育学修士） 1974 年 11 月　シドニー大学大学院 TEFL Diploma Course 修了（Diploma of TEFL）
	主な職歴	1989 年 4 月～1996 年 3 月　大妻女子大学文学部教授 1996 年 4 月～2001 年 3 月　大阪大学言語文化部及び言語文化研究科教授 2001 年 4 月～　桜美林大学大学院国際学研究科教授 2001 年 4 月～　大阪大学名誉教授
	受賞	大学英語教育学会賞（1983 年 10 月）
学界活動 社会活動		大学英語教育学会理事、日英・英語教育学会副会長、語学教育研究所評議員、日本言語政策研究会理事、日本「アジア英語」学会理事
主要担当科目		（大学院）　英語教育学原論、英語教授法 A （学部）　英語科教育法

教育研究等活動

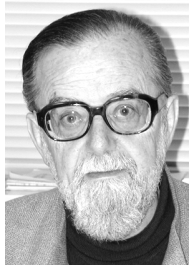
＜研究＞異言語教育の目的論、目標論などを中心に、言語教育が人間の思想・精神にどのように係わっているかに関心をもっている。

＜教育＞教師は学生の資質や能力を引き出す「触媒」と任じ、学生の自ら学習や研究をおこなえる態度・能力の育成をめざし、学生の気づきを触発するように努めている。

研究助成	2001 年度　文部科学省委嘱「大学院修士課程における教育内容・方法の開発研究事業」 2002 年度　同上継続

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『 英語教育指導ライブラリー』（共、中村敬・森住衛他共著　三省堂）	1969.6
	2.『英語教育と日本語』（共、森住衛他共編著　中教出版）	1970.8
	3.『 英語教育教材事典』（共、長谷川潔・森住衛共編著　大修館）	1987.12
	4. 'Simplification in Tok Pisin and Esperanto'（単、『紀要』No.21　大妻女子大学）	1989.3
	5.『英語要覧』（共、伊村元道・森住衛他共編著　大修館）	1991.4
	6.「英語教育題材論(1)～(12)」（単、『現代英語教育』29 巻 1-12 号 研究社）	1992.4～1993.3
	7.『ファースト英和・和英辞典』（共、中村敬・森住衛共編著　三省堂）	1993.2
	8. 'On Correlation between LSP and LGP'（単、*The Practice of LSP.* RELC）	1993.12
	9.「英語に表われる日本人名の表記法」（単、『英語科教育のおける創造性』三省堂）	1996.6
近年の業績	1.「教科書を支える三つの理念」（単、『英語教育－中学編』No.34　三省堂）	1997.2
	2.「〈学習指導要領〉の変遷と将来を見る」（単、『英語教育』Vol. 46 No.13　大修館）	1998.3
	3.「なぜ英語教育で〈ことばの教育〉か」（単、『英語教育－中学編』No.39　三省堂）	1999.2
	4.「〈実践的コミュニケーション〉をいかにとらえるか」（単、『英語教育－中学編』No.41　三省堂）	2000.4
	5.「学校教育における国際化の現状と課題」（単、『中学の広場』158 号　大阪府中教研）	2000.7
	6. 文科省検定済教科書　*New Crown English Series* 1～3（共、森住衛他共編　三省堂）	2001.3
	7.「英語教育の根本を考える」（単、『現代英語教育の言語文化学的諸相』三省堂）	2001.6
	8.『ハイベスト教科事典：英語』（共　森住衛監修　学習研究社）	2001.10
	9. 文科省検定済教科書　*Exceed English Series* I（共、森住衛他共編　三省堂）	2002.3
	10.『言語文化教育学の可能性を求めて』（共、森住衛監修　三省堂）	2002.7

氏　名	ネウストプニー　ジェイ　ヴィー	所　属	大学院
		職　位	教授
	NEUSTUPNY, J.V.	学　位	文学博士、CSc
専門分野 研究テーマ	コミュニケーション問題、社会言語学、言語習得、日本語教育		
所属学会	社会言語科学会、日本言語政策研究会、日本語教育学会、言語学会		



略歴	学歴	2000 年　カレル大学（プラハ）文学部卒業 1960 年～1962 年　東京大学文学部留学 2000 年　チェコスロバキア化学アカデミー東洋研究所大学院修了
	主な職歴	1964 年～1971 年　チェコスロバキア化学アカデミー東洋研究所所員 1966 年～1993 年　モナシュ大学（メルボルン）文学部教授（日本研究学科長） 1993 年～1997 年　大阪大学文学部教授 1997 年～1999 年　千葉大学文学部教授 1999 年～　桜美林大学大学院教授
	受賞	2000 年　オーストラリア人文科学アカデミー会員 2001 年　モナシュ大学（メルボルン）名誉教授、メルボルン日本研究センター名誉会員 1997 年　大阪日豪協会名誉会員 2000 年　国際交流功労者（文部省）
学界活動 社会活動	日本語教育学会副会長、日本言語政策研究会副会長、「社会言語科学」編集委員	
主要担当科目	（大学院）異文化接触論、日本語応用言語学	

教育研究等活動
＜研究＞言語問題理論、社会言語学、日本語習得、日本語教授法
＜教育＞総合ゼミにおいて大学院生の独立した探求能力を育ている。

研究助成	2002 年度文部省科学研究費（日本留学試験が日本語教育に及ぼす影響に関する調査研究）分担者

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. POST-STRUCTURAL APPROACHES TO LANGUAGE : LANGUAGE THEORY IN A JAPANESE CONTEXT. (Tokyo: University of Tokyo Press, 307pp.)	1978
	2.『外国人とのコミュニケーション』（岩波書店）	1982
	3. COMMUNICATING WITH THE JAPANESE. (Tokyo: The Japan Times)	1987
	4. STRATEGIES FOR ASIA AND JAPAN LITERACY. Melbourne (Japanese Studies Centre)	1989
	5. THE USE OF JAPANESE: COMMUNICATION AND INTERACTION. (=Japanese Correspondence Course for JET Participants 4.) (Tokyo: Bonjinsha 141 pp.)	1993
	6. UNLOCKING AUSTRALIA'S LANGUAGE POTENTIAL. VOLUME 7: JAPANESE. (Helen Marriott, J.V. Neustupn and Robin Spence-Brown. Canberra: The National Languages and Literacy Institute of Australia. 168 pages.)	1994
	7.『新しい日本語教育のために』（大修館書店）	1995
	8.『日本語教育と日本語学習ー学習ストラテジー論にむけて』（宮崎里司・J.V.ネウストプニー共編著、くろしお出版）	1999
	9.『日本の言語問題』（イシュー・エディター J.V.ネウストプニー（社会言語科学」2/1）	1999
	10.『今日と明日の日本語教育』（アルク）	2000
	11.『言語研究の方法』（J.V.ネウストプニー・宮崎里司共編著、くろしお出版）	2002
近年の業績	1. Theory and practice in language management. New Language Planning Newsletter 14/1, pp.1-5.	2000
	2.「ネットワーク : 規範性とインタレストの問題」(『日本語教育における教授者の行動ネットワークに関する調査研究－最終報告』日本語教育学会 37-52 頁)	2000
	3.「日本語教育における教授者ネットワークの規範的研究に向けて」(『日本語教育における教授者の行動ネットワークに関する調査研究－最終報告』日本語教育学会 164-175 頁)	2000
	4.「外国人とのコミュニケーションー問題と楽しみと」（「ことば・こころ」33　2-14 頁）	2000
	5.「敬語・待遇表現・ポライトネスと社会関係」（中村明編『現代日本語必携』学燈社 67-72 頁）	2001
	6.「白鳥の歌－最後の国語審議会の敬意についての答申」(『人文学と情報処理』(Science of Humanity Bensei)　32 号　21-27 頁)	2001
	7.「敬意行動の世界」(『人文学と情報処理』(Science of Humanity Bensei)　32 号　109-111 頁)	2001
	8.「インターアクションと日本語教育－今何が求められているか」(『日本語教育』112、1-14 頁)	2002
	9.「日本語学習におけるコミュニケーションと社会文化行動－60 年代からの試みと現在の課題」(『月刊日本語』2002 年 1 月号　4-5 頁)	2002
	10. Sociolingvistika a jazykový management (Sociolinguistics and language management) (*Sociologický časopis* (Czech Sociological Review) 38/4)	2002
	11.「国際社会言語学にむけて」(『社会言語科学会ニュースレター』13 号　1 頁)	2002

氏　名	佐々木（ささき）　倫子（みちこ）	所　属	大学院
		職　位	教授
	SASAKI, Michiko	学　位	M.A. in Linguistics
専門分野 研究テーマ	日本語教育学、日英対照研究 言語環境・言語習得・教授法、日本語教育と文化、年少者日本語教育		
所属学会	日本語教育学会、Association of Teachers of Japanese 国語学会、大学英語教育学会、異文化間教育学会		

略歴	学歴	1968 年 3 月　国際基督教大学教養学部卒業 1973 年 6 月　米国アメリカン大学言語・語学部 MA 課程修了
	主な職歴	1968 年 9 月～1969 年 7 月　国際基督教大学非常勤助手ほか 1970 年 9 月～1974 年 5 月　米国アメリカン大学 TA を経て語学専門家 1973 年 9 月～1975 年 5 月　米国ジョージ・ワシントン大学非常勤講師ほか 1976 年 2 月～1985 年 3 月　朝日カルチャーセンター常任講師を経て日本語科主任 1985 年 4 月～1991 年 3 月　静岡大学教養部助教授 1991 年 4 月～2001 年 3 月　国立国語研究所日本語教育センター室長を経て日本語教育指導普及部長 2001 年 4 月～　桜美林大学大学院教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本語教育学会常任理事	
主要担当科目	（大学院）　年少者に対する日本語教育、地域の日本語教育、教室言語行動分析、教材分析 （学部）　日本語教授法、日本語	

教育研究等活動

＜研究＞すべてのテーマは、一語で言えば日本語教員養成に帰結する。外国語としての日本語教授法に始まり、日本語教育と“文化”、日英対照語用論、多言語下における年少者言語教育、地域の日本語教育と教育・学習観の転換などについて考えてきたが、常に、多様な状況下における教員の資質と能力の追究を最終目標としている。

＜教育＞日本語教育専修の院生に対しては、自身の問題意識を出発点として、自律的な学びの環境を整えることを心がけている。教員からの一方的な知識の切り売りにならず、自らの問題意識の掘り起こし、追究、まとめのプロセスを重視している。

学部学生に関しては、基礎的な知識の理解と定着面にもある程度の配慮をしている。

研究助成	2000 年度　年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究（文部省科研費基盤研究 A　代表者） 1999～2002 年度　日本語教員養成における「日本事情」教育のシラバス構築のための調査研究（文部省科研費基盤研究 B　分担者）

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『話し方の教育』（単、日本語教師養成通信講座教材、㈱アルク）	1987.9
	2.「日系ブラジル人児童の日本語教育 －ハワイの事例との対照－」（単、『日系ブラジル人のバイリンガリズム』、国立国語研究所）	2000.3
	3. 「日本語教育で重視される文化概念」（単、『ことばと文化を結ぶ日本語教育』、凡人社）	2002.5
近年の業績	（著書）	
	1.「話し方の教育」（単、『現代日本語講座　第 2 巻　表現』、明治書院）	2001.12
	（論文）	
	1.「『日本事情』の教育方法 －ビデオを用いた 3 地域意識調査から－」（単、『21 世紀の「日本事情」』創刊号、くろしお出版）	1999.10
	2.「認識のモダリティ周辺の日英対照例 －意見文から－」（単、『認識のモダリティとその周辺 －日本語・英語・中国語の場合－』、国立国語研究所）	2000.12
	（学会発表）	
	1.「日本語教育と『文化』概念」（日本語教育学会秋季大会）	2001.10
	（その他活動等）	
	1. パネル「在日ブラジル人の抱える言葉の問題をめぐって」（長野・言語文化研究会・松本市教育委員会共催公開シンポジウム）	2001.10
	2. 講演「母語環境から引き離された子供たち－130 年間の変化－」（房総ボランティアネットワーク　シンポジウム）	2002.1
	3. 講演「地域における日本語学習支援」（静岡大学留学生センター　公開シンポジウム）	2002.2

氏　名	新屋（しんや）　映子（てるこ）	所　属	文学部
		職　位	教授
	SHINYA, Teruko	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	現代日本語文法		
所属学会	国語学会、日本言語学会、日本語教育学会、日本文体論学会		

略歴	学歴	1967 年 3 月　お茶の水女子大学文教育学部卒業 1988 年 3 月　東京外国語大学外国語学研究科日本語学専攻修了
	主な職歴	1988 年 4 月～ 1990 年 9 月　独協大学非常勤講師 1988 年 10 月～ 1990 年 9 月　東京工業大学非常勤講師 1989 年 4 月～ 1991 年 3 月　文教大学非常勤講師 1990 年 9 月～ 1993 年 3 月　桜美林大学専任講師 1993 年 4 月～ 1998 年 3 月　同　助教授 1993 年 4 月～ 1998 年 3 月、2001 年 4 月～2002 年 3 月　津田塾大学非常勤講師 1996 年 4 月～ 1998 年 3 月　聖心女子大学非常勤講師 1996 年 4 月～ 1998 年 3 月　白百合女子大学非常勤講師 1998 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　日本語研究 A （学部）　日本語の表現	

教育研究等活動

＜研究＞日本語教育的観点から現代日本語の文法を研究。

＜教育＞学部生に対しては、言語に対する関心を深め、自ら言語について考える習慣を養い、日本語の特徴を考えることを目標にしている。ゼミ生には、研究テーマの模索・追究のために、できるだけ多くの文献を読み、実生活上でもさまざまな言語体験、言語教育体験を得るよう奨励・指導している。

大学院では、文法の主要な論文を読み、討論をして、言語に対する考察を深めることを目標にしている。ゼミ生には研究方法・研究内容について個別に緻密な指導を行うようにしている。

研究助成	1990 年度、1991 年度文部省「特色ある教育研究」助成『外国人に対する日本語教育』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「‘文末名詞’について」（単、『国語学』159　国語学会）	1989.12
	2.『日本語教育チェックブック』（共、バベルプレス）	1991.6
	3.「日本語中上級学習者の聴解能力について」（単、『日本語教育』79　日本語教育学会）	1993.3
	4.「意味構造から見た平叙文分類の試み」（単、『東京外国語大学日本語学科年報』15）	1994.3
	5.『日本語学叢書　続日本語誤用分析』（共、明治書院）	1997.6
近年の業績	（著書）	
	1.『日本語教科書の落とし穴』（共、アルク）	1999.11
	（研究ノート）	
	1.「「という」の介在する連体修飾の意味類型」（単、『桜美林論集』29）	2002.3
	（学会発表）	
	1.「接続語の記述と日本語教育への応用－「そして」と「それから」を例に」（国際日本語教育・日本研究シンポジウム）	1999.11
	2.「名詞をめぐって」（日本語教育国際シンポジウム）	2001.9
	3.「トイウの介在を中心に連体構造を考える」（日本語教育学会研究集会）	2002.3

氏　名	竹前（たけまえ）　文夫（ふみお）	所　属	大学院
		職　位	教授
	TAKEMAE, Fumio	学　位	
専門分野 研究テーマ	英語教育、社会言語学、言語政策、批判的思考		
所属学会	大学教育学会、大学英語教育学会、日本英語表現学会など		

略歴	学歴	1960 年 3 月　東京外国語大学英米科卒業 1961 年 3 月　同　専攻科修了 1964 年 3 月　同　同　国内留学（1 年間）修了
	主な職歴	1966 年 4 月～1977 年 3 月　お茶の水女子大学文教育学部付属高等学校教諭 1977 年 4 月～1979 年 3 月　亜細亜大学教養部専任講師 1979 年 4 月～1987 年 3 月　同　助教授 1982 年 4 月～1983 年 3 月　合衆国州立西ワシントン大学客員教授 1987 年 4 月～1999 年 3 月　亜細亜大学教養部教授 1999 年 4 月～2001 年 3 月　同　短期大学部教授 2001 年 4 月～　桜美林大学大学院教授
	受賞	
学界活動 社会活動	大学英語教育学会理事、日本英語表現学会評議員、大学教育学会監査	
主要担当科目	（大学院）　英語教育教材論Ⅰ、Ⅱ、個別演習Ⅰ、Ⅱ （学部）　英語学講読 A, B, C	

教育研究等活動

＜研究＞「大学の国際化について」というテーマのもとで過去 10 年以上にわたり一連の研究を続けている。さらに、「批判的思考（Critical Thinking）についての研究」をこの 5 年ほど続けている。「AIDS の報道の変遷についての一連の研究は、そろそろまとめの段階である。

＜教育＞院生に対しては、高度職業人として、学問を深めるとともに、視野を広くして、綜合的にものを見ることを強調している。学部生については、生涯学習につながる言語学習と専門基礎を固める学習方法を会得させながら、学習言語の四技能の鍛錬に、思考能力を高める演習を加味した学習をさせている。

研究助成	2001～2002 年度　文部科学省初等中等教育局委嘱研究：教職課程における教育内容・方法の開発研究事業『修士課程における「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の内容の連携について―英語科教育関連科目を中心として―』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）		発表年月
主要業績	1.『新クラウン和英辞典　第 6 版』	（共改訂、三省堂）	1994
	2.『TUDOR-STUART朝英語　GLOSSARY』	（共、竹村出版）	1986
	3.『Cover to Cover』	（共、マグロウヒル出版）	1988
近年の業績	1.『Welcome to College English』	（編者代表、南雲社）	1999
	2.『目は口ほどにものを言うか』	（共、三修社）	1998

254－国際学研究科／言語教育専攻

氏　名	田中　慎也（たなか　しんや）	所　属	文学部
		職　位	教授
	TANAKA, Shinya	学　位	

専門分野 研究テーマ	社会言語学、比較英語教育論 言語政策／言語教育政策
所属学会	大学英語教育学会、大学教育学会、日本言語政策研究会、 日豪ニュージーランド教育文化学会

略歴	学歴	1963 年 3 月　東京教育大学文学部文学科言語学専攻卒業 1973 年 3 月　　同　　専攻科言語学専攻退学
	主な職歴	1988 年 4 月～1991 年 3 月　東京女学館短期大学教授 1991 年 4 月～1997 年 3 月　文教大学国際学部教授 1996 年 4 月～1997 年 3 月　　同　　学長補佐 1997 年 4 月～2000 年 3 月　國學院大学文学部教授 2000 年 4 月～　　桜美林大学文学部・大学院国際学研究科教授
	受賞	

学界活動 社会活動	大学英語教育学会理事、日本言語政策研究会副会長 日豪ニュージーランド教育文化学会評議員
主要担当科目	（大学院）　比較英語教育論 （大学）　　社会言語学、言語教育学

教育研究等活動

＜研究＞日本の言語問題を深く掘り下げながら国際的な視野と活動の場を更に広げるという研究姿勢により研究ネットワークの拡大と研究の深化を図っている。

＜教育＞教育方法・授業方法の研究・工夫と同時に、現代の学生気質の特質に関する分析・把握にも力を入れている。

研究助成	2000 年度　大学英語教育学会出版助成 『日本の地方自治体における言語サービスに関する研究－「21 世紀多言語社会への助走」－』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「明治期における神奈川県下公立小学校と英語（外国語）教育－言語教育政策研究－」（単、『筑波大学人文科教育研究』XV）	1988.9
	2.『どこへ行く？ 大学の外国語教育』（単、三修社）	1994.9
	3.『外国語(英語)教育改革をはばむもの－法的枠組みとの関連において－』（単、『一般教育学会誌』第 17 巻第 2 号）	1995.11
近年の業績	（著書）	
	1.『英語科教育の基礎と実践－新しい時代の英語教員をめざして』（共、三修社）	2001.1
	2.『論争・英語が公用語になる日』（共、中央公論新社）	2002.1
	（論文）	
	1.「「大学基準」と外国語－大学基準協会資料を中心として－」（単、『國學院雑誌』第 101 巻第 3 号）	2000.3
	（学会発表）	
	1.「言語政策としての言語サービス」（単、第 2 回日本言語政策研究会）	2000.10
	（その他活動等）	
	1. 大学外部評価委員（千葉大学外国語センター）	1997.10
	2. 講義及び講演:「日本の大学の外国語教育システムの現状と課題」（中国寧波職業技術学院）	2001.12
	3. 講演:「子供と英語」（八王子市川口公民館成人講座）	2001.5～7

氏　名	阿久根（あくね）　英昭（ひであき）	所　属	文学部
		職　位	教授
	AKUNE, Hideaki	学　位	
専門分野 研究テーマ	体育学（足の生体学：足底圧力と体の障害・運動能力）		
所属学会	日本体力医学会、日本公衆衛生学会、日本健康心理学会		

略歴	学歴	1972 年　日本体育大学卒業 1976 年　日体柔整専門学校卒業 2002 年　福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座　入学（研究生）
	主な職歴	1990 年 4 月～1995 年 9 月　桜美林大学助教授 1995 年 10 月　同　教授 1999 年 4 月　同　スポーツ健康科学センター長 2002 年 9 月　同　学生部長
	受賞	
学界活動 社会活動		東京学生柔道連盟理事・日本エコーウォーカソン協会理事・副会長
主要担当科目		（大学院）　健康科学特論 （学部）　健康科学論・足の健康科学

教育研究等活動

＜研究＞足と健康、足の歪みと脊柱側湾症、足の歪みと体の障害との関係。足底圧力による運動能力の評価の検討。高齢者の転倒を足底圧力からの評価の検討。

＜教育＞町田市高齢者福祉課からの委託事業である転倒予防教室を開催し、学生も指導者のスタッフとして指導に当たっている。ウォーキング大会（日本エコーウォーカソン主催）の参加者の体力測定を桜美林大学の教員と学生が行っている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『子供たちの足の裏が危ない』　（単、主婦の友社）	1988.2
	2.『腰痛を治す 100 のコツ』　（共、主婦の友社）	2000.9
	3.『体育概説』　（共、芳文館）	1984.4
近年の業績	（著書）	
	1.『2 週間で脚やせできる本』　（共、マキノ出版）	2002.3
	（論文）	
	1.「足底圧力と姿勢の歪みに関する研究」　（単、『桜美林論集』26 号）	2001.3
	（学会発表）	
	1.「脚長差の要因、及び背骨の歪みとの関係について」　（日本体力医学会）	2000.9
	（その他の活動）	
	1. 出筆　「日本人の足が危ない」　（文藝春秋社）	2000.9
	2. 新聞　「私の健康法」　（報知新聞）	2000.10
	3. 講演　「21 世紀の健康を支える足」　（灘高等学校）	2002.6
	「足と健康」　（長野県警察学校）	2002.9
	4. 放送出演　「子供たちの足が危ない」　（ＮＨＫ）	2000.7

256ー国際学研究科／人間科学専攻

氏　名	井上（いのうえ）　直子（なおこ）	所　属	文学部
		職　位	助教授
	INOUE, Naoko	学　位	教育学修士

専門分野 研究テーマ	臨床心理学　力動的個人心理療法・集団心理療法 訓練・教授法の開発、青年期への支持的心理療法
所属学会	日本心理学会、日本心理臨床学会、日本集団精神療法学会、日本健康心理学会

略歴	学歴	1987 年 3 月　国際基督教大学教養学部卒業 1989 年 3 月　　同　　大学院教育学研究科博士前期課程修了（教育学修士） 1991 年 2 月　博士候補資格取得（国際基督教大学大学院教育学研究科） 1996 年 3 月　国際基督教大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学
	主な職歴	1989 年 4 月～1990 年 3 月　都立清瀬小児病院非常勤心理職（発達相談・心理療法） 1991 年 4 月～1993 年 3 月　日本ルーテル神学大学非常勤講師（臨床心理学担当） 1992 年 4 月～1994 年 3 月　白梅学園短期大学学生相談室専任カウンセラー 1994 年 4 月～1997 年 3 月　パス心理教育研究所専任講師／主任サイコセラピスト 1997 年 4 月～2001 年 3 月　桜美林大学専任講師（臨床心理学） 2002 年 4 月～　　同　　大学／大学院助教授
	受賞	

学界活動 社会活動	1991 年 4 月～1993 年 3 月　日本集団精神療法学会第 9 回大会大会実行委員 1992 年 4 月～1994 年 3 月　日本集団精神療法学会集団精神療法点数化対策委員会委員
主要担当科目	（大学院）　臨床心理面接特論、臨床心理基礎実習、個別演習 （学部）　臨床心理学、人格心理学、専攻演習

教育研究等活動

＜研究＞集団心理療法における技法、およびそれを身に付ける訓練方法を主な関心テーマとしてきたが、現在はインテーク面接の訓練方法や青年期に対する支持的心理療法の意義への関心が強くなっている。

＜教育＞学部生には、自分の頭で考える力、それを表現する力、それを仲間と生産的に楽しむ力を育むことに重点を置いている。院生には、専門的な仕事を行う際の自分の特徴を知ること、原則を学ぶことと柔軟性を持つことの大切さを実感することに重点を置いている。いずれの場合も、生き生きとした討論の場を運営することが重要であると考えている。

研究助成	文部省科研費　基盤研究(C)「心の教育のための教師トレーニングプログラムの開発」 1998～1999 年度　（課題番号：10610139）　共同研究 2001～2002 年度　（課題番号：13610164）　研究分担

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「集団心理学的基礎」　（単、『ガイダンスとカウンセリング』、第 5 章、北樹出版）	1993.4
	2.「学生相談における個人心理療法」（単、『学生相談』、第 3 章 3 節、星和書店）	1994.5
	3.「集団精神療法の定義」　（共、『集団精神療法』、第 10 巻第 2 号、日本集団精神療法学会）	1994.10
近年の業績	（著書）	
	1.「精神分析的心理療法」　（単、『臨床心理学』、第 3 部第 14 章、日本文化科学社）	2002 印刷中
	（論文）	
	1.「青年期以降のダウン症者に対する集団精神療法–スクリーニンググループによる適用可能性の検討–」　（共、『集団精神療法』、第 10 巻第 2 号、日本集団精神療法学会）	1998.4
	2.「精神分析的集団精神療法」　（単、『現代のエスプリ　385　』、至文堂）	1999
	3.「スクールカウンセラーと教師の間」　（単、『学習評価研究　別冊Ｖ』、みくに出版）	1999
	（口頭発表）	
	1.「引き籠り・社会恐怖・人格障害に対する外来集団精神療法」（日本心理臨床学会第 17 回大会ワークショップ）	1998.10
	2.「引きこもり青年とのサポーティヴ・サイコセラピィ」（慶応義塾大学医学部精神神経科学教室精神療法セミナー）	2000.10
	（その他活動等）	
	1. 第４回国際集団精神療法学会環太平洋地域会議ワークショップ講師「応答構成」	1999.9
	2. 法務技官研修課程応用科後期研修講師「集団精神療法」	1999～2001
	3. 富士宮市カウンセリング実践講座講師「ガイダンスカウンセリング演習」	2000.6
	4. 家庭裁判所調査官専門研修講師「調査実務研究」	2002.6
	5. 青梅市教育相談所相談員研修講師「事例検討」	2002.6
	6. 青梅市教育委員会主催　学校教育相談研修ステップアップ研修講師「学校教育相談の実際：児童・生徒の発達課題と教育相談」	2002.8

氏　名	石川（いしかわ）　利江（りえ）	所　属	大学院
		職　位	助教授
	ISHIKAWA, Rie	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	健康心理学、臨床心理学 介護者・高齢者の健康感に関する研究、がん患者の心理的ケア		
所属学会	日本心理学会、日本健康心理学会、日本教育心理学会、日本行動療法学会、 サイコオンコロジー学会、ヒューマンケア学会		

略歴	学歴	1981 年　早稲田大学第二文学部卒業 1984 年　　同　　大学院博士前期課程心理学専攻修了 1991 年　　同　　同　　後期課程心理学専攻単位取得退学
	主な職歴	1981 年～1985 年　神奈川県総合リハビリセンター心理科非常勤心理判定員 1990 年～1993 年　早稲田大学人間科学部助手 1990 年～1996 年　多摩美術大学非常勤講師 1996 年～2002 年　長野県看護大学看護学部助教授 2002 年～　　桜美林大学大学院助教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本健康心理学会編集委員	
主要担当科目	（大学院）　健康心理アセスメント特論、健康心理学演習、健康心理実習 （学部）　健康心理学、健康教育概論、健康心理アセスメント、健康心理カウンセリング実習	

教育研究等活動

＜研究＞在宅介護者、高齢者の健康感に対するソーシャルサポートやストレスコーピングの効果に関する研究を行ってきた。在宅介護者や高齢者に対する新たなソーシャルサポートシステムの構築を試みる、アクションリサーチを行ってきた。また、がん患者の心理的ケアに関する問題について医療者との共同研究を行っている。

＜教育＞学部学生に対しては、講義内容の理解しやすさを基本とし、ビデオ教材などを積極的に活用している。実習科目については、実感を伴って学習できるような体験的学習を中心として行っている。大学院生に対しては、心理学専攻でなかった院生も理解できるように配慮している。また、個々の院生の興味を研究的価値のあるものとするような指導を心がけている。

研究助成	1998 年「地方病院におけるがん患者の心理的ケア」長野県看護大学特別研究助成 1998 年「在宅介護者のストレス対処に関する縦断的研究」科研費基盤研究（C）

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『在宅で介護する高齢者の主観的件交換とソーシャルサポートの検討』（共、ヒューマンケア研究、印刷中）	2002
	2.「在宅介護者のソーシャルサポートと介護バーンアウトの検討：要介護高齢者との続柄に基づく比較」（共、『健康心理学研究』、印刷中）	2002
	3. 「矛盾したメッセージの認知（共、『教育心理学研究』、41 (1)，93-98）	1993
近年の業績	（著書）	
	1.『性格心理学ハンドブックⅢ部　ヒューマンワーカにとっての対象理解』	1998
	2.『節母親の子ども理解（単、福村書店）	
	3.『人はなぜ人を恐れるか一対人恐怖と社会恐怖』「第 1 部社会恐怖を自己理解する」（単、日本評論社）	2000
	4.『生活習慣病と心理面の管理』（共、至文堂、現代のエスプリ別冊特集号）	2000
	（論文）	
	1.「在宅介護者のソーシャルサポート：測定尺度開発の試み」（共、『長野県看護大学紀要』, Vol.1）	2001
	2.「看護学生に対するエンカウンター合宿の効果」（共、『長野県看護大学紀要』, Vol.3）	2002
	3.「がん患者の心理的ケアに関する研究」（共、『長野県看護大学紀要』, Vol.4）	
	（学会発表）	
	1. A study of mental health and efficacy in caregiving for the elderly. ICN 22nd Quadrennial Congress,Copenhagen.	2001
	2.「がん患者の心理的ケアに関する研究―がん告知は不安、抑うつを増すか？－」（サイコオンコロジー学会第 14 回総会）	2001
	3.「がん患者の心理的ケアに関する研究―医師の説明態度の評価－」（サイコオンコロジー学会第 14 回総会）	2001
	4.「要介護高齢者をかかえる家族介護者が捕らえた訪問看護の効果の質的分析」	2001
	5.「高齢の在宅介護者の主観的健康感に関する検討－介護高齢者と非介護高齢者との比較」	2001

氏　名	石丸（いしまる）　昌彦（まさひこ）	所　属	文学部
		職　位	助教授
	ISHIMARU, Masahiko	学　位	医学博士
専門分野 研究テーマ	精神医学、神経科学 精神分裂病の発症機序、環境ホルモンが発達期の脳に与える影響		
所属学会	日本精神神経学会、日本神経科学学会、日本心理臨床学会		

略歴	学歴	1979 年 3 月　東京大学法学部卒業 1986 年 3 月　東京医科歯科大学医学部卒業
	主な職歴	1986 年～1991 年　東京医科歯科大学医学部付属病院、鶴見台病院、針生が丘病院等勤務 1991 年～1992 年　同　医学部付属病院精神科医員 1992 年～1999 年　同　難治疾患研究所助手 この間 1994 年～1997 年　ワシントン大学（米国ミズーリ州セントルイス市）精神科留学 1999 年～2000 年　東京医科歯科大学難治疾患研究所講師 2000 年～　桜美林大学助教授
	受賞	1996 年　島崎・島薗・高橋学術賞
学界活動 社会活動		NPO（キリスト教メンタルケアセンター、略称 CMCC）協力医師
主要担当科目		（大学院）　精神医学特論、臨床心理実習 （学部）　精神保健学、精神医学

教育研究等活動

＜研究＞① 精神分裂病（統合失調症）の発症機序　② 幼弱ラットの脳細胞死を指標とした環境汚染物質の発達毒性　③ 心理臨床の基本概念の方法論的基礎等について幅広く取り組んでいる。

＜教育＞現役の精神科医としての経験に立ちつつ、精神医学・臨床心理学の基礎知識と臨床家としての基本姿勢を伝えることに重点を置いている。正確で新鮮な情報伝達の難しさとともに、自分自身の姿勢を問われることの厳しさを日々感じている。

研究助成

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1. “Increases in strychnine-insensitive glycine binding sites in cerebral cortex of chronic schizophrenics – evidence for glutamate hypothesis.”（単、Biological Psychiatry, vol. 35: 84-95）	1994.3
	2. “Ethanol-induced apoptotic neurodegeneration and fetal alcohol syndrome.”（共、Science, vol. 287: 1056-1060）	2000.10
	3.『精神医学』（共、日本放送出版協会）	2002.4
近年の業績	（訳書）	
	1.『根拠にもとづく精神科薬物療法』（共、メディカル・サイエンス・インターナショナル）	2000.1
	（論文）	
	1. “Fine structure of rat liver, adrenal, testis and seminal vesicle in experimental emaciation.”（共、Journal of Electron Microscopy, vol. 47:251-262）	1999.6
	2.「興奮生アミノ酸仮説」（単、『こころの臨床ア・ラ・カルト』17 巻増刊号「精神疾患 100 の仮説」15-17）	1999.9
	3. “Distinguishing excitotoxic from apoptotic neurodegeneration in the developing rat brain.”（共、Journal of Comparative Neurology, vol. 408:461-476）	1999.4
	4. “Disseminated corticolimbic neuronal degeneration induced in rat brain by MK-801: potential relevance to Alzheimer’s disease.”（共、Neurobiology of Disease）	1999.5
	5.「グリシン」（単、『臨床精神薬理』2 巻:1417-1422）	1999.12
	6.「分裂病の神経発達異常仮説 – 早期介入の意義に関連して – 」（単、『臨床精神薬理』3 巻:211-219）	2000.3
	7. “Apoptosis in the in vivo mammalian forebrain.”（共、Neurobiology of Disease, vol. 8:359-379）	2001.2
	8.「ロジャーズとバイステック – 予備的考察」（単、桜美林論集　第 29 号：79-89）	2002.3
	（学会発表）	
	1. “CNS Apoptosis: how shall it be defined and recognized?”（Annual Meeting of the Society for Neuroscience）	1998.11
	2. “Histological characterization of apoptotic neurodegeneration induced in the developing rat CNS by alcohol and PCP”（Annual Meeting of the Society for Neuroscience）	1998.11
	3.「ダイオキシン投与による幼若ラット視床下部の脳細胞死」（日本神経科学学会）	2002.7
	（その他活動等）	
	1. 放送出演「精神医学」（NHK 放送大学院、『臨床心理学』放送教材）	2002.4～

氏　名	小宮山　要（こみやま　かなめ）	所　属	文学部
		職　位	教授
	KOMIYAMA, Kaname	学　位	教育学博士

専門分野 研究テーマ	非行犯罪心理学 青少年の薬物乱用防止に関する研究
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本青年心理学会、日本児童学会、日本小児保健学会、日本児童育成学会

略歴	学歴	1958 年 3 月　山梨大学教育学部卒業 1963 年 3 月　青山学院大学大学院文学研究科修士課程修了
	主な職歴	1963 年 4 月～1987 年 3 月　警察庁科学警察研究所技官 1987 年 4 月～1993 年 3 月　桜美林短期大学教授 1993 年 4 月～　同　大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動		日本児童育成学会理事
主要担当科目		（大学院）　学校臨床心理学特論 （学部）　人間関係論、異常心理学

教育研究等活動

＜研究＞児童・生徒の逸脱行動の背景要因について研究を続けている。

＜教育＞授業で学習した内容、事柄は学生の日常生活に応用できるよう授業の具体化に力を入れている。

研究助成	1998 年～2001 年度文部省科研費基盤研究 C 「児童･生徒のシンナー、覚せい剤等薬物乱用防止に関する心理・社会・医学的研究」

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『青年心理学ハンドブック』（共、福村出版）	1991.2
	2.『間違いだらけのいじめ指導』（単、明治図書）	1996.10
	3.「中学･高校生の薬物乱用に対する教師の認識と薬物乱用の予防軍の特徴」（共、『桜美林論集』第 28 号）	2001.3
近年の業績	（著書）	
	1.『青年心理学』（共、田研出版）	2002.10
	（論文）	
	1.「子どもの薬物乱用」（単、『小児科』42 巻）	2001.9
	（その他の活動）	
	1. 新聞発表：「中・高校生の覚せい剤乱用」（日本経済新聞）	2000.4
	2. 放送出演：「薬物乱用」（神奈川テレビ）	2001.6
	3. 講演：「児童,生徒の理解と指導」（神奈川県教育委員会）	2002.7

氏　名	久保田（くぼた）　圭作（けいさく）（圭伍（けいご））	所　属	文学部
		職　位	教授
	KUBOTA, Keisaku (Keigo)	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	宗教心理学（心理学・宗教学） 宗教的パーソナリティの心理学的研究		
所属学会	日本宗教学会、日本心理学会、日本健康心理学会、日本トランスパーソナル心理学・精神医学会		

略歴	学歴	1961 年 3 月　早稲田大学第一文学部心理学科卒業 1964 年 3 月　東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程修了
	主な職歴	1968 年 4 月～1977 年 3 月　桜美林大学文学部・同短期大学専任講師 1977 年 4 月～1985 年 3 月　同　一般教育助教授 1982 年 4 月～1985 年 3 月　東京女子大学文理学部ならびに同大学院文学研究科講師 1985 年 4 月～　桜美林大学一般教育教授 1987 年 4 月～1991 年 3 月　同　学生部長 1993 年 4 月～　同　大学院国際学研究科教授
	受賞	
学界活動 社会活動	日本宗教学会評議員、日本健康心理学会理事、同学会資格認定制度委員、同学会『ヘルス・サイコロジスト』編集委員、日本トランスパーソナル心理学・精神医学会理事	
主要担当科目	（大学院）　比較宗教学、個別演習 （学部）　心理学、宗教心理学、人間性心理学	

教育研究等活動

＜研究＞宗教がパーソナリティの形成と自己実現にどのように関わっているかについて、主としてユングの分析心理学の視点から研究。

＜教育＞学部では、健康心理学科の基礎科目である「心理学」のほか、「宗教心理学」「人間性心理学」を担当する。大学院では、「比較宗教学」を担当し、宗教思想、個人の宗教体験がそれぞれの宗教によってどのような異同があるかを比較考察する。講義を中心にすすめるが、受講者は自分に関心のあるテーマを選んで研究し、レポートを提出する。必要な文献はそのつど紹介している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「自己実現理論と宗教」　（共、『現代宗教学』第 1 巻、東大出版会）	1992.6
	2.「ユングの宗教心理学」　（単、『アズ』第 34 号、新人物往来社）	1995.2
	3.「自己実現と自己超越」　（単、『桜美林論集』20 号）	1993.3
	4.「C. G. ユングと東洋思想」　（単、『国際文化研究』第 7 号、桜美林大学国際文化研究所）	1986.3
近年の業績	（著書）	
	1.『最新・心理学序説』　（共編著、金子書房）	2002.4
	2.『健康心理学概論』　（共、実務教育出版）	2002.5
	（論文）	
	1.「聖概念の宗教心理学的考察」　（単、『桜美林論集』第 27 号）	2000.3
	2.「信仰治療をめぐって－宗教による癒しの－考察－」　（単、『桜美林論集』第 28 号）	2001.3
	（その他活動等）	
	1. 早稲田大学オープンカレッジ講師	2001.10～11
	2. 日本健康心理学会研修会講師	2001.9
	3. 早稲田大学オープンカレッジ講師	2002.9～10

氏　名	森（もり）　和代（かずよ）	所　属	文学部
		職　位	教授
	MORI, Kazuyo	学　位	学術博士
専門分野 研究テーマ	発達心理学、教育心理学、健康心理学 達成動機とソーシャルサポート、女性の健康な発達と月経		
所属学会	日本発達心理学会、日本教育心理学会、日本健康心理学会など		

略歴	学歴	1969 年 3 月　慶応義塾大学文学部英文学科卒業 1982 年 3 月　日本女子大学家政学部通信教育課程児童学科卒業 1985 年 3 月　同　大学院家政学研究科児童学専攻修了 1996 年 3 月　同　大学院人間生活学研究科人間発達学専攻修了
	主な職歴	1969 年 4 月～1973 年 12 月　タイムライフ社勤務 1987 年 4 月～1992 年 3 月　江戸川学園豊四季専門学校非常勤講師 1988 年 4 月～1997 年 3 月　和泉短期大学非常勤講師 1988 年 4 月～　横浜市(緑区など)保健所幼児心理相談員 1991 年 4 月～　日本女子大学家政学部通信教育レポート添削員 1997 年 4 月～2000 年 3 月　桜美林短期大学生活文化学科助教授 1998 年 4 月～　慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス非常勤講師 2000 年 4 月～　桜美林大学文学部健康心理学科助教授 2002 年 4 月～　同　教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目	（大学院）　生涯発達と健康教育特論、女性の健康心理学特論、個別演習 （学部）　生涯発達心理学、家族心理学、教育心理学、心理学基礎実験、専攻演習	

教育研究等活動

＜研究＞幼児期・児童期におけるソーシャルサポートと達成動機、および、女性の健康な発達にかかわる月経を主な研究テーマとしてきた。最近は月経研究に比重が移っている。

＜教育＞学部学生には心理学の基礎を身に付けさせることに重点を置いて指導を行っている。授業では視聴覚教材なども利用し、興味関心を喚起するよう工夫をしている。専攻演習では附属幼稚園での見学実習も含め、発達の実際を把握できるようにしている。

一方、院生に対しては、最新の先行研究を取り上げ、研究方法の修得や研究態度の育成をはかっている。

研究助成	2001 年度桜美林大学出版助成『幼児期･児童期におけるソーシャルサポートと達成動機に関する研究』風間書房

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「児童中期の自主性と原因帰属」 （単、『教育心理学研究』36 巻 1 号 pp45-50、日本教育心理学会）	1988.3
	2.「児童のソーシャルサポートに関する一研究」 （共、『教育心理学研究』40 巻 4 号 pp402-410、日本教育心理学会）	1992.12
	3.「絶望感に対するソーシャルサポートと達成動機の効果」 （共、『心理学研究』68 巻 3 号 pp197-202、日本心理学会）	1997.8
近年の業績	（著書） 1.『幼児期･児童期におけるソーシャルサポートと達成動機に関する研究』（単、風間書房）	2002.3
	2.『最新･心理学序説』（共、金子書房）	2002.4
	3.『健康心理学概論』（共、金子書房）	2002.5
	（論文） 1.「月経前症状の即時的記録法の検討」 （共『女性心身医学』5 巻 pp31-37 日本女性心身医学会）	2000.6
	（学会発表） 1.「パニック障害をもつ女性患者の月経周期に伴う心身症状の即時的記録」 （第 31 回日本女性心身医学会学術集会）	2002.8

氏　名	中村（なかむら）　延江（のぶえ）	所　属	大学院
		職　位	教授
	NAKAMURA, Nobue	学　位	心理学博士

専門分野 研究テーマ	臨床心理、医療心理
所属学会	日本心身医学会、日本心理学会、日本心理臨床学会、健康心理学会 日本交流分析学会、日本自律訓練学会、日本行動医学会

略歴	学歴	1968 年 3 月　早稲田大学第一文学部哲学科心理学専修卒業 1993 年 3 月　筑波大学大学院教育研究科修士課程終了 2002 年 6 月　米国イオンド大学博士課程修了
	主な職歴	1974 年～1996 年　日本大学医学部付属板橋病院心療内科臨床心理担当 1996 年～2002 年　山野美容芸術短期大学美容保健学科教授 1988 年～　中央心理研究所所長 1993 年～　日本大学医学部第一内科学教室兼任講師 1991 年～　早稲田大学法学部非常勤講師 2002 年 4 月～　桜美林大学大学院国際学研究科人間科学専攻臨床心理学専修教授
	受賞	

学界活動 社会活動	日本交流分析学会理事及び資格審査委員会委員、日本心身医学会評議員、日本心理学会評議員、日本自律訓練学会評議員
主要担当科目	（大学院）　臨床心理査定法演習・臨床心理基礎実習 （学部）　家族心理学

教育研究等活動

＜研究＞ カウンセリングの教授法についての研究
自律高齢者の QOL 工場に及ぼす介入方法の検討
バウムテストをはじめとする投影法による思春期の自己像の検討
心身症への心理的アプローチの検討

研究助成	1999 年～2001 年　厚生科学研究研究班「子供の心身症の研究」

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『一般医のための心身医学療法』　（共、医学書院）	1998
	2.『はじめて学ぶ心理学』　（共、アートアンドブレーン）	2000
	3.『子育ての心理学』　（単、KK ベストセラーズ）	1999
近年の業績	1.『女性のストレス対処法　（単、新星出版）	2001
	2.「思春期の心の問題とセルフイメージバウムテスト・PF スタディによる検討」（単、『小児科学会誌』105(12)）	2001
	3.「福祉専攻の学生のストレス要因－美容専攻の学生との比較」（単、『ストレス科学』15(4)）	2001
	4.「自律訓練法の新しい適用」（単、『領域自律訓練研究』18(2)）	2000
	5.「日常診療の中で心理をどう捉えるか」（単、『プライマリィ・ケア』22(3)）	2000
	6. Damage of belief in gender role and psychosomatic disease in middleadulthood :Examination ofpsychological approach（単、Journal Psychosomatic Medicine 1999）	1999

氏　名	新田（にった）　泰生（やすお）	所　属	文学部
		職　位	教授
	NITTA, Yasuo	学　位	文学修士
専門分野 研究テーマ	臨床心理学、人間性心理学、コミュニティ心理学 フォーカシング、産業カウンセリング、ナラティブ・アプローチ		
所属学会	日本心理臨床学会、日本人間性心理学会、日本産業カウンセリング学会、 日本心理学会、日本学生相談学会		

略歴	学歴	1974 年 3 月　早稲田大学第一文学部卒業 1978 年 3 月　　同　　文学研究科修士課程心理学専修修了
	主な職歴	1978 年 4 月～　1980 年 3 月　宝仙学園短期大学助手 1980 年 4 月～　1987 年 3 月　　同　　専任講師 1987 年 4 月～　1996 年 9 月　　同　　助教授 1996 年 10 月～ 2000 年 3 月　　同　　教授 2001 年 4 月～　　桜美林大学教授
	受賞	
学界活動 社会活動		日本人間性心理学会常任理事および企画活動委員長、日本産業カウンセリング学会理事、 日本臨床心理士会産業領域副委員長、横浜市教育総合相談センター・スクールスーパーバイザー
主要担当科目		（大学院）　臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ、臨床心理面接特論Ⅱ、臨床心理基礎実習、臨床心理実習 （学部）　臨床心理学、文化心理学

教育研究等活動

＜研究＞個人と組織の葛藤と適合の視点から産業組織のメンタルヘルスやカウンセリングを研究している。また、フォーカシングを実践的に研究している。

＜教育＞学部生には臨床心理学の基礎を、ゼミ生にカウンセリングの実践を訓練。院生にはカウンセリング･ロールプレイの実習を通じて心理臨床家としての自己理解、自己分析を促すと共に、臨床心理学の新しい視点の獲得を試みつつある。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『社会臨床心理学』講座臨床心理学 6　（共、東京大学出版会）	2002
	2.「教育研修を中心とした企業相談室の開設とその後の運営」（単、『産業カウンセリング研究』3）	1999
	3.「組織のメンタルヘルスへのコミュニティ･アプローチ」（単、『人間性心理学研究』15<1>）	1997
	4.「組織との物語作りからみた個人と組織との関係」（単、『人間性心理学研究』14<2>）	1996
	5.「組織への依存をめぐって」（単、『人間性心理学研究』12<1>、人間性心理学会）	1994
近年の業績	（著書）	
	1.『プロセス指向心理学入門』（共、春秋社）	2001
	2.『産業カウンセリングハンドブック』（共、金子書房）	2000
	3.『カウンセリングの技法』（共、北樹出版）	2000
	4.『カウンセリングの実習』（共、北樹出版）	1998
	（論文）	
	1.「コミュニケーション能力養成を目的とした体験学習による授業」（単、『宝仙学園短期大学紀要』23）	1998
	2.「行動主義心理学と人間性心理学との対話」（共、『人間性心理学研究』17<2>）	1999
	3.「カウンセリングにおける物語論の多面性」（単、『宝仙学園短期大学紀要』24）	1999
	4.「精神分析と人間性心理学との対話」（共、『人間性心理学研究』18<2>）	2000
	5.「フォーカシングにおける情動とのかかわりと介入について」（単、『宝仙学園短期大学紀要』25）	2000
	6.「フォーカシングとプロセス指向心理学の類似性」（単、『桜美林論集』28）	2001

氏　名	阪上（さかがみ）　裕子（ひろこ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	SAKAGAMI, Hiroko	学　位	家政学修士
専門分野 研究テーマ	発達障害家族研究、保健医療福祉研究		
所属学会	日本家族研究・家族療法学会、日本社会福祉学会、日本発達障害学会、 日本人間性心理学会		

略歴	学歴	1960 年 3 月　神戸女学院大学文学部社会学科卒業 1962 年 3 月　大阪市立大学家政学部修士課程修了（社会福祉学専攻） 1963 年 1 月　フランスパリ大学文学部博士課程入学（社会心理学専攻） 1965 年 6 月　同　中退
	主な職歴	1966 年 4 月～ 1968 年 3 月　神戸女学院大学文学部社会学科助手 1968 年 4 月～ 1969 年 11 月　同　専任講師 1968 年 12 月～ 1973 年 3 月　国立公衆衛生院衛生行政学部社会保障室研究員 1973 年 4 月～ 1996 年 3 月　同　主任研究官 1993 年 7 月～ 1994 年 4 月　米国カリフォルニア州立大学医学部精神神経研究所客員研究員 1996 年 12 月～ 1998 年 3 月　国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部室長 1998 年 4 月～ 現在　桜美林大学経営政策学部教授（社会福祉マネージメントコース）
	受賞	
学界活動 社会活動	横浜福祉ネットワークオンブズパーソン（知的障害児者施設オンブズマン）、 川崎市社会福祉審議会委員（身体障害者福祉部門）	
主要担当科目	（大学院）　障害者福祉特論 （学部）　社会福祉援助技術各論１、障害者福祉論、インターネットとバリアフリー社会（総合科目）	

教育研究等活動

＜研究＞1993 年より、発達障害児の家族適日米比較研究を継続してきた。学齢児の家族について個別訪問調査、グループ調査により、日米の文化的、制度的相違が家族に及ぼす影響を考察した。

＜教育＞社会福祉専門科目では、ロールプレイなど体験学習法により、理論と技術の統合的教育を重視している。障害者に関連する２科目では、共生社会の担い手となり得る福祉専門職と市民の養成を目指し、基本的知識と共感に基づく障害者観を重視している。大学院では、発達障害児者の社会的支援の課題を中心としている。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『難病患者のケースワーク』（共、メヂカルフレンド社）	1979.11
	2.『保健・医療ソーシャルワーク』（共、川島書店）	1985.5
	3.「発達障害児の家庭環境と家族の適応」（単、『家族療法研究』、13（3））	1996.12
近年の業績	1.『発達障害児家族サポートシステムのあり方に関する研究』（共、厚生省特別研究報告書）	1999.3

氏　名	坂田　澄（さかた　のぼる）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	SAKATA, Noboru	学　位	社会学修士
専門分野 研究テーマ	児童福祉思想、児童ソーシャルワーク、保育政策		
所属学会	日本社会福祉学会、日本保育学会、日本社会学会、日本家政学会、日本老年社会科学会、日本教育社会学会		

略歴	学歴	1968 年 3 月　明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業 1970 年 3 月　　同　　大学院社会学研究科修士課程社会福祉学専攻修了
	主な職歴	1987 年 4 月～1994 年 3 月　和泉短期大学児童福祉科教授 1994 年 4 月～1998 年 3 月　福山平成大学経営学部教授 1998 年 4 月～　桜美林大学経営政策学部教授
	受賞	
学界活動 社会活動		
主要担当科目		（大学院）　児童福祉特論 （学部）　児童福祉論、福祉思想と福祉政策

教育研究等活動

＜研究＞保育、児童養護の思想、保育、児童養護におけるソーシャルワーク
＜教育＞児童福祉分野におけるゼミでは、子ども理解についての理論と実践を踏まえて、一人ひとりの学生にあった指導を展開している。

研究助成	

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）		発表年月
主要業績	1.『子どもの社会性』	（単、相川書房）	1980.8
	2.『中江藤樹と熊沢蕃山にみる子育て観』	（単、蒲文書房）	1988.11
	3.『児童福祉の基礎と方法』	（共編、東京教科書出版）	1991.3
	4.『わが国の児童福祉の歩み』	（単、高文堂出版）	1995.6
	5.『展望、社会福祉援助技術』	（単、宣協社）	1996.1
近年の業績	（著書）		
	1.『社会福祉の三つの視点』	（共編、宣協社）	1998.9
	2.『保育、養護におけるソーシャルワーク』	（単、宣協社）	1999.11
	3.『社会福祉実践の今日的課題』	（共、高文堂出版）	2000.6
	4.『人間理解の社会福祉援助技術』	（単、宣協社）	2001.3
	5.『養護原理』	（共、北大路出版、新訂）	2001.3
	6.『人間理解のケースワーク探究』	（単、宣協社）	2001.6
	7.『子どもの福祉と子育て』	（単、宣協社）	2002.4

266－国際学研究科／老年学専攻

氏　名	加瀬　裕子（かせ　ひろこ）	所　属	経営政策学部
		職　位	教授
	KASE, Hiroko	学　位	社会学修士

専門分野 研究テーマ	老年学、社会福祉援助技術論、ケアマネジメント論、高齢者の在宅ケア
所属学会	日本社会福祉学会、日本介護福祉学会、日本老年社会科学会、日本在宅ケア学会、日本医療福祉学会

略歴	学歴	1977 年 3 月　日本社会事業大学社会福祉学部卒業 1980 年 3 月　日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学専攻博士課程前期修了
	主な職歴	1979 年 4 月～　1980 年 3 月　東海大学医学部整形外科学教室事務助手 1980 年 12 月～ 1988 年 1 月　武蔵野市福祉公社ソーシャルワーカー 1988 年 1 月～　1996 年 3 月　日本社会事業学校専任教員 1992 年 10 月～ 1993 年 3 月　ニューサウスウエールズ大学（豪）客員研究員 1996 年 4 月～　2000 年 3 月　桜美林大学助教授 1996 年 10 月～ 1997 年 3 月　ミシガン大学（米）客員研究員 2000 年 4 月～　桜美林大学教授
	受賞	

学界活動 社会活動	日本社会福祉学会査読委員、日本在宅ケア学会理事・編集委員、大田区福祉オンブズマン、町田市介護保険計画検討委員、横浜市福祉サービス協会評議員、ＮＰＯ事務局長
主要担当科目	（大学院）　ソーシャルワーク論、老年福祉論 （学部）　介護概論、福祉科教育法Ⅰ、福祉科教育法Ⅱ、ビジネスの基礎

教育研究等活動

＜研究＞在宅ケアとケアマネジメントの国際比較の視点から、日本の高齢者ケアの変遷について分析研究を行ってきた。最近は、実証研究によって明らかになった根拠に基づき、ケアマネジメントのガイドラインを開発することを研究課題としている。

＜教育＞学部学生には、問題解決能力と組織化の能力を養うことを目標に、福祉現場の実践に触れさせながら教育を行っている。院生には、他の専門職との専門性の違いを意識しつつ、連携したアプローチを行える高度専門職の養成を主眼とした教育を行っており、基本的な文献の読破と実践への応用をスーパービジョンしている。

研究助成	1991 年～1993 年　厚生省長寿科学研究「ケースマネジメントに関する研究」主任研究員 2001 年～2002 年　厚生労働省 21 世紀型医療開発事業「アルツハイマー型痴呆の診断、治療、ケアに関するガイドラインの開発」共同研究者

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「Case Management in Home Care Service in Japan」Stopp,G.H.,International Perspectives on Health Care for the Elderly　（単、Peter Lang Publishing）	1994.3
	2.『チームケアとチームワーク』　（共、長寿社会開発センター）	1997.3
	3.「社会福祉専門職の研修課題設定をめざした計量的研究」（単、『社会福祉システムの改革』日本社会事業大学）	1997.3
近年の業績	（著書） 1.『社会福祉原論』　（共、中央法規出版）	2001.3
	（論文） 1.「介護保険におけるケアマネジメントの課題」（単、『新・介護福祉学とは何か』ミネルバ書房）	2000.9
	2.「介護保険の課題と展望～オーストラリアの在宅ケアとの比較から」（単、『日本在宅ケア学会誌　5 巻 1 号』）	2001.12

氏　名	野尻（のじり）　雅美（まさみ）	所　属	大学院
		職　位	教授
	NOJIRI, Masami	学　位	医学博士
専門分野 研究テーマ	疫学、公衆衛生学、健康医学 生態的健康論、ヘルスプロモーション、生活習慣病		
所属学会	日本健康医学会、日本公衆衛生学会、日本疫学会		

略歴	学歴	1961 年 3 月　千葉大学医学部卒業 1962 年 3 月　国立東京第一病院にて医学実地訓練を修了 1962 年 5 月　医師国家試験合格 1966 年 3 月　千葉大学大学院医学研究科社会医学系公衆衛生学専攻修了、医学博士（千葉大学）
	主な職歴	1962 年 4 月～1971 年 3 月　厚生省医員（国立東京第一病院） 1971 年 4 月～1974 年 3 月　千葉大学養護教諭養成所助教授（予防医学） 1975 年 4 月～1979 月 3 月　山形大学医学部助教授（公衆衛生学） 1979 年 4 月～2002 年 3 月　千葉大学看護学部教授（保健学） 2002 年 4 月～　桜美林大学大学院国際学研究科教授（老年学専攻）
	受賞	2001 年　功労賞（静岡県西伊豆町）
学界活動 社会活動		日本健康医学会理事、日本農村医学会理事、日本公衆衛生学会会員、日本疫学会会員 千葉市社会福祉審議会委員（老人福祉分科会委員長）、千葉市介護保険運営協議会委員（委員長）
主要担当科目		（大学院）　老年ヘルスプロモーション特論Ⅰ、老年学研究法特論Ⅱ、個別演習 （学部）　救急処置

教育研究等活動

＜研究＞静岡県西伊豆の 1 町 1 村を 40 年間にわたり研究フィールドとし、主としてコホート研究を行っている。生活習慣病や痴呆のリスク要因に関する疫学研究、健康の関連要因の疫学研究、家族の健康管理に関する研究などを行ってきた。更に最近は、21 世紀の健康観として未来志向の生態的健康観を広く論じている。

＜教育＞老年ヘルスプロモーション特論Ⅰではヘルスプロモーションの基礎と応用について論述する。主要な内容は生態的健康観、オタワ憲章、グリーンのヘルスプロモーション理論、健康日本 21、などである。老年学研究法討論では集団的科学的方法である疫学的方法の原理と方法について論述する。

研究助成	1994～1996 年度　厚生科学研究費補助金事業「農村におけるライフスタイルの分析とヘルスプロモーション技法の開発に関する研究」（総合）分担研究者 1997～1999 年度　文部省科学研究費補助金基盤研究（B）「ぼけ・ねたきり老人の予知と予防に関する疫学的研究」主任研究者

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「21 世紀の公衆衛生、未来志向 Future based の環境行動」（『日本公衛誌』47(6)）	2000.6
	2.「「ぼけ」のリスク要因について－静岡県N町K村における 1985 年健診コホートの 10 年後の生活・生命予後－」（『看護研究』34（1））	2001.2
近年の業績	（著書）	
	1.『保健学－疫学と保健統計』　（共編、真興交易医書出版部）	1999.5
	2.『公衆衛生学』　（共編、真興交易医書出版部）	1993.4
	（論文）	
	1.「疫学的方法とは－集団的科学的研究法のエッセンス」（単、『看護研究』34(1)）	2001.2
	2.「Risk factors for desth from lifestyle-related diseases: a 10-year follow-up study subjects who underwent health examination in Shizuoka prefecture in 1985」（『千葉医学』78(1)）	2002.1
	3.「静岡県 N 町 K 村における昭和 60 年健診コホート 10 年の生活・生命予後(1) 全死亡のリスク要因」（『千大看紀要』21）	1999.3
	4.「老人の健康状態－賀茂村健診コホート 20 年の成績」（共、『千大看紀要』15）	1992.3
	5.「静岡県西伊豆地域住民の健康と生活に関する実態調査」（共、『千大看紀要』18）	1995.3
	6.「農村医学の歴史と 21 世紀の展望」　共、農村におけるヘルスプロモーションの成果と課題、日本農村医学会雑誌 50 特別号、日本農村医学会	2002.3
	7.「文化と健康生態 1、農村の健康生態-海辺から」（単、『公衆衛生』66（9））	2002.9
	（学会発表）	
	1.「家族の健康管理に関する研究(4) 配偶者の状態別（元気と死亡）」の生活満足度について」（日本健康医学会雑誌 8(2)）	1999.10
	（翻訳）	
	1. ストレイナー、ノーマン『論文が読める早わかり疫学』（共訳、MSI）	2000.11
	2. ストレイナー、ノーマン『論文が読める早わかり統計学』（共訳、MSI）	1999.1

氏　名	長田（おさだ）　久雄（ひさお）	所　属	大学院
		職　位	教授
	OSADA, Hisao	学　位	文学修士・博士（医学）

専門分野 研究テーマ	老年心理学、健康心理学、生涯発達心理学、臨床心理学 ライフ・ステージ各段階の健康と適応、生活の質に関する研究
所属学会	日本心理学会、日本老年社会科学会、日本健康心理学会など

略歴	学歴	1975 年 3 月　同志社大学文学部卒業 1979 年 3 月　早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了
	主な職歴	1981 年 5 月～1986 年 2 月　東京都老人総合研究所心理精神医学部助手 1986 年 3 月～1998 年 3 月　東京都立医療技術短期大学 専任講師･助教授･教授 1998 年 4 月～2002 年 3 月　東京都立保健科学大学保健科学部教授 2002 年 4 月～　桜美林大学大学院国際学研究科教授
	受賞	
学界活動 社会活動		日本老年心理学会理事、日本健康心理学会理事、（財）ぼけ予防協会評議員など
主要担当科目		（大学院）　老年心理学特論、ヒューマン・ケア心理学特論、老年学研究法特論、老年学実習

教育研究等活動

＜研究＞ライフ・ステージや疾病、障害の背景が異なる人々の生活の質とその関連要因を、生涯発達心理学、健康心理学、臨床心理学の観点から研究している。

＜教育＞大学院修士課程の学生に対して、講義による知識、情報の提供だけでなく、文献の収集、研究計画の立案、結果の解析、発表など実証的研究の進め方を体験する機会の提供に努めている。

研究助成	2001 年度～厚生労働科学研究費『アルツハイマー型痴呆の診断・治療・ケアに関するガイドラインの作成』 2002 年度～厚生労働科学研究費『高齢者の社会参加に関連する要因の解明と支援システムの構築に関する研究』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『間違いだらけの老人像』　（共、川島書店）	1985.9
	2.『実証研究の手引き』　（共、ワールドプランニング）	1992.7
	3.「後期高齢者の抑うつ状態と関連する身体機能および生活活動能力」（共、『日本公衆衛生雑誌』、42:10、897-909）	1995.10
近年の業績	（著書）	
	1.『パーソナリティ発達論』　（共、金子書房）	2000.3
	2.『精神医学テキスト』　（共、南江堂）	2000.3
	（翻訳）	
	1.『高齢者のための心理療法入門』　（監訳、中央法規）	2000.4
	（論文）	
	1.「The Relationship Between Psychological Well-Being and Physical Functioning in Japanese Urban and Rural Older Adults.」（共、『Journal of Aging and Physical Activity. 』Vol.8No.2.）	2000.4
	2.「精神分裂病患者に対する心理学的アセスメントの基礎的研究」（単、『桜美林論集』第 28 号、桜美林大学）	2001.3
	3.「行動科学教育の意義と役割、今後の展開」（単、『行動科学』第 32 巻第 2 号、日本行動科学学会）	2001.
	4.「低身長児とその家族におけるメンタルヘルスに関する研究」（共、『ストレス科学研究』、パブリックヘルスリサーチセンター）	2001.3
	5.「地域高齢者のための QOL 質問表の開発と評価」（共、『日本公衆衛生雑誌』第 48 巻第 4 号、日本公衆衛生学会）	2001.4
	6.「高齢者疑似体験プログラムの心理的効果」（単、『東京保健科学学会誌』第 4 巻第 1 号、東京保健科学学会）	2001.6
	7.「加齢に関する心理学的研究について」（単,『理学療法科学』第 17 巻第 3 号、理学療法科学学会）	2002.5
	8.「高齢者の QOL に対する身体活動習慣の影響」（共、『日本公衆衛生雑誌』第 49 巻第 6 号、日本公衆衛生学会）	2002.6
	9.「高齢者のうつ病・うつ状態　その状況と対応の概要を中心に」（単、『作業療法ジャーナル』第 36 巻第 8 号、三輪書店）	2002.8

氏　名	柴田　博（しばた　ひろし）	所　属	文学部
		職　位	教授
	SHIBATA, Hiroshi	学　位	医学博士
専門分野 研究テーマ	老年学、老化に関する学際的縦断研究		
所属学会	日本老年学会、日本老年社会科学会、日本老年医学会		

略歴	学歴	1965 年 3 月　北海道大学医学部卒業
	主な職歴	1966 年 5 月～1972 年 3 月　東京大学医学部第四内科医員 1972 年 4 月～1975 年 1 月　東京都老人医療センター医員 1975 年 2 月～1982 年 3 月　戸田市立健康科センター医長 1982 年 3 月～　東京都老人総合研究所 1993 年 6 月～　同　副所長 2000 年 4 月～　桜美林大学教授 2002 年 4 月～　同　大学院兼担
	受賞	2000 年　日本文化振興会国際文化栄誉賞
学界活動 社会活動	日本老年学会理事、世界高齢者団体連盟理事、内閣府委員	
主要担当科目	（大学院）　老年学、老年医学、ヘルスプロモーション （学部）　老年学、学校保健学	

教育研究等活動

＜研究＞過去 30 年老化に関する学際的縦断研究を遂行してきた。特に、長寿、QOL、社会貢献の規定要因に焦点を当てている。

＜教育＞2002 年 4 月より日本で初めての学際的老年学の修士課程をスタートさせた。産官学民のあらゆるセクターに老年学の理念を広めることを目指している。

研究助成	1999 年～　文部科学省「生活基盤研究」受託 2000 年～　厚生労働省 長寿科学研究振興財団 2001 年～　科学費基盤研究 A

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.『老人保健活動の展開』（編著、医学書院）	1992.6
	2.『高齢者の疾病と栄養』（編著、建帛社）	1996.3
	3.『Longitudinal Interdisciplinary Study on Aging』（共編著、Serdi, Paris）	1997.7
近年の業績	（著書）	
	1.『８割以上の老人は自立している！』（単、ビジネス社）	2002.1.
	2.『若さを保つシニアの食卓』（共、保健同人社）	2002.9.
	（論文）	
	1.「Functional capacity in elderly Japanese living in the community」（共、Geriatrics and Gerontology International, 1:8-13,2001）	2001.4.
	2.「Nutrition and Longevity」（共、Reviews in Clinical Gerontology, 12:97-107,2002）	2002.10.
	（学会発表）	
	1.シンポジウム「栄養改善」日本老年医学会	2002.6.
	（その他活動等）	
	1. 世界高齢者団体連盟理事会	2002.10.
	2. NHK ラジオ　ラジオあさいちばん健康ライフ「老いを前向きに」	2002.10.28~11.1

270－国際学研究科／老年学専攻

氏　名	杉澤（すぎさわ）　秀博（ひでひろ）	所　属	大学院
		職　位	教授
	SUGISAWA, Hidehiro	学　位	保健学博士

専門分野 研究テーマ	老年社会学、保健社会学 中高年者の健康格差の社会的要因、介護保険制度の評価
所属学会	日本老年社会科学会、米国老年学会、日本公衆衛生学会

略歴	学歴	1978 年 3 月　東京薬科大学薬学部薬学科卒業（薬学学士） 1983 年 3 月　東京大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程修了（保健学修士） 1987 年 3 月　同　博士課程単位取得満期退学 1987 年 7 月　保健学博士の学位授与（東京大学　博医 653 号）
	主な職歴	1987 年 9 月～1995 年 3 月　東京都老人総合研究所保健社会学部門研究員 1995 年 4 月～2002 年 3 月　同　主任研究員 2002 年 4 月～　桜美林大学大学院国際学研究科老年学専攻教授
	受賞	1998 年　日本公衆衛生学会奨励賞、川井記念賞受賞
学界活動 社会活動		町田市介護保険認定審査委員、日本公衆衛生学会査読委員
主要担当科目		（大学院）　老年社会学、統計解析法特論

教育研究等活動

＜研究＞ ①中高年者の健康格差を生み出す社会的要因について,長期縦断調査のデータベースを活用して解明する。
②利用者である要介護高齢者とその家族の側から介護保険制度の有効性を評価する。
③高齢者のねたきり予防、生活自立度の維持を目指した地域資源開発のプログラムの開発を、自治体と共同して行う。

＜教育＞ 教育の目標は、大学院生が修士課程で取り組んだ研究成果を学術誌に投稿し、活字として残すことにある。それを実現するため、授業や個別演習は、理論だけでなく具体的な研究事例をできるだけ多く紹介し、実践的なものとするように心がける。

研究助成	1998 年～2001 年度　文部科学省科学研究費基盤研究 B『高齢者の健康と私的支援および保健福祉サービス利用の相互関連』 2001 年～2003 年度　厚生労働省厚生科学研究費『高齢者・家族からみた介護保険制度の評価』 2001 年～2003 年　文部科学省科学研究費基盤研究 B『高齢者の健康・保健福祉サービス利用の階層差』

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「Social networks, social support, and mortality among older people in Japan」（共、『Journal of gerontology』49〈1〉）	1994.1
	2.「健康度自己評価に関する研究の展開－米国での研究を中心に」（共、『日本公衆衛生雑誌』42〈6〉）	1995.1
	3.「地域における健康関連のセフル・ヘルプ・グループの設立経過と現状」（単、『日本公衆衛生雑誌』42〈10〉）	1995.10
	4.「予防的な視点から見た高齢者の健康ニーズの把握－高齢者の健康づくりに向けて」（単、『生活教育』44〈4〉）	2000.4
	5.「地域・職域における高齢者の社会参加の日米比較」（共、『日本労働研究雑誌』487）	2001.1
近年の業績	（論文）	
	1.「健康な老後を送るための社会的・心理的条件」を『ESTRELA』に 12 回にわたって連載	1998.11
	2.「前期および後期高齢者における身体的・心理的・社会的資源と精神健康」（共、『日本公衆衛生雑誌』47（7））	2000.7
	3.「高齢者における医療機関選択に関連する要因」（共、『日本公衆衛生雑誌』47(11)）	2000.10
	4.「中高年の職業ストレスといきがい、健康」（単、『中央調査報』527）	2001.9
	5.「介護保険制度下における在宅介護サービスの過少利用の要因」（共、『日本公衆衛生雑誌』49〈4〉）	2002.4
	6.「Transitions in living arrangements among elders in Japan: Does health make a difference?」（共、『Journal of Gerontology』57B(4)）	2002.4
	（講演）	
	1. 東京都老人総合研究所第 63 回老年学公開講座・講師	2000.11
	2. 第 14 回国際長寿科学シンポジウム「夢ある未来長寿社会を目指して－75 歳以後も元気で過ごすために」パネリスト	2001.10
	（社会活動）	
	1. 内閣府「高齢者の生活と意識」第５回国際比較調査	2001.4

氏　名	渡辺（わたなべ）　修一郎（しゅういちろう）	所　属	大学院
		職　位	助教授
	WATANABE, Shuichiro	学　位	医学博士
専門分野 研究テーマ	老年学、老年医学、衛生・公衆衛生学、産業医学 身体健康指標の縦断変化とその関連要因に関する研究		
所属学会	日本衛生学会、日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会、日本疫学会、 日本老年社会科学会、日本体力医学会、日本老年医学会、他		

略歴	学歴	1986 年 3 月　愛媛大学医学部医学科卒業 1990 年 3 月　　同　大学院医学研究科修了
	主な職歴	1990 年 4 月～1990 年 4 月　愛媛大学医学部附属病院第 2 外科医員 1990 年 4 月～1993 年 3 月　聖カタリナ女子短期大学非常勤講師（生理学，運動生理学） 1990 年 5 月～1993 年 3 月　愛媛大学医学部文部教官助手（衛生学） 1991 年 4 月～1993 年 3 月　愛媛県立医療技術短期大学地域看護学専攻非常勤講師（産業保健指導） 1993 年 4 月～2002 年 3 月　東京都老人総合研究所地域保健部門主任研究員 1993 年 4 月～2000 年 3 月　東京都立医療技術短期大学地域看護学専攻非常勤講師（疫学） 1994 年 3 月～1994 年 8 月　米国国立老化研究所およびジョンズホプキンズ大学客員研究員 2002 年 4 月～現在　桜美林大学大学院国際学研究科老年学専攻助教授
	受賞	1999 年　第 6 回東京都老年学会最優秀発表賞(共)、同優秀発表賞(共)、2001 年　都知事表彰(共)
学界活動 社会活動		日本疫学会評議員、日本公衆衛生学会査読委員、二本松市国保ヘルスアップモデル事業実施本部員、 健康北沢プラン策定委員
主要担当科目		（大学院）　老年医学特論、老年学実習 （学部）　医学一般、衛生学、公衆衛生学、学校保健学

教育研究等活動

＜研究＞生体諸機能及び健康指標の加齢過程及びその修飾因子を明らかにする中で、生活習慣病や老年症候群の危険因子を解明し、予防法を確立するための研究を遂行している。また、地域の健康問題を明らかにした上で、地域介入を行い、健やかな高齢化社会の手立てや施策を樹立するための研究にも取り組んでいる。

＜教育＞学生自らの心身と発達への理解、疾病予防と健康増進へ向けた具体的行動も重視して各科目の講義を行っている。院生に対しては、老化と疾病およびケアに関する広い視野と深い学識を養うことを目標とした老年医学特論、老年学研究を遂行する能力を修得することを目標とした老年学実習を担当し、国際的・学際的な視点を重視した研究指導を行っている。要請に応じ健康づくりのための住民教育も活発に行っている。

研究助成	2000～　科研費：地域高齢者の老化遅延のための介入研究 2001～　厚生科研費：インターネットおよび情報端末機器を用いた中年期の健康づくり支援システムの開発 2001～　科研費：余命および活動的余命からみた高齢期における至適血清コレステロールレベル

	著書・論文・芸術スポーツ活動・教育成果等（単・共、出版社／掲載誌、巻号、団体名等）	発表年月
主要業績	1.「コミュニティヘルスアプローチの昨日、今日、明日」　（単、『公衆衛生』61 巻）	1997.3
	2.『サクセスフル・エイジング』　（共、ワールドプランニング）	1998.3
	3.「地域保健活動 21 世紀の焦点－高齢化」　（単、『保健婦雑誌』55 巻）	1999.11
	4.『中年からの老化予防に関する医学的研究』　（共、東京都老人総合研究所）	2000.3
	5.『高齢者におけるインフルエンザおよびその合併症の予防』　（共、東京都老人総合研究所）	2002.3
近年の業績	（著書）	
	1.『メガトライアルから学ぶ循環器疾患の治療』　（共、先端医学社）	1999.10
	2.『訪問入浴介護サービス従事者研修用テキスト』　（共、中央法規出版）	2001.4
	3.『系統看護学講座　専門基礎 8　公衆衛生』　（共、医学書院）	2002.3
	（論文）	
	1.「百寿の地域分布」　（共、『Geriatric Medicine』38 巻）	2000.9
	2.「寿命の性差－疫学：小金井研究」　（共、『Geriatric Medicine』38 巻）	2000.12
	3.「在宅ケアにおけるインフルエンザの予防と対応」　（単、『訪問看護と介護』6）	2001.2
	4.「在宅高齢者におけるインフルエンザ対策」　（共、『訪問看護と介護』6）	2001.9
	5.「高齢者における予防医学－疾病予防から QOL の向上へ－」　（共、『月刊薬事』43）	2001.9
	6.「高齢者の生活機能と体力」　（単、『ジェロントロジー　ニューホライズン』14）	2002.9
	（国際学会）	
	1.「Influenza prevention and control in the Special Nursing Home for the Aged in Japan.」（WHO International Symposium on Ageing and Health, Kobe）	1998.11
	2.「Longitudinal change in cognition in the elderly with impaired mobility at home.」（Sixth Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, Seoul）	1999.6
	3.「Optimal serum total cholesterol level in the Japanese elderly.」（17th Congress of the International Association of Gerontology, Vancouver）	2001.7
	（報告書）	
	1.『インターネットおよび情報端末機器を用いた中年期の健康づくり支援システムの開発』（共、厚生科学研究費補助金健康科学総合平成 13 年度報告書、東京都老人総合研究所）	2002.3
	（その他）	
	1.ラジオ解説「高齢者の感染予防対策」　（NHK 第 2 ラジオ）	1999.11
	2.テレビ解説「元気で長生きの秘訣」　（BS 朝日）	2000.12